滿洲日報

迎春の辭

歳華改まつて、此に昭和三年の新春を迎ふ。恭しく我　皇の萬壽を祝し奉り、皇宗の繁榮と國運の隆昌とを祈念する。

顧れば昭和二年は、新帝御宇の第一年ながら、擧國諒闇の憂愁に鎖され、沈滯の氛圍氣にあり、殊に財界は未曾有の動揺を現出し、其の波動全國に及び、金融は梗塞し、事業は破綻し、人心の萎微殆ど其の極に達した。加之、政變起り、百官更迭し政策改まり、內政頗る多事なりし一方、支那の內亂は觸々紛糾し、長江沿岸の暴動となり、我山東出兵となり、更に滿洲の排日となるなど、對支時局も亦た頗る多端のものがあつた。

今や諒闇の帳は撤せられ、昭和新政の榮光は燦として輝き初めた。叡聖文武、至仁至慈にましまず若き　天子を奉戴し、擧國潑溂の生氣を以て難關に處し、諸般の革新と國歩の進展に努めねばならぬ。

按ずるに昭和三年は我國として極めて多事であり又多倖の年であるべく豫想せらる。即ち、今秋を以て行はせらるゝ　今上陛下御即位の大禮は、皇國の歷史的一大盛典として中外の齊しく瞻仰する所、我國民は最も嚴肅なる態度を以て之に奉仕し、聖代の無疆を祈り奉るべきこと更めて言ふまでもない。

更に之を政界に見れば、今年は議會の解散と否とに拘らず、劃時代的の普通選擧が初めて實施せられ、形式的には國民參政の實が示される事になつた。然し乍ら普選其ものに依て國民の總意が政治の上に遺憾なく表現せらるゝや否や、國民の政治的自覺が果して普選を完全に運用し得るや否や、更に既成政黨が克く反省して民心を繋ぎ、新興勢力が克く團結して政界革新の陳臭たり得るや否や、我等は今日に於て尙多くの疑問を懷くと共に、國民各自が相警め、相勠力し、第一次の普選をして眞に意義あり光輝ある實果を收めしめなければならぬと思ふ。

又之を財界より見れば、數年來の不況は昨年の金融動亂を加へて特に甚しく、方にドン底に陷つたと言ふべく、世間は年と共に景氣の一陽來復を豫期して居るもの、如くである。如何にも金融界は漸く安定の域に近づき、貿易の入超は著しく減退したといふが如き事實は之を認めらるゝも、金融界は尙警戒の域を脫せずして、事業は興らず、貿易入超の減退は、輸出の增加に因らずして、輸入の減退に基き、貿易總額が前年より減少し居ることを見れば、單に入超の減退を悅ぶ譯には行かないのである。況や景氣の恢復の如きは、漫然たる希望や期待を以て實現せらるゝものにあらずして各人の努力の如何に因るといはねばならぬ。即ち冗費を節し、資金を充實すると共に、國民一致大に産業の興隆に努力するを必要とする、此の間政府の政策施設の如何が與つて力あること更めていふまでもない。

對支問題に至つては、今年は時に重大なる過程に進展すべきことを豫斷して憚らない。支那南北政團の抗爭が果して如何に展開して行くかは逆睹すべからざるも、克く時勢の流れに適應し、國際信義を確守するものが、內、民心を繋ぎ、外、列國の同情を贏ち得て終に大勢を支配するに至る事だけは何人も豫測し得る處である。而も南方政團は、時に無賴の徒を驅使して列國居住民の生命財産を脅威し、北方政團は、譎詐陰謀を事として我國の勢力を滿蒙より驅逐すべく妄に良民を煽動して居る。東より我國は支那中原の政權が如何なる人々の手に歸するも敢て干與すべき限りでないが、事苟くも滿蒙に於ける我既得勢圏に關する場合、斷乎として障害を排除し、秩序の維持、權益の確保に努め、以て滿蒙の開發と各國民福祉の增進を圖るべきことは更めていふまでもない。殊に鮮農漸く甚しきを加へたる在滿鮮人迫害の亡狀に至つては、言語道斷であつて、東三省今日の平和と繁榮の基をなせる我國の努力を思はず、民衆を使嗾し官憲を驅使して排日を逞うする兇悪は、我國として面目にかけて之を抑止せねばならぬ。支那政府にしてその態度を改めぬ限り、日支兩國の折衝は遂に意外の事態を招徠せぬとも限らない孰れにしても我國は最も愼重に而も最も斷乎たる態度に出づる必要あるを見る。

惟ふに、我國進發展の鑰は一に懸つて大陸政策の成否にあり之が爲め對支、對露交涉が最も重要性を有し、特に今年に於て極めてデリケートな問題の惹起することを想像せざるを得ない此の時に當り我等在外國民の責任は共に重大である。須らく眼前の利害に拘泥して遲疑逡巡することなく、公明なる精神と遠大なる抱負の下に、相戮力して邁進し、國運進展の機地を築き以て昭和新政の鴻業を翼贊し奉ることを期せねばならぬ。我等は此に希望に滿ちたる新年を迎へ、顧て謹し得ざるものあり。自ら省察し、改善し、至誠以て使命の遂行に精進せん事を誓ふ。

戊辰年頭の感

内閣總理大臣男爵　田中義一

諒闇も明けて哀愁の陰翳から一轉して曙祥の光明に向ふと共に年も改まつて昭和の御代の第三年の春を迎へ、人心も一新せられて何となく洋々たる春海の如き感じに充ち光明と希望に溢るゝものがある、加之、今年は恰も戊辰の年に當り明治維新から正に六十一年

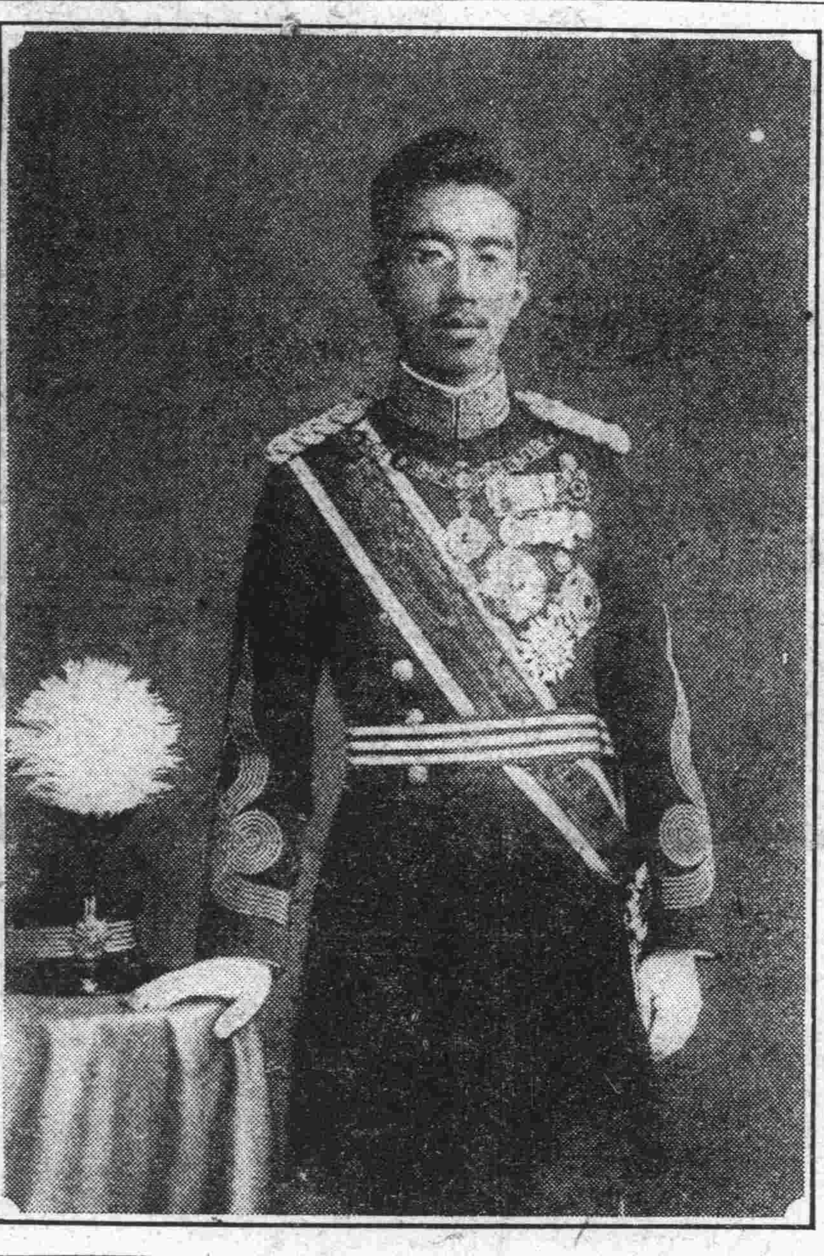
づ以て昭和維新の第一歩が開始される筈である。殊に大なる瑞祥の光輝を放つものは我帝國の中心たる皇威の御繼承を御宣示あらせらる、即位の大禮及び大嘗祭を今秋に於て行はせ給ふといふ準備に着手するといふ目出たい國務が今春から直に開始せらるゝことである、六十一年前の明治元年に於いて明治天皇が即位の禮と大嘗祭とを行はせられたるに又も戊辰の年を以て畏くも今上陛下の御大禮を行はせらるゝことゝ相成るのは偶然とは申せ深き天意の存する所であるとも考へられるのである

斯くの如く種々なる意味に於て新機運に際すべき天地と相成つた明治維新の六十一年後において昭和維新を實現せしめねばならぬ、如何ほどの範圍と程度に於て之を實現せしむるかは擧國人心の奮起如何に存する次第である。

昭和の新御宇に於て各自の至誠を捧げる總ての方面から所謂昭和維新を確實に實現するやう、勇往邁進する意氣込みを以て大いに皇運を翼贊し報國の任務を全うせんことを期したい。

此に國民諸君の健康を祝する。

干支も一轉し、時代も亦一新すべき機運に際會し、此に昭和維新が實現せられねばならぬと思ふ。即ち立憲政體の新紀元として將に行はれんとする普通選擧により國政參贊の選良が從來よりも一層より多く天下の公論を鮮明に代表することゝ相成り、二大政黨相對峙して朝に立つものは經綸を實行し、野に在るものは施政監視を擔任し、公明正大、何等陰翳のなき舞臺によつて正々堂々の陣を張り、國務萬端、帝國議會を中心として其の運用が[illegible]暢達する[illegible]代とでも申すべき新局面が展開せらるべきである。之れだけでも[illegible]



日支產業聯盟の確立に努力せむ

關東長官　木下謙次郎

茲に諒闇明け、宏謨維新一新を迎へ、昭和皇帝御即位大典を擧げさせ給ふべき齡次に會す。我等國民の慶幸これに過ぐるもの無し。謹んで寶祚の無窮と國運の興隆を祈り奉る。

日支兩國は唇齒輔車の關係に在り、須らく共存共榮の實を擧げ、東洋の新文化を建設することに效す。[illegible]り、兩國々民の繁榮と福祉の增進を圖ることを以て兩國共通の眼目となすべきである。

關東州は日支兩國の間に介在し滿蒙の咽喉たる地域を占め、兩國の國運の隆盛に重要なる關係を有[illegible]

兩國人一致の努力は產業、教育その他一般文化の上に相當の業績を擧げ得たるを疑はざるも、如上の大眼目を達成するためには、我々は更に一段の努力を要するものであることを信ずるものである。

滿蒙曠漠たる地域には、石炭、金銀鑛の埋藏物甚だ多く、小麥、大豆高粱その他農產物に富み、畜產林業、製糖、柞蠶等も亦頗る有望なり。加ふるに勞働賃銀は甚だ低廉にして、足らざるものは資本と技術なり、支那に乏しきは我國これを供し、我求むるところは之を支那に借り、相倚り相援け所謂相互扶助に依り協心同力して事に當らば、滿蒙の開發、文化の增進期して待つべきなり。唯實地の施設に當り兩國民間に完全なる意志の疏通を見る能はずして、時に目的の伸展を阻碍せらるゝことあるを聞くは頗る遺憾とするところなり。希くば今後力を盡して誤解と猜疑を一掃し兩國民の融合協力により兩國民の隆昌と福祉を增進せしめ文化の增進に努むるは現下の急務なることを痛感す。

今や世局將に會通の運に際し、人文更張の機にあり、產業聯盟の確立に藉し昭和三年の新政をして最も意義あらしめんことを。

年頭の所感

關東軍司令官陸軍中將　村岡長太郎

昨年は御諒闇中の事とて國民はみな謹愼の意を表し喪に服してゐたが、無事に第一年祭も濟み諒闇も明けて上皇室を始め下蒼生に至るまで榮えに輝く昭和三年を迎へる事が出來た。この芽出度き新春を迎ふる幸福を祝すると共に、わが國民は先帝陛下並に今上陛下の聖旨を體し一層質實剛健の氣を養ひ勤勉力行以て盡忠報國の精神を作興し國威の宣揚に努めねばならぬ。想ふに滿洲第一線に活躍するわが同胞は打ち續く不景氣のため怯え逡巡躊躇の感あるが、今年は緊褌一番不景氣を打破し官民協力して經濟的基礎の鞏固を圖り、而して大いに發展し日支共存共榮の實を擧げて貰ひたい。」

わが滿蒙經營の理想を體得せよ

二十年振にて滿洲に新年を迎ふ

滿鐵社長　山本条太郎

二十何年振にて滿洲に新年を迎ふることゝなり轉た感慨無量な次第である。

昭和の御代となり年を重ぬること兩度、諒闇も既に明け國民は愈更始一新大いなる抱負と旺盛なる意氣とを以て聖代の爲奉公の誠を致さねばならぬ秋に際會して居るものと信ずる。幸ひ明治以來の國是は誠に公明にして正大、普く中外に宣揚せられ國威日に揚がり列國との友誼年と共に加はれるは我等國民として同慶に堪へざるところである。今や明治、大正以來の國是を繼承し益々國運の發展を期し列國と共に世界の文明に貢獻するは昭和國民の義務でなければならない、顧つて國家の將來を卜するに內外共に甚だ多事である。我等は緊褌一番以て自から奮起せざるを得ぬ。殊に滿蒙の地は國際關係の甚だ錯綜せる地域であり、同時に我國に執りて極めて重大なる意義を有することは事新しく申す迄もない。斯の如き地域に於て活動する二十萬の我同胞は、常に自ら一面に於て國家の第一線に立てることを自覺すると同時に、他面に於ては一人々々國家の代表者であるとの覺悟がなければならない。而してお互ひに我滿蒙經營の理想を體得し內には同胞相互間の協力を鞏固にし、外には中國人其の他の諸外國人との融和を圖つたならば、此に國際的共存共榮の理想境を現出することは期して待つべしと思ふのである。此の意味に於て在滿同胞として昭和の新時代に處する覺悟と希望とは特に大なるものがあると考へる。

此の意義深き新年を迎ふるに當り私は思ひ出深き過去を回想すると同時に、將來の希望を述べ以て在滿同胞諸君と共に祝意を表し度いと思ふ次第である。

昭和三年の春を迎へて

山梨朝鮮總督談

瑞氣溢るゝ昭和三年の春を迎へさながら乾坤一新の感がある。畏くも　皇室におかせられては益々御安泰におわしまし寶祚無窮、國運いやが上に興隆八千萬同胞は欣舞禁ずる能はず、殊に本秋御即位の大禮を行はせたまふので既に奉祝の氣分が國の內外に漲り草木亦欣々たるを覺る。締盟各國との友交關係は愈厚きを加へ、接壤の中華民國は年來騷亂未だ終熄を見るに至らず形勢混沌たるを免れぬけれども善隣の誼に於て何とも致し方がないところかない。我國の財界は比年不況の餘を承け[illegible]他諸般の材料は漸く機運好轉の兆を示し必ずしも憂ふるに足らぬと思はれる。

自分は新に朝鮮總督の大命を拜し赴任したばかりのことゝて、未だ朝鮮の實情を審かにする暇がないが、併合以來十有九年官民各位の間斷なき努力が漸く報いられ今や內鮮融和統治各般の施設着々として其の効果を收めつゝある狀況を見洵に同慶に堪へない。しかし朝鮮統治は國家百年の長計であつて此の大業を全うせんが爲めには更に官民各位の一段の努力を[illegible]まざるを得ないのである。就いては自分も微力乍ら[illegible]最善を盡して統治の實績を擧げんことを期するが、凡そ諸般の施設は獨り官廳の力のみで其の功を成し得られるものでなく官民の協力殊に民間の自奮自營に俟つものが多いのである。宜しく時勢に目醒めて統治の大業を翼贊せられたいのである。

茲に芽出たき新年に當りて報公一段の奮闘を誓ひ謹みて聖代を頌し奉り皇國の彌榮えんことを禱る次第である。

在滿同胞の將來を祝福して

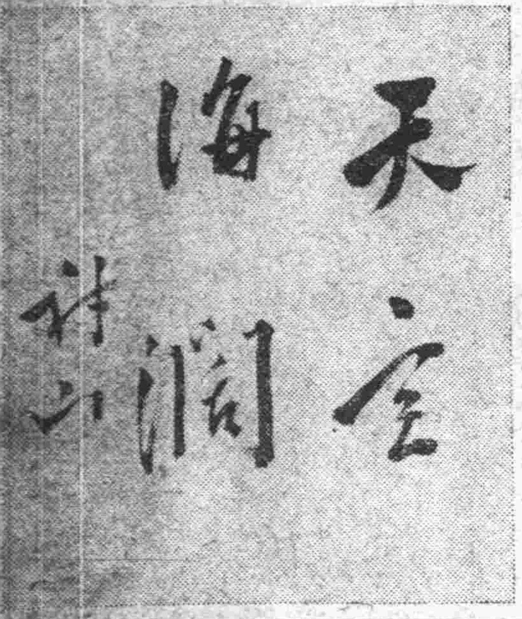
今後の大活躍を期待する

滿鐵副社長　松岡洋右

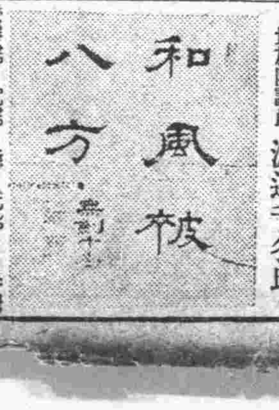
茲に昭和三年の新年を久々にて再び滿洲の地に迎へ二十萬の在滿同胞諸君と共に謹んで皇運の長久を祈り奉り國運の萬泰を祝する。

のは誠に感慨深き次第である。先帝神去りましてより國を擧げて只管服喪の誠を致せること一年茲に更めて新年を迎ふる我七千萬同胞の胸裏には、自から新な希望が蘇へり潑溂たる元氣も恢復し來るのである。殊に今秋は畏くも千古不磨の大典が擧行せらるゝことゝ承るに就いては此の新年を迎ふる喜びは殊更に抑え難きものがある。此の如く意義深き新年を計らずも滿洲に於て迎ふるのは宿緣誠に淺からざるものと考ふるのである。

昨年七月現職を拜命して以來社內外に亙り爲さねばならぬことは誠に多端であつた。幸ひ諸方の御助力に依り既に社內の整理も大體所期の通り進捗したから今後は主として積極的に產業の開發經濟の伸張に力を致し度いと考へる。幸ひ支那側に於ても根本に於て日本の意のある處を充分了解して居てくれることは誠に欣幸とする處である。



鐵道大臣　小川平吉氏題



貴族院議員　渡邊千冬氏

上直接、間接に蒙る損失は、他邦列强の比にあらざるのみならず、東洋平和の上に、禍根を釀成しつゝありと謂ふも、敢て過言ではない。

顧つて國內を見るに、昨年以來、財界の動搖、思想の變遷等、帝國の臣民たる者、一日の偸安を許さゞるものがあり、我國家の前途に横たはる、重大なる使命に對し、尙一層の創意と精勵とを痛感すると共に、特に帝國の將來を擔承す可き青年諸君の奮闘を促さゞるを得ぬ。

況んや本年は、畏くも、今上陛下御即位の大禮を行はせ給ふ。瑞氣既に乾坤に靉靆たるものあり。國を擧げて聖壽の無窮を禱ると共に彌々國威を中外に宣揚し以て聖恩に酬い奉らむことを[illegible]第である。

聊か所感を叙して[illegible]となす。

聖壽の無窮を祈り奉る

陸軍大臣　白川義則

昭和新政の行事は、從容として進めども、世は諒闇の裡に暮れて茲に第三年の新春を迎へ、靜寂から躍動への大道は、豁然として吾人の前に展開されて來た。

過去一年間に於ける、內外の情勢を回顧するに、三國會議は遂に海軍力を制限するに至らず。國際聯盟に於ける軍縮會議亦列强をして、未だ必ずしも軍備を縮小せしむるの機運に達せず、口に平和を高唱すゝ雖も密かに兵備の充實に之努めつゝあり。

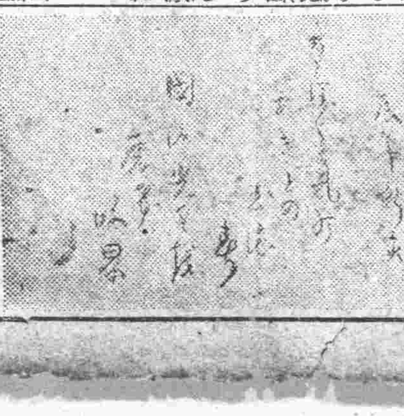
殊に隣邦支那は、群雄割據して戰亂熄む時なく、爲に帝國の經濟

昭和三年は諒闇明けの年にて特に十一月には御即位の大禮を擧げさせらるゝ次第なれば洵に意義深き新年であると考へます。

昨年には天長節は勿論、紀元節にせよ明治節にせよ諒闇中にて國民一般に奉祝は御遠慮申上げたる姿なりしも本年は三大節とも國民の熱誠籠れる意義ある奉祝が行はるゝことゝ存じます。

聖上陛下には御踐祚と同時に詔書を下され昭和と改元あらせられたるが、內は國內より外は海外諸國に至るまで親和を徹底せしむるのが昭和てふ元號の意義に稱ふものと思惟するのであります。朝見式に群臣に賜りたる勅語中に擧國一體共存共榮を之れ圖りと仰せられ、又人心維れ同じく民風維和し汎く一視同仁の化を宣べ永く四海同胞の誼を敦くせんと仰せ出されたる此の聖旨に外ならざることゝ拜察し奉るのであります。

顧ふに神武天皇建國の大業と云ひ、明治大皇中興の偉績と云ひ上下一心君心一德てふ事實が此の業を成就せる核心を成せるものと畢竟するのでありますが、勅語中擧國一體と仰せられたる前後其の揆を一にするものと申上ぐべく、究意するに和の一字に歸到することゝ思考致します。我國民は昭和の劈頭に於て此の大號に感激奮起し確乎たる信念を以て我が民族の發息を圖り我が國運の發展を企て和を世界に擴充するの大御心に副ひ奉らざるべからずと思惟する次第であります。」



◇…九十二翁　大倉喜八郎氏

、歐米列國も亦此時日本の努力策を正當に理解し日本の平和に評價するに至つて居ることは邦家の爲め將東洋和平の爲め意を强うするに足るものである。而して斯の如き空氣の裡に相互に活動し得るのは大いに幸福であつて私は記念すべき昭和三年の元旦に當り在滿同胞の將來を祝福すると共に大いに今後の活躍を期待して止まない次第である。

平福百穗氏筆

けふ十一年振りに四方拜其他の御儀

耀かしい新年を迎へさせられ 陛下親ら御祈念

【東京特電卅一日發】昭和三年諒闇明けの元旦は新しき御代の慶びに明け初める、宮中では此の耀かしき新年を迎へさせられて大正七年以來十一年振りに四方拜御親祭を初め諸々の御儀が擧げさせられ 陛下御親ら天神地祇に祈念せられ、寶祚の無窮と帝國の福祉とを祈らせ給ふのである、即ち 聖上には未明御起床あらせられ御淨身の後、五時半から黄櫨染御袍の御直衣に御召換へあり、九條掌典長の御先導にて赤坂離宮内御日拜所に設けさせられた御座に出御あり伊勢大廟、明治神宮、多摩御陵を初め天神地祇に御拜あらせられて昭和の御代に於ける最初の四方拜を了らせらる、歳旦祭は一日午前六時九條掌典長宮中賢所、皇靈殿、宸殿の三殿に祝詞を奏し 天皇陛下には黒田侍從に代拜仰付けられ玉串を捧げ給ふのである

財界恢復の曙光を認む

根本的對策の必要

大藏大臣 三土忠造氏談

回顧すれば昭和二年は、我財界にとつて非常な厄年であつた。即ち大正九年の財界變動及び同十二年の關東大震災の創痍未だ癒えざるに當り、三月中旬突如として東京に銀行の取付騷ぎが勃發し、爾來一ケ月餘金融界の波瀾は滔々として、各地に波及し、銀行の休業するもの相次ぎ、我財界未曾有の大混亂を惹起したのである。

此の財界の動搖は幸ひにして、官民一致の努力によつて比較的短期間に鎭靜に歸し、之が善後措置として最も困難を感じた、休業銀行の整理も漸次其の歩を進め、特殊の使命を有する昭和銀行も設立せられ、主要な休業銀行の大部分は既に預金の支拂を開始し、或は整理案の大綱を決定するに至り、休銀整理の難關も大體突破することが出來たのであるから、昭和新年の財界は茲に一段と回復の曙光を認むるに至るであらうと信ずる

然しながら、財界の動搖によつて生じた諸問題の善後措置を講ずると云ふことは最少限度に於て、必要なる時務たるに止まり、經濟界の眞の繁榮を招致する爲には、近年に於ける我財界不況の根本原因に遡つて之が對策を講ずるの必要なことは、論を俟たない處である。

抑も我國の經濟組織の下に於て經濟界の盛衰は、一に國際貸借の状況に支配されることは過去の經驗に徴し、極めて明かなる事實である。從つて今後の經濟的繁榮並に、國力發展の爲大に産業を振興し、貿易の逆調を匡正するを以て基本方策とせねばならぬ、昭和二年の外國貿易は植民地を通じて二億八千萬圓の入超に止まり、其額の少なること近年稀なる現象と稱せられてゐるが、昭和三年に於ても國民の努力に依り益々此の趨勢を維持促進するやうにしたいものである。

然しながら我國に於ては貿易の入超を全く無くすると云ふことは、平常の場合に於ては容易に……

國際貸借の改善とともに必要を痛感するのは、資本の利用方法を改善すると云ふ問題である、即ち我國では資本の蓄積が乏しい上にその利用方法が當を得てゐない爲め、其能率を擧得ない狀況に在ると思ふ、されば今後は金融機關の制度並に、事業會社の組織經營に改善を加ふると共に、財界の整理を促進して固定した資本を生かす方法を講ぜねばならないと思ふ。

全體的に一二の點を述ぶれば、銀行と云はず、事業會社と云はず無理な配當をせぬ樣にすること、又合同其他の方法により、其の基礎を鞏固にし、經營に要する諸經費を節約すると言ふ樣なことは最も大切な問題であると思ふ。

……を注ぐことが急務であらうと信ずる。

光榮あり意義ある年頭に當りて

普選と國民の重大責任

內務大臣 鈴木喜三郎

茲に諒闇明け第一年の新春を迎へまして擧國自から祥瑞の氣に滿ち萬物頓に新彩を放つの思ひが致すのであります。殊に本年十一月を以て取り行はせられます即位禮及び大嘗祭は實に國家至高の御盛儀でありまして、億兆臣民の齊しく歡喜に堪ぬ所であります。大禮の御儀は一に御儉素を旨とせらるゝやに洩れ承るにつきましても聖慮の程誠に恐れ多い極みであります。各地におきましても此の御盛儀を永遠に記念する爲め種々計畫の向もあること、思ふのでありますが、是れが施設については、呉々も事を避けて實に就き千載一遇の大典に際して眞に忠誠の至情を效されんことを切望して已まぬ次第であります。

今春行はるゝ衆議院議員の總選擧は實に普通選擧制に依る第一回の總選擧でありまして、選擧有權者の如きは、前回の總選擧の際には三百萬餘人に過ぎなかつたものが、一躍して其の四倍の一千三百餘萬人に增加し、全國人口の約五分の一に當る多數の國民が選擧に携はることになるので、眞に國を擧げての一大動員と云つても宜しいのであります。

回顧しますれば、明治二十三年始めて行はれました第一回の總選擧の際は、選擧人の如きも、僅に四十萬人に過ぎなかつたのでありまして……

此の新政の進歩と國運の興隆とに依る我が憲政の進歩を證するものであります。此の意味から申しましても、今回の普選第一回の總選擧は我國憲政史上特に意義深い選擧で、諒闇明けの昭和の新政に當つて此の意義深い選擧を行ふといふことは、國民の最も祝福すべき事柄であると共に、又最も責任の重大なることを自覺せねばならぬこと、思ひます。

……自主自立の風を興すこと及び、地方自治體の權限を擴張して益々其の財源を確立して自治經營の基礎を固ならしむることは普通選擧制の實行と相俟つて眞に地方自治の完成を期する所以であると信ずるのであります。乃ち此の必要に應ずる爲めには、一面に於て地方議會の權限を擴張し、また地方自治體に對する國家の監督方法を改善致します等、自治制度の整備を圖りますと共に、一面財源の確立を期する爲めには、地租を地方に委讓し尚之れに伴ひまして、地方稅制の體系を整へ國民負擔の輕減適正を期することが殊に肝要であると考ふるのであります。

國運の興隆國勢の擴張、それは謂ふまでもなく地方自治の健全なる發達を基調とせざるべからざるは論を俟たぬことであります。茲に昭和新政第三年を迎へますに當り、相共に最善の努力を謁して報公の萬一を期し度いと存じます。

滿蒙開發に精進せよ

大連民政署長 田中千吉

瑞雲八紘に靉き祥光六合に輝きて茲に昭和大典の歳を迎へた、謹みて寶祚の無窮を奉祝し、皇室の萬歳を賀し奉るのである。

昨年は悲痛なる諒闇に暮れ一年を通じて何となく淋しい沈痛な感で始終したが、今年は即ち國喪も明けて愈御大典の盛儀を擧げさせ給ふ日出度き歳と……

愉快に新春を迎ふ

大連市長 杉野耕三郎

昭和の元年は約六日間で終りを告げ、二年は諒闇中とて淋しく迎へ且送つたが、此の昭和三年は諒闇明ける晴々した心地でその元旦を迎へ得ることは、實にこの上もない目出たい次第であつて、それは又この昭和三年を意義ある歳とするであらうと思ふ。この年の十一月に御大典があるといふ事、それが我々國民の心に或大きな愉快を感ぜしめるが、普選が實施せられて我議會政治に一歩を進め、內政の一進展と共に、外政にも何等かの一轉機を劃することは、吾人をして愉快に感ぜしめることは何物にも……

日支の利害を考へ木材問題を解決

よりよき政策が必要である……

山本滿鐵社長車中談

普選の バロメーターである

總選擧の豫測如何之れもいろいろの見方があるが過般行はれた府縣會議員選擧が……

方策は

政府としても未だ具體的の……

大禮の意義(1)

掌典 星野輝興氏談

星野掌典は宮內省切つての式典通で、特に大禮儀に關しては二十年の永きに亙つて研鑽を積まれ、宮內省の生字引として、宮中の諸儀式を取扱はれて居る。以下の原稿は氏が近く、大禮に關する諸儀式の眞髓の解決を刊行しと廣く國民に頒かたんとするに當り、曠古の大禮の大要に就て談話を請ふた次第である。

……典であることは普通であります。以下今回の大禮の順序に從ひ、これを大禮前の諸儀と大禮儀と大禮後儀とに分つて順次解說致します。

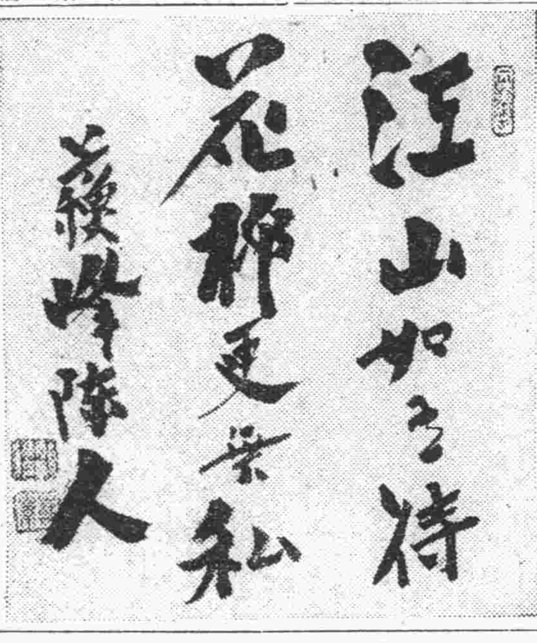
大禮前の諸儀

◇宮中三殿に期日奉告の儀(一月中旬)

この儀は即ち午前中に宮中三殿に期日奉告の儀がすまされてから午後宮中鳳凰の間で行はせられるのであります……

◇並に前帝四代の山陵に勅使發遣及奉幣の儀(一月中旬)

徳富蘇峰氏筆



與黨の……

戊辰元朝書懷

武田南陽

木下長官 五日に着連

【東京特電卅一日發】木下長官は豫定の如く卅一日午前九時半東京驛發、中橋商相その他多數の見送りをうけて出發した、途中山田に一泊、三日門司發ばいかる丸に乘船五日大連着の豫定である

關東廳拜賀式

關東廳の新年拜賀式はけふ午前十時より同廳において擧行されるが、この日判任官および同待遇者(有位帶勳者を除く)は會議室に整列……

山本社長歸連

山本滿鐵社長は昨夜八時半大連驛着急行列車にて歸連し多數の出迎へを受け直に自動車にて星ヶ浦の邸に入つた

計畫に……

大連天氣豫報

一日(晴れ) 南西の風

各地の溫度

	午前五時	午前十一時
◇大連	零下七、八	零下五、四
◇旅順	零下四、八	零下一、六
◇營口	零下一六、八	零下九、二
◇奉天	零下二三、四	零下一三、九
◇長春	零下二三、四	零下二五、〇

謹賀新年

建築請負業 森谷組 森谷竹二郎

大連市能登町四四 電話六二六七番

新年特大 幸福創造號

實業之日本

如何にして幸福を創造すべき乎 …… 社長 增田義一

幸福創造の魔術 法學博士 新渡戶稻造

余は何處に幸福を感ずるか 子爵 澁澤榮一

幸福の體驗 高橋是清 大倉喜八郎 清浦子爵 倉富樞府議長 磯村豐太郎 服部金太郎

幸福の創造秘訣 三宅雪嶺 田中龍夫 大島正德 武藤山治

財界前途の座談會 出席者 井上準之助 有賀長文 池田成彬 串田萬藏 藤山雷太 大川平三郎 土方成美 增田社長以下

觀相と運命 人相學大家 小西久遠

濱口總裁と幸福問答

三十代で一線に立つ人百人

大阪財界一線の戰士

大阪五大銀行のぞき

ポケット論語と藝者論

辰年生れの實業家

予が駈出し時代 入社當時の決心 月給十五圓で三井銀行に入 大事業主に 淺野總一郎 二十圓で大阪商船社長

財界閥閥五十人

將來有望な株の研究

吾輩が今學校を出たら

醫學界を擧げて推奬されつゝある屈伸道 坂本謹吾 三宅博士 佐多博士

滿蒙經營の重點

滿鐵の經營方針は斯くあれかし 日支共存共榮の爲に

貴族院議員 樺山資英氏談

今日の滿蒙問題を論ずることは對支、對露、對米等悉く外交關係の事情に支配さるゝところが多いから徒らに之に言議をさしはさむことは國交上害あつて益なき結果を招來する。然しながら日本國民としてその滿蒙經營に關して如何なる心得のもとに進むべきかといふことにつき意見を述ぶることは少しも差支ない。故に自分はその點につき多少私見を舒べてみたいと思ふ次第である。

滿鐵の使命

日本の滿蒙經營を論ずるに當つて第一に述ぶべきことはまづ滿鐵の使命奈何の問題である。滿鐵は即ち日露戰爭の結果により露西亞の鐵道を日本が繼承し此鐵道とその附屬地並に南滿洲の租借地を中心として日本が茲に滿蒙經營を行ひ東洋平和を確立する上において所謂日支人の經濟的發展、共存共榮を期するといふ大使命の下に經營さるゝもので、現に既に今日までの經營の狀態において其の效果は相當に現はれてきてゐるのである。而して吾日本が此の大使命を達成する上においての希望としては先づ宜しく此の滿蒙の資源を開放して日本人が土地商租權、工業權並に其の生命財產の安全を得て以て日支人が互ひに安心して手を携へて經濟的發展の立場をつくるといふことでなければならぬ。即ちこの方針によつて日本人を多數滿蒙に送つて日本人がそれ〴〵自立してゆけるといふことでなければならないのであるが、同時に之に對し便宜を與へ此の日本人を抱擁してゆくものは滿鐵そのものでなければならないのである。滿鐵がその經濟的經營の上から冗員を淘汰するといふが如きことは當然なことかも知れないが然し一面にはまた國家的見地に立つて成るべく多數の人を抱擁して働かすといふことも考へなければならぬことである。滿鐵の社員なぞも古參社員は土着して日本の滿蒙發展のために盡すといふことが必要である。そして日本人は支那人の出來ない方面──即ち學術智識とか資本技術とかいふものを提供し、支那はまた之れに土地及び物資を提供して兩々相俟つて之れを商業上の物品化するといふことが必要であると信ずるのである。

滿蒙に於ける產業方針

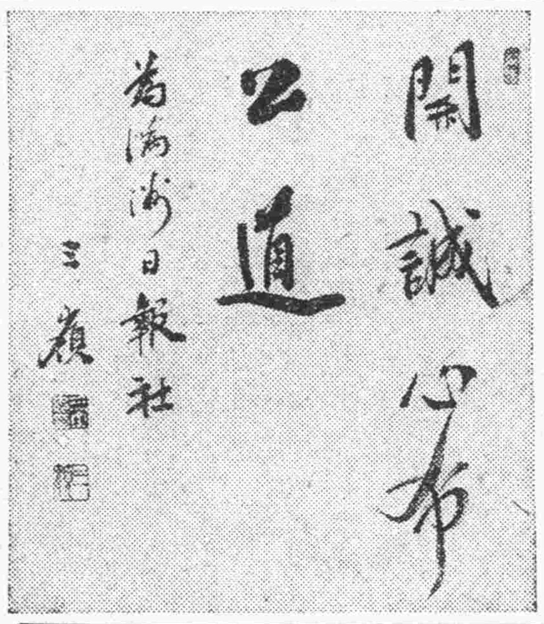
現在の滿蒙事情において產業方面の關係を述べんに、まづ今日滿蒙において期待さるゝ產業は

一、石炭
二、羊毛の改良
三、棉花の栽培
四、柞蠶の事業
五、製鐵事業

等である。而してさし向き日本人が經營し得る石炭工業としては滿鐵が撫順其の他に豐富なる鑛區と之れに伴ふ輸送機關とを一手に專有してゐる狀態であり、他の日本人が個人的炭坑の經營を開始しても其の輸送、販賣において滿鐵と衝突を免れない結果を招來するのである。故に將來日本が國家としての炭業政策をいかにするかといふ點についてはどうしても此個人經營をも生命ある形にしなければならないのであるが、それには此の撫順炭は工業用に適してゐる關係から主として鐵道工業用に使用し、個人的經營の石炭を他の燃料等にとるといふことにしたらどうか。勿論炭業政策の上からみて日本の內地炭、朝鮮炭・樺太炭業の將來の供給狀態並に地理的關係を考慮のうちに入れ、互ひにその販路が衝突せざるやう方針を一定しなければならないのである。此の需要供給の協定を遂ぐるといふことは日本の炭業政策の上から極めて肝要なことで茲に始めて個人的經營も生きてくるのである。

鐵道敷設問題

先般來の滿蒙交涉において鐵道敷設問題がその折衝の中心になつてゐるやうであるが、就中吉會線問題などが今日破れ是と論議さるゝは不可解の至りである。吉會線なるものは既に支那側も承認せる日露協約によりて夙くに決定せる問題であり、今更此の既定の問題が蒸返さるゝは不思議といふべきである。滿蒙の開發、日支兩國民の經濟的發展といふ上からみて日本側の資本であらうと支那側の資本で經營されやうとそれは差支えない筈である。日本の滿蒙における優越的地位は既に世界の各國が之れを承認してゐる事實であるから此の承認せられたる事實の下において何國の資本が投下されやうと決して差支えはないのであるが、鐵道の如きは統一的政策を最も必要とする意味において滿蒙における鐵道政策も成るべく統一された政策の下において經營され、徒らにその不統一のため隨所に衝突を來すが如き鐵道敷設は、日支兩國のためお互ひに注意しなければならない問題であると信ずるのである。



大藏大臣 三土忠造氏題

中央試驗所の擴張

滿鐵社內に中央試驗所なるものがある、今日では此の中央試驗所なるものが如何なる地位狀態にあるか不明であるが、將來眞に滿蒙の開發及び支那全土における日支人の共存共榮といふ大目的の下においてはどうしても此の中央試驗所が中心となり、この中央試驗所において研究したる各種產業上の基本調査が主體となつて茲に始めて滿蒙經營は合理的發展を見なければならないものであると信ずる。而してこの中央試驗所には支那人の練習生を多數採用しその卒業生がまた支那各地において活動するといふことになれば滿蒙の開發──支那の享くる利益といふものは、極めて偉大なるものがあると思ふのである。

大連旅順の發展

次に現在の大連、旅順が今日までの狀態で發展していくことはよろしいが、尚吾々の希望としてはこの大連、旅順をなるべく自由な世界的の開港場として開放することが必要であると思ふ。支那人がこゝを安全地帶として入り込んでくるなら歡迎しやう。また世界各國の人々が茲に活動の地步を求めてくることも決して拒まない。優勝劣敗は自からそのうちに起ることであるから日本はなるべく劃一的な方針、眼孔の小さい考へでこの大連旅順を經營してはいけない。極めて遠大な大きな考への下に自由な世界的な都會として經營するといふことを心掛けなければならない。其うちにあつて日本人はよろしく滿蒙の主權者となつて勢力の中心をなすやうに努力すればよろしいではないかと私は信ずるのである。

曉色──飛田周山氏筆

不換紙幣の濫發を防止せよ

在滿同胞の發展も大いに之に關係す

興銀總裁 鈴木島吉氏談

南北支那が常に內亂の巷となつて何時平定するか殆ど見据えの附かないために、殊に先般國民軍が漢口に進軍して同地の居留地を回收して以來外國人は勿論の事支那人富豪の生命財產は各地に於て脅かされて外國租界に於て外國の權力下にありながら平和に生活する事が不可能となり、上海でさへも占領軍に軍費を徵發され富豪は之がために不安を感じてゐる。從來外國居留地が治外法權の確立してゐた時に於ては唯一の避難場としてゐたものが今や其避難場を失つたために、支那各地に於ける富豪が大連市に流れ込んで僅に生命財產の保護を受けつゝある事と、內亂の結果南北支那が非常に紊れ農民の生存を危殆に陷いれた爲めに南北滿洲に農民の移住するものが近年非常に多數に上つたので今や滿洲は金と人間とが一時に集つて著しく進步を爲しつゝある。故に滿洲の開發は刮目して見るべきものがある。即ち無限の曠野も瞬く中に開拓されて特產物の增殖、增產となり同時に日本品の需要を增加すべき事は明かであるから、日滿貿易の前途は極めて有望と云はねばならぬ。

然るに我廿萬の在留民が一向其の恩典に浴する事が出來ず不況を嘗つゝある所以のものは、一は在留民が歐洲戰爭中に愼重なる態度を失ひ放漫なる事業を經營したにも因るが、他方には張作霖が中原に覇を稱へる爲に戰ひに重ぬるに戰ひを以て常に軍費を滿洲に仰いだ爲めに外ならない。換言すれば滿洲特產物を買收するに際し自己發行の不換紙幣を以てし之を正貨に賣いでゐるに基因するのである。從つて奉票の騰落は其の發行高の多少に因らないで、常に戰地よりの勝敗の報によつて動く狀態になつてゐる。故に眞面目なる商人が眞面目に採算して特產物の買付けを爲さうとしても、到底張作霖一派のものと競爭する事が出來ないので勘からず損失を蒙つて居るのが現狀である。之は單り張氏のみでなく吉林省でも黑龍省でも同樣其類に倣つて不換紙幣を以て特產物を購入し之を金價で賣繋ぎ軍費の調達を爲してゐる有樣である。之がため日支兩國商人は普通なれば大いに繁榮すべき此の場合に殆ど手が出せぬ狀態である。南北支那經濟界が銀貨制度を維持して居るに拘らず、南北滿洲のみが不換紙幣を出すといふことは支那のために悲しむべき事であるのみならず、多大の特殊關係を有する日本のためにも大いに惜むべき事であるから、我日本は滿洲の官民と諒解を遂げて不換紙幣濫發を防止せしめ、かくして紊亂せる貨幣制度の整理に一臂の力を添へて滿洲をしてせめて南北支那の幣制程度に達せしむるやう爲したいものである。同時に滿洲に關係ある商人は宜しく自己の立場を改善して此の急激に發達する南北滿洲の將來に立遲れぬやう努力する事を新春を迎ふるに當つて切に希望する次第である。

滿蒙の地における邦人の進運打開策

入學試驗廢止の可否

本社の質問に答へた在滿知名士の意見

一、滿蒙における邦人の進運打開策として最も焦眉の急なるものに對する貴見如何
二、入學試驗廢止の可否
三、貴下の趣味

右三項に對し本社は在滿知名士に質問の結果左記の如き有益なる回答を得たるのであります。

…〔一〕…

滿鐵用度事務所 富永能雄

一、新聞紙上又は邦人の口頭に上る「滿蒙」といふ言葉を一切封鎖するとにし度し、啻のみあつて何の實益もなき「滿蒙」なる言葉を捨て去つて既に根據ある關東州や租借地やの問題を眞面目に解決するを急務とす。

聖德街 立川雲平

一、滿鐵本社を奉天に移し瀋陽城外に新奉天市を築くべし、當大連には旅順の諸官署を移して滿鐵本社の建物を利用す、これ一舉得の策なり、また現金百圓を所持するものは無貸にて滿洲に送り來るべし、大多數の同胞を呼寄するは開拓の良策なり、滿洲の地において競爭せしむるは國家の得策なり。
二、學校經驗なし、故に大贊成
三、詩、酒、風流時にザル碁も、下手川柳も

村田愨麿

一、宗教上の信仰を持たざる我同胞の滿蒙進展は遂には砂上の樓閣に終らざるやと思はれます、堅き信仰によつて滿洲の地に骨を埋める覺悟があつてこそ始めて進展ともなり、勢力の基礎が定まるのではなからうかと考へるのであります。

栃內壬五郎

一、わが國民は自國現時の情勢を自覺し（內外に對して）政黨政派の僻見に捕はるゝことなく國一致對滿政策の根本義を樹立し確固不變の態度を以て邁往すると共に、在滿邦人は特に輕佻浮薄の態度を改め、堅實眞面目に同胞協和して根氣强く各自の業に精進し、進んで世界的の平和戰に優勝の地步を占むるの策に出づること最も焦眉の急務と信す、
二、入學試驗は廢止を可とす、なほ父兄に對し徒らに中等學校に子弟を送るの可否に關し識者は十分にその方針を定め指導するの策を採ること
三、徒步運動、未開地山河跋涉、旅行、讀書、乘馬

關東

一、萬難を排して商租權問題を速かに解決し、朝鮮人其の他農民を招致し此の廣野を開拓する事が最大の急務なりと考へます
二、試驗廢止によりて來る弊害が存置よりも大なるものあるべしと思はれます
三、碁、將棋、玉突等その他勝負事は大概好きです

奉天製麻株式會社 中山東一郎

一、土地商租問題の解決により既得權の活用、一面邦人の有する不動產及び確實なる事業に對して低利資金の融通運用すること
二、入學試驗の全廢には一利一害の伴ふ懸念あり、篤と專門家の研究に期待す
三、園藝、海漁など下手の橫好き

奉天扇利洋行 上田利一

一、未開放地における居住、營業權の確證を得るを急務とす、然らざれば正業を營む邦人の奧地進出は不可能なり
二、入學試驗の全廢は弊害あらん、一、二の科目試驗は必要ならん
三、音樂、歌舞

奉天浪速通 木下亮九郎

一、小にしては小口（二千圓以下）低利資金の信用貸、大にしては商租問題の解決
二、廢止を可とす（但し公平なる教師校長を要す）一學級を數人の教師にて受持ち教授する（各科目に付一人）ことを要す

長春高女 大久保鹿次郎

一、邦人精神の改造か
二、私の奉職する學校位ならば筆記試驗に代ふる方法を講じ廢止か、又試驗を繼續するとせば準備の弊を除去する方法を講じた上のこと
三、樂しみは何處にもあり、旅、碁をば年に二、三度やる

小崗子公學堂長 倉島丑太郎

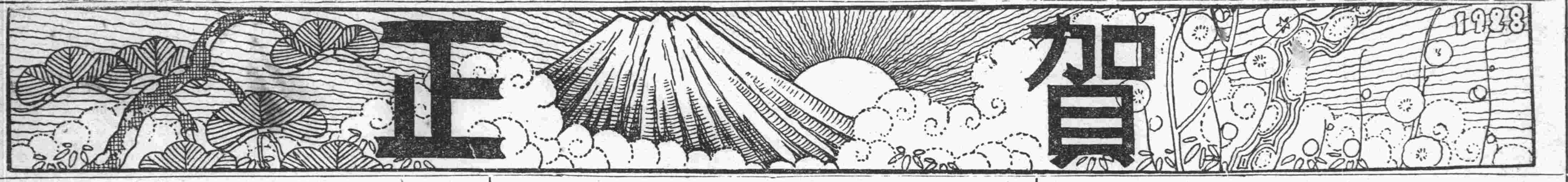
一、滿蒙に於ける邦人の進運打開策として別に妙案も持ちませんが私は「邦人はもつと支那語を學び個人的に廣く支那人との交際を親密にすること」が最も必要と存じます、現在の如き邦人の態度は永遠に發展する所以でないと思ひます、商租問題といひ、鐵道問題といひ、既得權の實現も焦眉の急でありませうが個人的の親交は總ての發展の地盤を造るものと思はれます、從來餘りに此の方面が閑却されてゐたと思ひますので特に茲に主張するのであります

大連郵便局長 和多野健藏

三、（イ）讀書──就中漢籍、經書、無盡藏の娛樂と寶益との源泉として讀書の與ふる效果は少くない（ロ）書道──一尺の短管の自家得意の字句を揮毫するの愉快は忘るゝことは出來ぬ（ハ）漢詩──豐富なる詩想を流麗なる文字の上に表し、朗々吟詠するの快は何者も之に及ぶものはない文字の臚列亦必ずしも徒事でない。

飯田耕一郎

一、先づ各自の健康と人格の涵養と能率增進とにあり、而して此等の目的を達成せんとするには飲酒の弊習罪惡を絕對排除せざるべからず、禁酒家こそ眞に滿蒙開拓の「パイオニヤ」たり植民地發展の基礎を鞏固たらしむるものである。
二、入學難は畢竟學校不足と教育費の缺乏にあれば全國禁酒の斷行を必要とす、飲酒消費額每年十五億圓、教育費四億六千萬圓也、又酒害の子孫に影響し學童體質の纖弱も禁酒によつて豫防し得るべし、入學試驗撤廢は一面公平を缺き易く、優秀兒童多く落第となり、學生の弊害を生じ且つ學業精神の緊張味を弛緩ならしむる嫌ひあるべし、入試撤廢は不可なりと思ふ
三、基督の福音と禁酒を宣傳すること



紙類直輸出入商
株式會社 萩原商店
大阪市東區南久寶寺町堺筋北入
電話長（船場）二三五五番
電話長（船場）二三五六番
（船場）三〇二六番
（新町）一一三二番
振替口座大阪一〇九八番
（受信略號）オサカ、ヨオシハギ

株式會社 萩原商店大連出張所
大連市監部通五十二番地
電話長三九九七番
受信略語（タイレンハギハラ）
發信略語（ハ）又は（ハギ）

富士製紙株式會社代理店
株式會社 山田洋紙店
大連出張所
大連市山縣通二百番地
電話長五七一四─八三五三番

鴨綠江製紙株式會社 一手販賣店
樺太工業株式會社 一手販賣店
各製紙會社 特約店
大日本人造肥料株式會社 特約店
大連市山縣通百二十五番地
株式會社 大同洋紙店出張所
電話大連長八五八〇番
本店 大阪市東區安土町二丁目
支店 東京、名古屋、京都、熊本
出張所 門司、臺北、天津、上海、廣東

今日の政治と明日の政治

明日の政治の成功不成功は民衆の自己訓練の上に懸る

政治學博士　高橋清吾

一

世界を通して現代政治の一般的傾向はデモクラシーである。デモクラシーは個人的平等の原則と談合主義との上に立つ國民的自治または民衆自治の政治形式である。それは普通選擧、議會制度及び多數決主義を三機軸として自由主義（リベラリズム）の種々な制度をその機構の中に包容してゐる。デモクラシーの理論によれば「各人は平等である。しかして一社會は平等なる個人の集團である。社會の結合原則は各人の共通利益である。故に社會は共同社會である。この共同社會の經營は即ち政治であつて、政治とは實に共同社會の支配經營を指稱するに外ならない。而して共同社會は平等なる個人の集團であるから、各人は一社會の支配經營即ち政治に平等に參與する權利をもつてゐる。しかし、各人は日常の職業に忙殺されてゐるから、選擧權の行使を通じて、代表者を選びその代表者をして自己の意見感情を表白せしめ且彼に社會經營についての直接參與權を委任するのである」といふことになつてゐる。從つてデモクラシーに於ては形式的には少くとも「頭數」の多寡が「輿論の動き」を表象するのであつて、選擧や議會に於て多數の投票を制し得た方の意見が輿論であると認定されるのである。

かの比例代表制度は少數派の意見なり利益なりの代表を可能ならしめ且つ抽象的な多數決主義の弊害を矯正しやうと企圖するものであるが、これに拘らず、それは究極に於て多數決主義を是認するばかりでなく自由主義を一層に重んずる制度である。また獨逸に行はれてゐるところの經濟議會——現在これは有力な活動をなしてゐないやうである——は職能代表主義の上に立つものであるが、職能代表制度は社會內の各職能を平等な地位に置いてそれの平等的代表を可能ならしめようとするものであるから、それは職能的デモクラシーの制度である。即ち職能代表制度は普通のデモクラシーを補足するものであると言へよう。

もつともデモクラシーに對立してロシアの無產ヘ獨裁即ち勞農階級の上に立つ、共產黨の獨裁政治や、所謂愛國者等と稱するフアシステイに立脚するイタリーの行政部獨裁政治がある。これらは倶に直接の暴力行使を是認して、自由主義のデモクラシーに挑戰してゐる。しかしながら制度的には少くともデモクラシーが世界の大勢であつて、普通選擧や議會政治は直接民衆政治の諸形式——例へばイニシアテイヴ・レフエレンダムの如き——によつて修正されて今後も可なり長い間、政治の中心形式となつて續くことであらうと觀測される

我國一部の人々は今日の政治は何處に於ても皆反動的だと言つて慨いてゐる。なるほどイギリスを見てもフランスを見てもアメリカ合衆國を見てもドイツを見ても保守黨が優勢であるが、しかしながら、これらの保守黨は「中間の人々」によつて助けられてゐるのであつて、即ち中間の人々が一時的に保守黨に加擔してゐるのであつて、極端な保守主義者はその數極めて尠いのである。デモクラシーの政治形式は中間派の人々を優勢にする。イギリス然り、アメリカ合衆國然り、ドイツ然り、フランス然りである。これはデモクラシーの政治が「通常人」を對手とするものであることに基因するやうにも思はれる「通常人」は極端ではない。彼は急進的でもなければ守舊的でもない。デモクラシーの社會に於ては政治のリズムが時に急調子となることはあつても——時に急進に傾いたり、保守に傾いたりすることはあつても——その一般的調子は概して中庸的である

二

惟ふにデモクラシーの政治形式は現代の關する限り、多くの人々にとつて最良の政治形式であると言つてよい。民衆自治は他の如何なる政治形式よりも合理的であるやうに考へられる。單なる「善政」（グッド、ガバーメント）は究極に於て人を愚にする。現實に於て自由と人格と秩序と社會的調和とはデモクラシーに於てその最善の發現を可能ならしめられる。

大谷光瑞氏筆

しからば現代政治の中心形式としての民衆自治は果して文字通りに行はれてゐるかといふにそれは一部分は行はれてゐるが一部分は行はれてゐないと答へる外はない、普通選擧、議會、多數決主義等が行はれてゐる點から觀ればデモクラシーの形式は文字通りに行はれてゐるといふことになる・また議會の解散は輿論政治の一面を示すものだとも言へる。

けれども我々は一度び形式から離れてその實質に突き進むと其處にデモクラシーの他の半面を目擊する、今日、輿論は多くの場合少數者集團によつて製造せられる、選擧に於ける多數の得票は多くの場合民衆の感情を煽動するか、又は直接若くは間接の利益を提供することによつて恰も落葉を掻き集めるやうに掻き集められたものである、さうでなければ官憲の壓迫または暴力の行使によつて強制的に多數を占めるのである、議會に送られた議員等は一社會の選良であると言はれるが、實際に於ては彼等の多數は行動の自由をもたない、彼等は政黨の軍隊的統制に對して絕對的服從をなさねばならないのである、政黨の資金は一部分は少くとも實業界から出資されるそれ故に政黨及び所屬議員等は「民衆の純粹な代表者」たることは出來ない

現實に於てデモクラシーの政治は現在の關する限り三つの主體をもつてゐる・その一は民衆であり、その二は政黨であり、その三は實業團である・而して政黨は他の二者の中間に介在してそのブローカーをつとめながら自己自身の利益をはかつて生活するのである、また新聞紙が勢力を揮ふ社會に於ては有力な諸新聞が民衆や政黨や實業團と對立して第四の主體を構成してゐる

かやうに民衆自治は實質に於ては「少數者の支配」から脱れることが出來ない、有權者の範圍が擴大すればするほど少數者の支配は容易となる、しかも今日、この少數者の支配たるや多くの場合「金權的」または「成り上り者的」少數者の支配であるが爲に夫は優雅を缺ぎ德を缺いてゐる、併しながら夫に拘らずデモクラシーには希望がある。何となればデモクラシーの政治形式をとる社會の政治は常に民衆的手續を履まなければならないからである。民衆は選擧に於ては、形式上は少くとも最高である。即ち選擧場に於ける民衆は形式的には政治家等の主人である。それ故に選擧場に於ける民衆をして政治的に聰明ならしめることに明日の政治の希望が懸つてゐるのである。

三

イギリスのラスキンは「デモクラシーは舊貴族に代ふるに新自然的貴族を以てする少數者の支配である」といふやうなことを言つてゐるが、これは誠に至言である。デモクラシーの社會はブルジョア貴族、學者貴族、勞働貴族等によつてゐるといふことは眞に一面の事實である。けれどもこれらの新貴族は選擧に於て多數を制さなければならない。彼等は直接又は間接に政黨に關係することによつて政黨を通して民衆多數の力を自己の方に牽きつけなければならないのである。そこに民衆の側に於ける有利な立場がある。

民衆は日常の生活に忙はしいから、つねに彼等の代表者等を監視することは出來ない。民衆がその代表者等に對して眞に彼等の意志感情を發表し得る機會は多くの場合・選擧の時に與へられるのみである。彼等は彼等の人格、利益・感情、社會的意見等を選擧權を通して表白し得る。而してデモクラシーに於ける民衆の參政はその最善に於てさへも「選擧權の行使」以上には出でないのであるから民衆が如何に聰明に選擧權を行使するかはデモクラシーの運命にかゝはる根本問題であると言はねばならない。

デモクラシーに於て民衆を政治的に聰明ならしめる爲めには、民衆をして政治に興味をもたしめなければならない、民衆が眞に興味をもつ政治は芝居がゝりの政權維持獲得鬪爭であつてはならない。民衆の政治的興味は生活中心の政治でなければならない。即ち社會の調和を目的とする社會の支配經營——それを古代に於ては牧民と言つた——がそれであつて、民衆の道德的、知的、經濟的生活を安定せしめ且つ向上せしめるが如き諸政策を講ずる政治が民衆によつて希求されるやうにならなければならぬ。

それ故に民衆を自己の方に牽きつけんとする政黨は生活中心の政治を第一に行ふ社會的義務がある。また民衆の政治教育に當る人々は民衆をして政治の現實と理想とを殊にデモクラシーの理論と現實とを深く了解せしめる必要がある。民衆は訓練されなければならない。訓練のない民衆自治は無責任な煽動政治家に活動舞臺を提供するに過ぎない。民衆を全能な神樣であるかのやうにいふ政治家は實は煽動家である。かくの如き政治家は利己的に民衆を操縱せんとするものである

民衆は自惚れてはならない。自惚れは自己破滅であり、進步の否定である。デモクラシーに於ける民衆は絕えず善良なる指導者等を見出して自己を訓練しなければならない明日の政治の成功不成功は民衆の自己訓練の上に懸つてゐると言ふても過言ではなからう（完）

人口問題漫論

日本人は働くを嫌ひ費すを惜まない

その上に多食で産兒はひかへぬ

經濟學博士　永井亨

一般の考ふるところによれば、今日の我國の人口問題は食糧問題に誘はれて起り、移民問題に叫ばれてをり、若くば失業問題に刺戟されて起つたとされてゐる。從つてこれが解決策としては食糧の增殖、移植民の獎勵、勞働需給の調節などが適當とされ、現に政府の人口食糧問題調査會でもこの三方面に色々調査、研究の手數を重ねて中には勞働需給の問題及び農產物の增殖の如く、それ〲答申が爲されたものもある。併し果してこれが人口問題の正しい認識であり、また適切妥當な解決策であらうか六ケしい學問的の考へ方は別として、私け餘りに世間の單純なのを遺憾とする。

一體、今日の世相を世人は如何に見るか、生活難は深刻を極める、就職難もまた切實である、事業界は沈衰し失業者は巷に充つ、會社は倒產し、銀行は破綻する。如何にも氣の毒なことばかりである、併し半面から見れば又全然趣きを異にする事件も尠くない。重役の背任、不當の支出、不當の貸付・公金の費消等々。實に失態、醜態の百出である、又自殺や他殺も毎日の樣に傳へられる、所がこれが悉く皆貧に迫つての悲劇かといふと必ずしもそうではない、寧ろ人間として恥づべき罪惡と見らるゝものもあり、甚しきに至つては獸類にも劣らぬ狂暴な犯罪さへある。

勿論働き度いとは思ふが職がないために働くことの出來ぬ人も澤山ある、けれども働ける身でありながら骨を惜んで働かない者もまた決して少くない、或國では働かない勞働者はその國を危ふくすると言つて居る、その國では國民は働くことを惜むが又費ふことをも惜んで居る。他の國では國民は費ふことを好むが又働くことをも喜んでゐる。然るに我が國では働くことを嫌がる癖に費ふことは一向惜まない、遊ぶことは歡迎するが働くことは喜ばない。立派な身裝はしてゐるが正業はないといふのが尠くない、近來の婦人の如きは洵に虛榮そのものである・働くに忙しいのか遊ぶに忙しいのか全く見當が付かない、約束の時間はツイぞ守つたことがない、用談には長々と前置がある。雜談しかゝると殆ど涯しがない。餘程の有閑國民の擲ではないか、けれども工場その他規律ある作業に從ふ勞働者には大切な休養の時間、修養の時間さへ與へられない。それかと思ふと戶外の監督の目の及ばない自由勞働者には怠け者が頗る多い、否怠け者は官公署その他の勤め人に最も多い、又成年男工より年少女工の方が働く時間が長い、上級の吏員社員より下級の吏員、社員の方が働く分量が多い。頭腦を勞する人よりも筋肉を勞する人の方が長く又多く働く。だから頭腦を惜む。しかも凡てがそれを當然と思ふ程精神が弛緩して居る。頭腦でも筋肉でも直接自分を働かす人に限つてその生活は極めて程度が低い。而も一般我國民は多食であると言はれる。成るべく尠く働いて成るべく多く食はうといふ者が餘りに多い。

見渡した處之等は皆人口問題發生の誂へ向きな材料である。加之誂へ向きの材料は必ずしも之ればかりではない。多產の如き最も誂へ向きの材料である。生產は出來るだけ控へて生殖は出來る丈け控へない最少限の生產と最大限の生殖、全く不思議な經濟法則である。一般筋肉を働かす人の能率は勞働時間に比して極めて低く、頭腦を働かす人の能率はその給料に比して更に甚だしく低い。働かずして取る所得は働いて取る所得に比して又更に甚だしく高い。それでは生產の增加は圖れない。分配の公平ともならない。時間は空費され、物質は浪費され、不勞所得は奢侈となる。それでは節約とはならない。資本の蓄積ともならない一面に於て我國は極めて自然力に惠まれて居ない。天然資源は極めて薄い。而も人口の增加率は極めて高い。最近の統計に依れば殆ど百萬近くの自然增加率が示されて居る。人口問題の起るのに何等不思議はない。併し人口問題の解決の鍵を握るものは何としても社會の生產力である。決して單なる食糧の增殖力ではない。社會の生產力の中には勞働力もあれば、又技術力もある。見方に依つてはそれは物質力でもあれば精神力でもある。今や我が國ではその何れもが空乏し消磨して居るのである。人口問題の解決策は宜しく、この點を出發點として考へねばならない。單に食糧の增殖にのみ囚はれて、低調な對策を講ずる如きは、斷じて一時の胡魔化し以外の何ものでもない。（完）

更新の春を祝す

果實一手販賣　熊岳城殖產株式會社　振替大連一九八六番　電話一一六番

農事試驗場員一同

熊岳城農業學校長　桑畑忍

熊岳城郵便局長　片桐壽八

熊岳城驛長　廣谷宗一

熊岳城地方委員議長　古川正一

熊岳城地方事務所主任　竹村虎治

熊岳城地方委員　岡島貞

熊岳城小學校長　永野善三郎

地方委員　熊岳城公學堂長　平林玉三郎

熊岳城公醫　山下喜兵衛

熊岳城保線　秋森勇

南滿鐵電支社主任　川崎一郎

熊岳城消防組一同

列車呼賣　お壽し　貯藏果實　（矢）大矢商店　熊岳城驛構內賣店　振替大連二四四五番　電話二六番

りんご◆なし栽培　豐壽園　園主　小田切豊

果樹栽培◆自園果實販賣　熊岳農園　（本園）熊岳城（分園）王家　園主　岡島貞

熊岳城　鷹野農園　振替大連六四〇番　電話一二番

熊岳城石材公司　本店　大連市惠比須町　電話長六六一三　出張所　金福鐵路　蠶廠屯

藥房　米谷宋清堂　本店熊岳城內　支店驛前通

雜貨商　千葉商店　振替大連一三六四番　電話二四番

熊岳城　溫泉ホテル　電話長二十七番

滿鐵石炭特賣店　蓋平城內成和公司　笹山卯三郎

果實栽培　蓋平　富士農園　構內販賣　（振替大連一八一三番）

疊製造並に請負業　住田商店　熊岳城

蓋平　成記號藥房

滿日支局　電話四十五番

熊岳城本園　下野農園　九寨分園　得利寺分園　電話十四番　振替大連七三六番

喪中につき年賀欠禮仕り候　萬秋園主　大宮市助

喪中につき年末年始欠禮　下野農園支配人　門川一男

教育の「根本問題」

西洋の模倣から脫して國民的に自覺への訓練

文學博士　紀平正美

一

明治維新の大改革と共に、西洋の文物制度が非常な勢ひで我日本にとり入れられた。そして、一にも西洋、二にも西洋、西洋のものなれば、それが如何なるものであらうとも、無上に有りがたがつたのが、當時の一般的な狀態であつた。凡そ一國が他國の文物制度を取り入れる以上、ある時期までは模倣的な域を脫することが出來ないのは當然である。この意味に於て、西洋の教育制度を取入れた我國の教育が、ある時期まで模倣の域を脫することが出來ないのを見て、我々はこれをとがめやうとは思はない。然しながら、明治維新の大改革と共に、我國に新しい教育制度が施かれて既に數十年になるが、而してその間に幾多の改善が行はれたにも拘らず、今日尚依然として西洋の模倣から脫することが出來ない狀態にあると云ふことは、我々日本人にとつて遺憾至極のことである。

凡そ一國にとつて最も重大なるものは教育であると云はねばならぬ。一國に於ける教育方針のよろしきと否とは、直にその國運を左右するほどの重大なる意義を有するものである。即ち、その國の教育方針がよろしければ、國民全般の道德標準が高められ、國民生活が健全となり、延いてはその國の國運も隆盛となる。これに反して、その國の教育方針が誤つてゐれば、國民一般の精神生活も墮落し、人々は徒らに功利心が發達し、遊惰の夢にふける結果は、遂に國運も衰退する譯である。斯樣に教育といふものは國民生活の指針でありて國家生活の原動力となるべきものである。

然るに、現代の教育情態は如何なる傾向にあるか？

先づ我々は今日の中等教育の現狀を少しく考察して見たい。

今日、如何なる種類の中等學校に於ても外國語を正科として取入れてないものはない。私が中等學校が外國語を取入れることそれ自身を決してこゝで非難しやうとするのではない。今日の如く國と國との關係が國際的にある現狀に於て、他國語を知ると云ふことは、決して無意味でないばかりか、或る意味に於て非常に必要なことである。然しながら、中等學校の生徒に外國語を教へると云ふことが單に形式的に年少者の頭に外國語を詰め込むと云ふ結果に終つた場合には、それは害こそあれ、決して益のないことだと云はねばならぬ。然るに、現在、中等學校の學生に外國語を教へることは、それが形式的な詰込主義に終つてゐるがために、それによつて生徒自身が廣く智識を世界にもとめるといふやうな結果をもたらさずして、肝腎の自己と云ふものを失つて[しま]ふと云ふやうな[illegible]をもたらして居る。

少年から青年へかけての時代は一生を通じて最も知識慾の旺盛な時代である。然しながら、如何に知識慾の旺盛な青年と雖も、學校に於て、單に形式的にさま〴〵な學課を課せられたとすれば、これに對して無關心な態度をとるのが、また彼等青年の特長である。それ故にあらゆる學課は、眞に彼等の知識慾をそゝり、彼等の興味をそゝるやうに充分に考慮を拂つて課せなければならぬ。然るに、今日の中等學校に於ける外國語は、機械的に彼等に課したる最も標本的な學課の一つである。今日、一般中等學校の學生の頭を最も惱ましてゐるのはこの外國語である。これを教へる教師も骨を折るため肝腎の教育の精神と云ふやうなものを忘れてしまひ、これを教へられる學生も、あまりに頭を惱まされる結果、教育の何たるかと云ふ根本義を理解する餘裕もなく、前にも述べたやうに自分の存在さへも忘れてしまふやうな結果となるのである。そのために、意志薄弱なるものは、神經衰弱に陷り、或は孤獨感に囚はれ、遂には譯も分らぬ厭世思想に囚はれて自殺するが如き悲慘な結果を我々はあまりにしば〳〵見受けるのである。

二

入學試驗の期節になると、試驗に失敗した學生の自殺がしば〳〵新聞の三面を賑はす。それはある意味に於て今日の誤つた教育制度の犧牲に外ならない、即ち、今日中等學校で勉強することは眞に自分を精神的に鍊へることゝは考へずして、單に高等專門學校に入るための教育であると云ふ風に、教へる教師も教へられる生徒も一般に考へてゐるがために、換言すれば、功利的な見地から教育を施されるがためにかうした結果を招くのである。

教育の根本義は、利害の念を超越して、國民生活の何たるかを摑むためのものでなければならぬ、然るに今日の教育は、この教育の根本義とは全然相反した方法によつて施されてゐる、我々は如何に多くの智識を授けられ、如何に幾多の學問に通じても、國民生活の基調たる國民精神をしつかりと摑むことが出來なければ、一國の國民として何も役に立たない、外國語をとり入れることが、單に外國の智識を頭の中へ詰め込むだけで眞に日本人としての本來の精神を摑むことを忘れるやうであつては世に害毒を流すばかりである。一國にはその國固有の精神がある、これと同樣に、日本には日本固有の精神があると云ふことを知らねばならぬ、教育とはこの國民的精神の自覺に到達することでなければならぬ、この意味に於て、種々の智識に關することは、教育の上から見れば第二義的な意義しか持つてゐない、然るに今日の教育は本末を間違へてゐるやうである。

三

前にも述べたる如く、或國の教育は精神を忘れた形式主義に囚はれてゐる、然しながら、總てのものがさうであるやうに、殊に教育にあつては精神が伴つて始めてその形式が我々のために實際に役立つのである精神のない教育は魂のない人間を作ることである。一般的に今日の教育が非常に誤られた方面に進みつゝあるが、最近その反動的な傾向として、今日の教育制度の種々の缺陷を何とかして改善しなければならぬといふ叫びがある一部分から起りつゝあるといふのもまた事實である。最近、教育改善の具體的な問題として入學試驗制度撤廢が社會的な問題として現れたのはその著しい一例である。然しながら、我々はこの入學試驗制度撤廢を輕率に實行してはならぬ。この入學試驗制度撤廢を眞に教育制度の改善といふ點から實行するためには、單に制度の撤廢と云ふことだけによつて解決してはならぬ。そのためには現在の教育上に於ける種々なる弊害を改善してからの上でなければならぬ。殊に各自が教育の何たるかと云ふ根本精神を摑まねばならぬ。然らざる限り、如何に入學試驗制度を撤廢しても、從來の弊害に十數倍の弊害を重ね、改善は却つて改惡となることは火を見るよりも明かである。然しながら、一般の傾向が今尚は模倣の域を脫しないにも拘らず、その半面においてかゝる改善の叫びが上られつゝあると云ふことは、喜ばしき傾向と云はねばならぬ。我々はかゝる傾向が起りつゝあることを一機會として、我國の教育を形式の上からも精神の上からも根本的に立て直すやうに努力しなければならぬ。そのためには、小學から中學に至るまでの生徒たちに、徒らに多くの教材を背負せることをやめて、その教材を日本人の國民性或ひは國情に應じて適宜に選擇しなければならぬ。また、それよりももつと肝腎なことは、小中學生をして國民的自覺への訓練と云ふことに力を注がねばならぬ。

凡そものゝ改善は決して一朝一夕に行はるべきものではない。急速に行ふと、必ずそこに錯誤が生じる。だから、今日叫ばれてゐる入學試驗問題撤廢も、さし當つて我々に與へられた一つの研究議題として、お互ひに愼重に考へ、一歩々々先づ手近なところから手をつけて、徹底的な改善を期するやうに努力しなければならぬ。各自が今日の教育制度が誤つてゐると云ふことを充分に自覺したならばそれに對して忌憚なく意見を戰はし、お互ひにかうしなければならぬと云ふはつきりした一致點が見出されて、始めて教育制度の改善と云ふものが誤りなく實行され得るのである。

最近、種々なる方面に於て復古的な傾向が現はれつゝあることは一面から考へれば、我國が外國の模倣から脫して、自分自身の本來の姿に歸らうとすることを意味するものである。教育方面に於ても、よい加減で外國の模倣から脫して眞に日本自身に立脚つた國民教育を實施しなければならぬのが、今日我々に與へられたる最大の義務である。（完）

謹賀新年

瓦房店守備隊　國司憲太郎　平野秀郎　杉本守衛　鳥羽悟　益田二三雄

瓦房店警察署　林源之助　齋藤齡鎧　春木淺次郎　井上廣太　羽田雄三

瓦房店地方事務所　長井祖平　吉田庫人　有田俊次郎　鈴木七八　藤原藏吉

瓦房店地方委員　石丸幸作　森田彥三郎　小川政次　金野光明　前田逸夫　松尾新藏　木村住造

[illegible]長　鳥森

瓦房店小學校　杵淵彌太郎

瓦房店公學堂　福井優

瓦房店郵便局　尾崎重樹　若松喜八

森田彥三郎

瓦房店　工友會一同

瓦房店　機關區一同

瓦房店　醫院一同

瓦房店　保線區一同

瓦房店　圖書館

瓦房店　東區長　藤山佐太郎　西區長　井上伊七郎

得利寺煙草耕作組合

瓦房店　石丸果樹園　電話一〇二番

合名會社　川上農園　得利寺

果樹及苗木　木幡農場　得利寺

煙草模範耕作　松井農場　得利寺

瓦房店電燈株式會社　電話（長）一七番　熊岳城營業所　電話三一番

御料理　筑紫館　瓦房店（電話一五番）　桃太郎　若勇　八千代　金蝶　金之助　榮子　操　小菊　小蝶　末吉　外仲居一同

酒類食料品　京染呉服　巴商行支店　（電話四五番）

瓦房店西區　田中洋服店

瓦房店東區　天野商店　電話一一番

瓦房店西區　和洋菓子　花月堂　電話一四番

瓦房店東區　マルイチ商店　電話七三番

瓦房店驛前　菓子商　滿壽屋

瓦房店驛前　藥種商　高橋誠正堂　電話七九番

瓦房店東區　明治生命保險代理店　深草商店　電話三三番

瓦房店西區　食品世帶道具　島田商店　主　島田善吉

瓦房店西區　履物商　森商店

瓦房店驛前　御旅館　榮旅館　本年も宜敷御引立を願ひます

瓦房店東區　會席料理　東雲　電話二六番

瓦房店西區　食堂　ヱビス

滿鐵倶樂部　食堂　槙戸喜一郎　電話一〇五番

瓦房店西區　喜樂跡　つる家

西洋洗濯　藤川洗布所　瓦房店西區

三十里堡　果樹組合

萬家嶺驛前　吉田連

普蘭店民政支署　總務課　天野作藏　惠利正雄　泉柳次郎　松本諏直　飯田牧四郎　奥田・重太郎　警務課　清水澂　東清一　森本森太郎　脇山小一郎　村谷慶次

喪中に付き年賀の禮御遠慮申上候　普蘭店民政支署　小林鐵藏

日本赤十字社普蘭店委員支部　主任　今泉牛五郎

普蘭店金融組合　尾股忠助

普蘭店小學校　井神貞一

普蘭店公學堂　高田九郎

普蘭店郵便局　山根隆三

普蘭店驛　福井十一

海關　印藤義一

普蘭店電燈株式會社　電話一〇八番

大日本興業株式會社　普蘭店出張所　電話三六番

各種陶磁器土管水缸類　耐火煉瓦　耐火粘土　復州粘土窯業公司　電話三二番

普蘭店商議會長　王貴臣　電話一二番

北支那種苗公司　普蘭店　鈴木俊雄　安東照　電話一一六番

落花生及特產　大澤商店　電話一〇番

和泉研

洋服仕立　谷村洋服店　谷村儀照

滿洲銀行普蘭店支店　近藤治

御料理　遊樂　鈴子　八千代　秀勇

雜貨商　石丸商店

御旅館　松山館　石・丸十作　電話七番

御旅館　三島館　大中河羅太郎　電話五番

石炭商　小出洋行　電話四番

土木建築請負業　新谷健二　電話四一番

果樹園業　入江順太郎　電話一〇七番

果樹園業　河本照

代書業　狩野一二　電話一〇一番

和洋菓子　西川房吉　電話一一〇番

公正社　井上貞司

普蘭店管內石河驛前　花崗石　石硅石　川砂　販賣業　牛田虎熊

旅行中に付年賀缺禮仕候　公醫　豊島慶三　電話一一二番

瓦房店西區　石炭販賣　川上洋行　藤沼長吉　板橋喜久治

謹賀新年

今村貫一
今中良
長谷川辰次郎
大連小崗子警察署長 關東廳警部 星武
値賀連
小野實雄
小川慶治郎
大仲齊之助
恩田熊壽郎
和田富雄

吉村英吉
高崎弓彥
田中知平
立川雲平
高岡又一郎
田邊三槌
高橋武夫
中川竹太郎
野津孝次郎
野木和一郎

村井啓次郎
內海安吉
黑田誠
日下卓四郎
山葉龜五郎
大連工業株式會社 取締役 桝田憲道
小島定吉
小島鉦太郎
有馬邊
榊谷仙次郎

大連警察署長 關東廳警視 水野柳治
槐常藏
平田驥一郎
大連水上警察署長 關東廳警視 森脇留吉
妹尾俊太郎
今井榮量
高橋仁一
副島善文
大連市助役 小數賀政市
共保生命保險株式會社 大連支店長 坂本茂穗
緒方治郎
日下部鉦次郎
大津義雄
三木卓
篠原忠男

飯塚祇吉
石本鏆太郎
石田禮助
糸賀庄造
原田光次郎
濱田周洞
堀諫
富次素平
岡虎太郎
奥田千之
和田敬三
渡邊禮
神成季吉
貝瀬謹吾
横田多喜助
田中千吉
田中喜介
田邊敏行
田村羊三
高柳保太郎
竹中政一
築島信司
土屋信民
塚本貞次郎
村井啓太郎
宇佐美寛爾
山本条太郎
山口啓三
松岡洋右
松田義雄
古澤丈作
藤根壽吉
藤田臣直
神鞭常孝
小日山直登
寺田虎次郎
相生由太郎
櫻井學
齋藤良衛
佐藤至誠
佐方文次郎
木部守一
北代眞幸
杉野耕三郎

活版石版印刷文房具
小林又七支店
大連市大山通り
電話六一六一番

南滿洲倉庫建物株式會社
大連市山縣通り
電話五九九〇番

化粧品小間物商
大連市信濃町一五一番地
小泉商店
電話七二〇三番

絨地洋服商
大連市大山通一六一
武内洋行
電話四二一一番

合名會社 大連大理石製作所
大連市德政街二〇
電話六三五〇番

藥品雜貨貿易商
合資會社 大連洋行
大連市西通九三
同 大山通二八
電話三三五五・六〇二五番

◇波も靜けき二見ヶ浦のあけぼの◇

歳末の三御儀式 嚴に御執行
きのふ宮中において
節折、大祓、除夜祭

【東京三十一日發電】十二月三十一日は宮中にて節折、大祓、除夜祭の三つの御行事が行はれた、節折は鳳凰間において正午より九條掌典長の手によつて行はれ、大祓は一般臣民の罪穢を祓除するため宮中賢所の前神樂舍において行はれ、各廳の勅奏任官總代各一名が掌典部員から一祓を受ける、除夜祭は大祓の後賢所皇靈殿神殿において三殿を開扉して海の物、山の物八臺づゝを供して御神事を營むの御儀で九條掌典長以下各掌典は午後五時から三殿を開扉して祝詞を奏しこゝに歳末の三つの御儀を終つた

浮世を離れて祝ふお雜煮
◇―罪の報いの冷い部屋に けふ迎へたお正月

百八の鐘のひゞきとともに「味噌こしの底に溜りし大晦日、越すに越されず越されずに越す」てふ元旦は上も下も新羅萬象を押しなべて大連萬街「お芽出たう」の元旦は訪れたが、こゝにはまた浮世の風を隔れての

風流にも非ず已が犯せし罪とは言へ、世にも悲しい囹圄の裡にこの限りない目出度さの初日を仰ぐ人もある・今朝「一視同仁」の有難い御雜煮の箸を嚴前屯刑務所分監の内に戴く人は年末の大事件無電法違反、撫順水中炭詐欺等々の未決が百三十六人、赤い囚衣の既決が三十三人、大連市内の各署の監房は

署名	日人	外人	支人	計
大連	四	一	二一	二六
小崗子	一	―	[illegible]	九
沙河口	一	―	三	四

三署合計百二十九名、大連署には鮑貨幣氏を種に一萬圓を詐取した中村力藏、白系露人のスタウツキー、ダビント

大晦日を前にした二十八日南關嶺事件の匪擾犯支那人九十二名の珠數つなぎがあり、小崗子署にはスツコプを揮つて一名を致死二名を危篤に陥らしめた元奉軍の軍醫なども交つてゐる

南西の風で元日は晴れ
後曇りの天氣豫報

大連觀測所の測候によれば元日は高氣壓が大晦日に引續き黄河及び揚子江の兩流域を覆ひ、七百七十二粍を示し、千島近海に發達した低氣壓が横たはり、東蒙古と日本海中部にはそれ〴〵淺い低氣壓が現はれてゐる、天氣は朝鮮南部から裏日本にかけ雪を催したところが多いが其他は表日本から滿鮮地方に渡り概ね良好を保つてゐる、東の方面に大陸底氣壓が接近しつゝあるから附近の天氣も大した變化はあるまいが、後には曇るかもしれない

蓋明けの初春興行
いづれも素晴しい陣立て

山の色、海の色も新に明けそめてけふぞめでたき昭和三年の元旦である……。市内の各活動常設館や芝居小屋とうは入口におもひ〳〵の裝ひを凝らして客足の吸收に大童であるがプログラムの

陣容を整へて華々しく蓋をあける、各方面における初春興行の陣立は次の如く、愛活家、愛劇家をして胸を躍らせるものが多い。

○―歌舞伎座　木下八百十一座で開演▲鑑賞時代劇「忠僕直助」四場、現代劇「人の親」二場、舊劇「辨天小僧」三幕▲入場料特等一圓八十錢、一等一圓二十錢、二等七十錢、三等四十錢、小人各等四十錢

○―大連劇場　曾我廼家泉虎一座で開演▲滑稽笑劇「明さぬ耻」二場、喜劇「引祝」二場、舊劇「鵜の一聲」二場、社會劇「山の色新なり」一場、舊喜劇「彌次喜多道中記」五場▲入場料特等二圓五十錢、一等二圓、二等一圓五十錢、三等八十錢

○―浪速館　河部五郎、大河內傳次郎、酒井米子共演の「彌次喜多尊王の巻」パラマウント特作グロリアスワンソン嬢主演の「當り狂言」

○―演藝館　阪妻プロ、森靜子主演の小唄映畫「戀の島」帝キネ時代劇「天下泰平」同時代劇「劍人」ファストナショナル映畫「氣狂商賣」

○―帝國館　阪妻プロ　妻三郎主演の時代劇「護國の鬼」高尾光子主演の松竹映畫「なつかしの母」同喜劇「月は無情」

○―寶館　嵐長三郎主演の鞍馬天狗異聞「續角兵衞獅子」マキノ青年俳優總出演の寫生ローマンス「學生五人男」

大雪崩に押流され早大生十一名埋沒
內四名は遂に行方不明となる
北日本アルプスで

【松本電報卅一日發】早稻田大學山岳部員廿八名は雪のアルプスにて元日の初日の出を拜すべく三十日大町登山口から針ノ木峠に向つた處、先發隊十一名が雪崩のため谷底に押流されたので一同必死となつて助け合つた結果、辛うじて七名だけは救ひ出され四名は行方不明となつた、大町からは直に救護隊出動捜査中であるが積雪深く捜査に困難を極めてゐる

笠戸丸の船火事

【長崎卅一日發電】大阪商船印度航路貨物船笠戸丸(六千二百噸)は廿八日神戸發香港に向ふ途中長崎縣五島群島を去る約百海里沖合で中甲板船艙より發火、防火につとめると共に各所に無電を發しそのまゝ三十一日午前一時長崎港外に徐行し、假泊十一時ヤツと鎭火

◇初詣での大連神社

驛構內の晝火事 食堂を全燒
勤務員の不注意てか
お正月の重詰も全滅

三十一日午前十一時廿五分ごろ、大連驛構內食堂左側の奥まつた隅に据ゑ付けあつたストーブより發火し、同食堂が木造であつたゝめ火はたちまち

天井裏へ燃え上り今井警部補の指揮する大連消防隊や全市消防も出動消火に努めたが遂に二棟續きの一戸を全燒して同十一時五十分鎭火した、原因は取調べ中であるが食堂勤務員の不注意からではないかと警察當局では語つてゐた、なほ損害は[illegible]まいといはれてゐるが[illegible]各方面から注文を受け[illegible]滅で非常に

氣の毒がつて[illegible]獨立經營が明日に迫つ[illegible]は面目ないと同時に[illegible]りで旅館會社繁榮の[illegible]ぬとさゝやいてゐた

拐帶犯人捜査願

原籍兵庫縣津名郡洲本町字紺屋町四九當時長春日本橋通り一六土木建築請負業阿川洋行店員小野立夫(二六)は去る二十六日朝滿鐵より受取つた六千八百七十八圓八十五錢の外正隆銀行で春支店から引出した當座預金二千圓及び同店事務所に備付の金庫內に在つた現金百十一圓餘合計八千九百七十八圓八十五錢を拐帶し翌二十七日午前八時二十分長春發急行列車で大連方面へ逃走したので店主から大連署宛取押方を願ひ出た

烈風に煽られ六戸を燒く
橋立町の火事

三十一日午前一時半ごろ市內橋立町一〇露天市場二區三九靴商戴沙法方より失火、折柄の烈風に煽られて雜貨商曲綿增、吳服商林增山、古物商馬會堂、古物商王衡彥、古物商姜榮生の五戸に類燒し、午前二時半鎭火したが原因は煙突の不完全からで損害高一萬餘圓に上る見込であると

○……大晦日の晝火事(全燒した大連驛食堂)

オートバイ衝突 三警官死傷
火事さわぎの中で
奉天の椿事

【奉天特電三十一日發】奉天警察署では年末匪賊警戒中、三十日夜十時ごろ松島町一六桶製造業種田三次郎方工場より出火したゝめ現場に馳せつけんとする金子巡査操縱のオートバイと電車とが宮島町一六番地先に於て大衝突をなし同乘中であつた鋤本刑事は重傷を負ひ遂に死亡するの大慘事を惹起した、同夜は零下廿二度六の極寒で前方の見透しがつかずこの慘事を見るに至つたものでオートバイには前記鋤本刑事のほか尾畑警部補、菅谷巡査部長が同乘し尾畑警部補は左第五肋骨の打撲傷を負ひ內臟に餘病を併發せない限りは生命に異狀なからうと、また菅谷巡査部長は左脛、上唇に約一寸の裂傷を負ひ顔面打撲傷左大腿部關節脫臼の重傷を受けたがこれまた生命は取とめる模樣である

鋤本刑事は後頭部を激突されたゝめ腦震盪を起し昏睡狀態のまゝ滿鐵醫院に擔ぎ込まれ三十一日午前二時死亡したのである、氏の葬儀は四日擧行されることゝなつたが未亡人には二男四女があり長女は奉天高女五年に通學中であると

素晴しい景氣に惠比須顔の商人
諒闇も明けてニコ〳〵の
忙しい暮の巷から

一夜明ければお目出度いお正月といふきのふ、慌たゞしい暮の巷を覗いてみる、諒闇明けの晴やかさと來年こそはといつた氣持ちが

門松や〆飾りにも、さては路行く人の面にも見受けられる浪速町通の雜踏、今日を限りと客を呼んでゐる露店にもお正月の飾り付や贈答品と一つぱい、近江洋行、浪華洋行、伊東吳服店さては白木屋洋服店の暮の景氣はと聞けば何れも昨年よりは良いと云つてゐる繁城町通に出て花の屋菓子店でも今年は二割方の出が多いとはさもあらう暮の氣分は何と云つても信濃町市場の內外だ、常盤橋の一角に並んだ、六十軒餘りの

飾屋　昨年よりは二十軒も殖えましたと云ひながら賣れ行はかへつて多いとて何れもニコ〳〵顔、市場の中に一歩入ればこれは赤入の波で身動きも出來ない混雜暮の三日間で一ヶ月以上の賣上があると云ふ其人混みの中を常盤橋のお巡りさんが拘摸や萬引ご座んなれと凄い目を光らしてゐる、それでも今年はまだ一人も捕まらないとトンダところでヒカンしてゐる、市場事務所の青木さんは大ホク〳〵で「何しろ今年は昨年の十二月に比べて

十萬圓　近くの賣上が增してゐます、此人ごみですから市場の中を一廻りするのにたゞ通つても三十分以上かゝります現金や買つたばかりの反物を落して行く人も澤山あります、一日のお客の數、そんな事はとてもわかりません、此三日間の賣上は一日五萬圓を下るまいと思ひます」と大喜びである、流石は諒闇明けの新年を迎へんとする景氣のいゝ年の瀨ではある

近頃珍らしい埠頭の賑ひ
大晦日の出船入り船

正支關前には大國旗を立てた松飾りをしつらへ在港日支船舶一齊に檣頭高く松を掲げて諒闇明けの新春を迎ふる用意なつた卅一日の大連埠頭は內地、上海、兩定期船の各投着、天津定期船の入港で午前十時から午後一時までは近來稀なる雜沓を呈した

△ハルビン丸(午前十時出帆)病氣靜養のため一個月の豫定で別府に赴く羽田大連鐵道事務所長、家族同伴歸省する滿鐵囑託將校河野巽少佐今次の陸軍異動で內地へ榮轉する秋山三省少佐(近歩兵第三聯隊附)佐藤豐治少佐(本鄕聯隊區司令部附)直田久太郎少佐(第廿一聯隊附)同栗原藤吉少佐(第十一聯隊附)同上各家族、辯護士小野實雄、同石山憲一氏その他入營兵諸君が乘船したので非常な見送人であつた

△大連丸(午前十一時上海青島より入港)正月休暇を利用し遊びに來たと稱する魯大公司顧問實相寺貞彥氏、山本滿鐵社長に年賀に來たと云ふ裕昌煉礦公司主陳留三氏夫妻、奉天北京に向ふスマトラ駐在民國領事施紹曾氏等來連

△榊丸(午前十一時出港青島上海行)舊安福派全盛時代の師團長曲同豐氏上海へ

△アメリカ丸(午前十一時半入港)會議の爲め內地に出張中なりし關東軍司令部附川邊三郎中佐、大連商業校長友木睆氏、滿鐵衞生試驗所技師布田正次氏等一等六名、二等十六名、三等百〇一名計百廿三名と云ふ近頃珍しい閑散振り

△天潮丸(午後一時天津より入港)朝鮮經由東京へ急行する山東督辦顧問小野弘毅氏、北京から參謀本部附に榮轉の元坂西將軍輔佐官多田駿少佐、同家族、前山東督辦山中玉夫妻、前四洮副局長程式峻諸氏等各等滿員に甲板まで滿載の盛況であつた

當り歳の大連藝妓
景氣の良い龍の名前

◇……縁起を祝ふ辰歳の初春を迎へた大連花柳界の辰歳生れの藝妓は、大連檢番約二百四十名のうち十六、七名でいづれも明治三十七年生れの明けて二十五歳の甲辰六白の中年增である。先づ一流どころでは山口席の小桃に、哲の家の松てる、議太夫藝者の笹邊席の愛之助、琵琶藝者の金城席の愛幸、それに同じ屋方の正千代

◇……當り歳の藝者中の美人北村席の百々春、新開業の淡月の須磨奴、その他松坂席蝶子、淡月巴津司、小政、幸子、末廣席玉代、相生席玉三、北村席歌榮、笹邊席小丸、玉の家金彌等がゐる、また辰歳に因んだ龍の名前を持つた藝者には若いところで小川席千代龍、淡月正龍、笹邊席小萬龍、美しい咽喉の持主として評判の湖月の喜美龍があり淡月には石龍、登美龍が聞えてゐる

けふのラヂオ

昭和三年一月一日(日曜日)
自午前十一時
一親歌大連高等女學校生徒、二挨拶遞信局長櫻井學、三謠曲紳歌梅若流中川銀之助、四舞子舞櫻川連中、五長唄雛鶴三番叟唄ピアノ村岡樂童三味線中村愛子

謹賀新年
舊年中は一方ならぬ御引立に預りまして難有度ございました本年は更に大勉強を致しますから何卒不相變御愛顧の程偏へに御願ひ申上ます
大連市浪速町(浪速館隣)
營口 近江洋行
電話六六七三番

服喪中に付き年始の禮を缺ぐ
石川鐵雄

內地歸省中に付年始缺禮仕候
神職 春日町金刀比羅神社
平田勝重

父ノ喪ニ服シ年始ノ禮ヲ缺キ申候
昭和三年正月元旦
支那廣東省海南島海口海關
會田常夫

喪中に付年始の禮を缺ぐ
北滿蚊河
中屋敏夫

病氣中につき年始の御挨拶缺禮仕候
奉天滿鐵病院にて
增尾鉄三郎

謝出火御見舞
本日午前十一時出火の際は年末御多用中早速御馳付下被種々御盡力に預り難有一々拜趨御禮可申上處混雜中御尊名伺洩も可有之と存じ不取敢以紙上厚く御禮申上候
十二月卅一日
大連驛構內
滿鐵食堂車事務所

謹賀新年
朝鮮新義州
株式會社 鴨綠江輪船公司
電話四〇八・四五三番

新年の御寫眞は浪速町の光葉館で
電話五九八二番

謹賀新年
大連市山縣通り
金城銀行
電話五五七三

謹賀新年
輸出入船舶保險代理業
大連 和記洋行

旅行中に付年始の禮を缺く
ダブリユーエッチウヰニング

清酒澤龜
日本各地名產・珍物・
世界各國酒類・食料品
恭賀新年
昨年中は深厚なる御愛顧を賜り難有御禮奉申上候本年も不相變御眷顧御引立を奉願上候
東京風菓子謹製
宅の店
大連大山通
電話代表 五一九九

高級エセックス箱型
龍飛タクシー
電話五〇六五番
大連市山縣通二十番地

第一回賣出會 第五次當籤廣告
甲號 第一四番 當籤
乙號 第三九番 當籤
丙號い組 第一二番 當籤
丙號ろ組 第二六番 當籤
十二月三十日
大連市浪速町二九
伊東屋洋服店
電話八六二一番

御報せ
明けましてお目出度う存じます。本年も不相變御引立を願ひます。
イワキ町
電6512番

乘心地よき
大正タクシー
吉野町
電話五三九九番

大タクの電話番號
常盤橋營業所 3868 5774 8514
老虎灘出張所 4515
聖德街出張所 9324

謹賀新年

秦豐助
東京市四谷區內藤町一番地

山本条太郎
東京市赤坂區新坂町八十三番地

安廣伴一郎
東京市市ヶ谷砂土原町二ノ二

小泉策太郎
東京市麻布區廣尾町三三

兒玉秀雄
東京市市ヶ谷藥王寺町三〇番地

木下謙次郎
東京市麻布區簞笥町二九番地

鈴木隆
東京市麴町區永田町二丁目一番地

撫順炭販賣株式會社

本店　東京市麴町區永樂町一丁目一番地
丸ノ内ビルヂング內　丸ノ內一五七〇番　一五七七番　一五七八番長一五七九番

淸水出張員　淸水市辻町一、五二七　江尻局長一七六番

若松出張員　福岡縣若松市濱三番町二丁目五六　電話九〇六番

名古屋支店　名古屋市中區新柳町六丁目三番地
住友銀行ビルヂング內　電話本局長一、六五八番　二、一三一番

大阪支店　大阪市北區船大工町一番地ノ一
堂島ビルヂング內　電話北局二、〇四三番　長二〇四四番

大連支店　大連市山縣通一八番地
大倉ビルヂング內　電話六、一五一番

賀正

高級各種印刷及裝幀

共同印刷株式會社

東京市小石川久堅町
電話小石川八二、八三、八四、八五、八六、五三九、九三二、九三三、九三四、一三九九、二九七一

滿洲日報
元旦號 其の二

この機を逸せず 在滿邦商は立直れ
他力本願を棄てゝ努力せよ
大連商業會議所會頭 佐藤至誠

昭和二年は諒闇中のことゝて國民謹愼の裡に年を迎へ、四月內地金融界の大動亂は一種の革命とも見るべきで、以來財界は沈淪衰退の極に達したが、年末近くになつて昭和銀行の創立と共に各銀行の開業を見、十五銀行も亦單獨整理の基礎を確立して愈財界整理の見極めもついたと云へよう。從つて各方面に多大の好感を與へて來たことは喜ばしいことである。海外貿易の如きも二年度入超一億七千萬圓程度であらうと思ふが貿易外受取勘定から見ると結局五六千萬圓に過ぎないであらう。單に入超の數字から見ても昨年の三億三千二百萬圓に比すれば一億七千萬圓の減となつてゐるから近年の好成績と云へる。是はやがて財界が順調に向ひつゝあることを證するものである。我が滿洲も內地とは直接の關係あること故此大勢は當然滿洲財界にも好影響を與へるものと信ずる。近來特に變則的な步みを續けて來た財界は昭和二年の卯年で總勘定をすまし昭和三年は人氣辰の年で、御大典もあること故一般人氣も引立ち財界は景氣付くであらうから我々在滿商工業者も此機を逸することなく、大いに活動すべく今から準備をしなければならない。殊に今度設立の基礎を見た輸入組合は卸小賣商に取つて最も適切なる施設である。またそれだけに若しも一度組合員となつても除名される樣なことがあつたら恐らく其人は將來とも商人として全く信用を落す樣な結果になるだらうから、其點を充分注意して此絶好機關を利用し堅實なる地步を築かれる樣、又一面關東廳金融組合が出來るとすれば尚更牛貫ふ樣な他力本願的考へを捨てゝ努力主義の上に立つて邦商の衰勢挽回を計りたいと思ふ。

諒闇明けに應はしい 一陽來復
本年の我經濟界は光彩を放つだらう
德泰公司常務 山內貢氏談

先帝陛下の御登遐と未曾有の金融動亂にて暗雲に鎖されし昭和二年を送り茲に新帝陛下御即位の盛典を擧げさせらるゝ瑞祥に充つる昭和三年を迎へ財界も何となく陽氣に感ずるものである

昨年の財界

を通じて最も顯著な出來事は對內的には金融恐慌に依る事業界の整理、對外的には爲替低落に伴ふ貿易狀態の改善であると思ふ、昨春の恐慌は戰時以來の財界の不健全なる膨脹を切開して內部の刷新充實を計つたもので爲替相場の三ポイント下落は人爲策に依る圓價の割高を匡正して輸出入の均衡を齎したもので謂はゞ我財界を其本然の姿に立返らしめ、從來內部缺陷の糊塗や外觀の粉飾に依つて蒙りつゝあつた幾多の損失から免れ得たものである 故に財界の一時的混亂や對外信用の低下を嘆ずる者もあるが事實は之に依て財界を眞に健實な回復步調に轉ぜしめたもので寧ろ將來の發展よりすれば大いに賀すべき事と言はねばならぬ、かくてこそ本年の財界に好轉の望みを囑する事が出來るのである、然らば

本年財界の

趨勢如何と言ふに物價は購買力の減退により大體底調で了し他方爲替の先安より推して此れ以下の低落はあるまいと思ふ 貿易關係に於ては現在の我物價指數を對米爲替により換算したパリテイー指數は米國物價指數に比し些か割高だが、爲替の先安は圓の對外購買力を對圓購買力に牽引する傾向あり、他方米國の好景氣より見ても樂觀氣分濃厚である、事業會社の整理は既に昨年未完了せるものあり、遲くとも本年上半期には結了の模樣である、共同經營、生產制限による產業の合理化も着々進捗し業績の改良見る可きものがあらうと信ずる、唯目下流動資金缺乏に由り經營難に陷つて居るものもあるが銀行の合同減配に依る內部の改善、日銀の利下貸出警戒緩和に依る變態金融の訂正はやがて大なる資金の流出して證券界を通して事業界に注入し、商工業の利潤遞增は遲くとも下半期には實現の可能性があると思ふ、實に昭和三年の我財界は諒闇明けに應はしい一陽來復の光彩を放つ事と信ずる次第である
つて

滿洲財界を

見るに各種事業會社は殆と休止の狀態にあり、內地の金融緩慢も金融市場として孤立せる當地には大した影響もないのであるから、自動的好轉は諸會社の業績改善を先決とし、前途遼遠の感がある、只取引所即ち五品、豆信等は東京市場に上場され內地に於て思惑株として相當に賣買される關係上內地の氣配に追隨し尚一段の躍進を期待される

昭和新政に對する 財界の覺悟
景氣待ち僥倖心打破
正隆銀行常務 糸賀庄造

こゝに畏くも御即位の御大典を擧げさせらるべき諒闇明け後劈頭の新春を迎へ暦と共に乾坤自から新にして、上は昭和新政御發動の首途に立たせられ下國民は普選第一年を迎へ將に昭和御新政を翼贊し奉るべく新議會を形成せんとしつゝある。斯くて潑溂たる新興的國民精神の橫溢せんとする新時代の元旦を觀福すると同時にわが財界もまた大いに自力復興の精神を作振することの極めて肝要なるを痛感せざるを得ない。

景氣循環理法

わが財界の現狀を觀るに好景氣の再燃を待つ事餘に久しく既にシビレを切らしつゝあるにあらずやとさへ思惟される、景氣循環十年說が一般に信ぜられてゐる財界に於いて、不景氣ばかりが大正九年以來斯くまで永く續かうとは何人も考へ及ばないところでシビレを切らすも無理からぬ次第であらう。しかし財界景氣の周期がたゞ一つのみに限られてゐないことは丁度一年が三百六十五日と限つて居ないのと同じである。三百六十五日が一年であることは普通の年に於ける通則には違ひないが四年目毎に三百六十六日の例外が廻つて來る。更に雄大なる循環軌道があつて四百年目毎に三百六十六日であるべき潤年が平年とならないで矢張り普通の三百六十五日となる。斯樣に小循環と中循環と大循環とが相交錯して原則の裡に例外を作り、更にまた例外の例外を生じつゝ而も一定の秩序と規則とを失はないのが自然界である。

景大循環軌道

經濟界も同樣で小循環は冬賑はつて夏枯るゝ滿洲財界の如く一年間で一めぐりするが中循環や大循環が一廻りするには數年乃至數十年を要する。更に最大循環に至りては數百年にして初めて來るのである。大正の大景氣はこれ實に空前の大戰によつて激成されたもので最大循環軌道に於て現はれた最高頂であつたのである。從つてその急轉直下的大反動のドン底から回復するに多くの年月を要することが當然である、財界沈滯の久しきにシビレを切らすは經濟循環の周期をたゞ十年の一種のみと見る誤謬に基くもので宛かも一年をいつでも三百六十五日と解すると同樣である

恢復妨碍要素

現時の不況は即ち最大循環軌道に於けるドン底からの途中にあるものなれば多年月を要するのが當然である上にその回復を一層ひまどらせる要素の更に加はつておることを看過することが出來ない

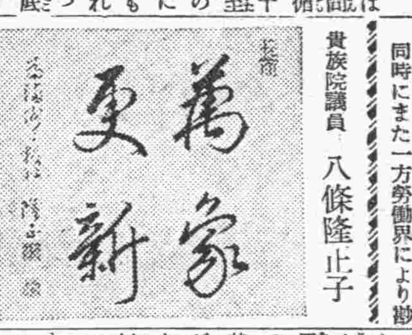
第一 には大戰による富と勞力との世界的大破壞
第二 には戰時大景氣の恩惠に馴れて人力のベストを盡すよりも景氣的僥倖を思ふの念が熾烈で勢ひ自力奮鬪的精神の弛緩したこと、換言すれば成金的氣分の惰性より猶脫却し得ないこと
第三 にはデモクラシーの勃興と共に經濟思潮の激變を示し大いに人類多數の幸福を增進したと同時にまた一方勞働界により勘く働きより多く賃銀を得やうとするの風潮を馴致し經濟復興の一障害をなしてゐるのである

滿洲特有障碍

これは經濟界全般に共通なる事象であるが、わが滿洲財界にはこの外また特有の障碍がないでもない即ち支那政情の不安定と奉天票の慘落による財界の混亂生產の減少及び購買力の減退乃至官銀號の民業壓迫による一般農民及び特產商の打擊等を擧げることが出來る、加ふるに安價なる生活程度に甘んじ得る多數支那民衆との競爭場裡に置かれてをる邦人の苦痛深刻ならざるを得ないわけである

上叙の如く諸種の事情によつて財界の回復が阻害されてゐる、而してまた財界のことは天候や地勢や其の他自然の力に依存するところが甚だ多い、しかしながら經濟もまたこれ畢竟人類の活動である、以上財界を動かす最大の要素はつねに努力と精神とにあることは否む譯にはいかぬ、故に吾人は徒にシビレを切らして昔日の如き景氣的僥倖を待つよりも大いに努力奮鬪の新興的精神を發揮し自ら局面を打開して積極的に景氣を作興するの努力と覺悟とを以て昭和の御新政を扶翼し奉らなければならぬ

◇餘技―豆信專務 田中喜介



貴族院議員 八條隆正子

窮狀のドン底にある 油房工業の革命
すでに第一期に入る
油房聯合會理事 中西瀧三郎氏談

油房の現狀

現在滿洲に於ける油房中比較的進步した機械設備を有し、國際的商品としての豆粕及び豆油を安價に且潤澤に供給し得る立場にあるものは、大連及び哈爾賓の二ケ所である。其他の地方は未だ地方的消費を目的とする油房の域を脫してゐない、例へば營口の製品は主として南支那方面の需要に限られ安東油房の製品は、從來は南支那と日本內地とにその販路を有してゐたけれども、最近に在りては隣接せる朝鮮內に有利なる新販路を開拓した爲め、今後は日本內地に輸出すべき餘力を有しない。南滿各地に散在する小油房は、特產界の大勢に驅せられ漸次衰退の傾向がある。

今滿洲各地の油房工場の主なる機械設備とその一日の豆粕、豆油の製造能力を說明すれば、滿洲の油房工場數はその數四百四十七軒にして、水壓式機械三千百四十三臺、螺旋式九千五百七十八臺、楔式二百八十二臺であつて、一晝夜の製造能力は、豆粕五十五萬六千六百八十七枚、豆油二百七十八萬三千四百三十斤に達してゐる。而して各油房が全く全力を擧げて工場を運轉したと假定すれば、一晝夜に約一萬八千噸の原料大豆を消費する勘定になる譯である。そのうち最も進步した機械設備を有する大連油房に在りては、水壓式七割七分を占め、螺旋式は僅に二割三分に過ぎない。而も此處數年來には水壓式に變るべき趨勢を示してゐる。最近の統計による南北滿洲の豆粕製造高は、六千八百萬枚に達し、その內大連油房の製產額は三千七百萬枚にして總產額の五割五分を占めてゐる、過去五ケ年間に於ける大連油房の豆粕製造高を示せば左の如くである。

	數量（萬枚）	指數
十一年	三、三六八	一〇〇
十二年	二、四八五	七三
十三年	二、六〇八	七七
十四年	三、七四八	一一〇
十五年	三、七七二	一一一

將來の觀測

滿洲の特產物たる大豆を原料とする工場は、現在に於ては、單に油房あるのみであつて、此の油房工場は、その發達の歷史を見るに地方的油房より國際油房に變遷して居るのである。また、その機械的設備より見るときは、楔式工場より、螺旋式工場に移り、螺旋式工場より、更に水壓式工場に發達し今や圓粕工場としては行詰りの狀態におかれてゐる。茲に至つて板粕工場といふ進步した設備を見るに至つたけれども、その販路と需要との關係上未だ理想的工場とは稱することは出來ない。又ベンジン、エキストラクションによる抽出式工場が出現したが、之れも亦幾多の缺點があつて研究を要する點が多い。

現在豆粕の用途は、殆ど肥料に限られてゐるが、人類及び家畜に必要なる蛋白質を多量に含有する豆粕を肥料のみに充當することは考慮の餘地があらう。殊に硫安アンモニア等の化學肥料が安價に供給され得る今日に於ては、肥料以外の用途に廣き需要を喚起せねばならぬ。隨つて將來の油房工場は、過去の製造方法に捉はれず、新しき需要を主眼として廣く大豆工業の機械的研究を進むる必要がある。

更に經濟的方面より考察するに滿洲に於ける大豆の取引は、今や個人の手を離れ、奉天官憲獨斷的の手によつて獨占的賣買が行はるゝに至つたのである。而して此の買占行爲は年一年と巧妙となり、益々辛辣を極めつゝあるから、行々は穀類の官營、又は專賣制度にまで進むものとも察せられる。夫れ故に、特產取引の形態も、從來の自由取引制度に一大變化を來たしはしまいかと密かに憂慮する次第である。之れと同時に大豆工業に從事するものも、此の點を特に考慮して深く研究せねば、如何に機械組織を改め、新組織の工場を建設してもその經營に困難を來たすことゝ想はれる。

之れを要するに油房工業は、今や極度の窮境に陷つてゐるには相違ないが、大局から達觀すれば、革命の第一期に入つたのみであつて、完全な機械設備、完全なる工場組織、完全なる取引形態を見るに至るまでは幾多の曲折波瀾があるだらうと想ふ。

隱忍自重し難局に處せん
＝必ずしも悲觀材料のみばかりでない滿洲財界＝
鮮銀大連支店長 松田義雄

昨年の滿洲は農作物の豐穰であつたに拘らず、奉天票の暴落や母國銀行界の不祥事件の突發等で、非常にその安定を脅かされたやうであるが、顧つて今年の模樣はどうであらう、農作物も連年豐作を續けつゝある折柄であるから昨年を凌駕するとも下がることなく、又絕えず滿洲財界を脅かして居る奉天票も低落はするであらうが、著しき波瀾を惹起することはなかるべく、先づ此の二つの點だけでは、滿洲の狀態は、昨年に比べて著しい變りやうはなからうと見られる。

そこで滿洲と密接なる關係がある母國の狀態はどうであらうか、最近の狀態は、休業銀行整理もこの程に至つて目鼻もつき、更に預金拂戻しの便法を講して、年末金融の梗塞を緩和したから一ト先づ［illegible］も餘程薄らいで來［illegible］尤も資金は潤［illegible］が、金利は先づ低［illegible］といつてもよから［illegible］易のバランスは漸［illegible］向つてゐるやうで［illegible］前途も今直に好轉［illegible］も、少くとも調整［illegible］狀勢にあるものと［illegible］隨つて我滿洲財［illegible］さることは明か［illegible］に巷間傳へらるゝ［illegible］方法が、經濟的［illegible］のとすれば、直接［illegible］接には全滿洲の經［illegible］すべきものと思は［illegible］財界の前途も强ち［illegible］るものではあるま［illegible］茲に遺憾に感ずる［illegible］土に於ける紛爭が［illegible］洲の經濟的發展を［illegible］とである、而して［illegible］て起される小波［illegible］洲に打ち寄せて來［illegible］覆さないとも限［illegible］日本人は共に之が［illegible］甚の留意を拂ふ必［illegible］兎に角、滿洲財［illegible］少の暗影點々する［illegible］ないが、去りとて［illegible］料ばかりでないか［illegible］重して努めて同胞［illegible］日支共存共榮の理［illegible］て突進し、以て昭［illegible］期せねばならぬと［illegible］

可なし不可なし
ことしの沿岸貿易
大汽社長塚本貞次郎氏（談）

海運界は事業界の萎縮と比例して進むものであるから現在の衰勢が大した速度をもつて恢復するとは思はれない、各國の狀態に見ても［illegible］態はない、それなのに一方大戰以來船の輸送力は過剩を來してゐるし、新造の船は何れも速力が早くなつて來てゐるから益々輸送力は增大してゐる有樣で、今後何年後に現狀を打開し得るかは豫想を許さない。」

日本の財界に見て銀行の整理が完全［illegible］が眞に立直つたな［illegible］の時は海運界も活［illegible］あらう。當地沿岸［illegible］昨年に比べて稍良［illegible］半期は極めて惡か［illegible］として特產の出廻［illegible］であらう。然しこ［illegible］農家の需要が少い［illegible］要なものであつて［illegible］出るものと思はれ［illegible］また支那の內亂も［illegible］なることになると相［illegible］與へられるのだか［illegible］凡そ豫想もつきか［illegible］其點から云ふと全［illegible］ものである。然し［illegible］な問題は天津白河［illegible］の爲めに各國の財［illegible］して何とかしよう［illegible］府は白河上流の調［illegible］治水事業を起さう［illegible］れは列國に利害關［illegible］もあり借款によつ［illegible］とは思ふが急には［illegible］支那人方面では大［illegible］砂は流されると云［illegible］んな事は何時の事［illegible］かは見當がつかな［illegible］要するに今年の沿［illegible］思いとは思はれな［illegible］良くない樣な材料［illegible］極めて少いと云へ［illegible］

賀正
（開原ノ二）

井上芳雄	山田民五郎
萩野谷信順	安田佳藏
二之宮景吉	牧野武次
本田東助	松尾直次
千々和正彦	松本辰吉
張際昌	增谷定一
大川廣太郎	福田琢二
小越信雄	富士木鷹二
大關國雄	古賀與右衛門
大重篤	康煥章
川崎亥之吉	遠藤憲治郎
川島定兵衛	相良禮三
龜田政太郎	佐竹令信
上郡山九效	菊池薰
吉島喜太郎	三田泰三
龍田道德	清水楠次郎
辻馨	篠田仙十郎
牛島義雄	久富一二三
倉岡岩	關野芳造
山崎松太郎	鈴木通斌
山本松次郎	杉之原孝善

戀無情

國枝史郎

(一)

「越後から來たといふことだ」
「いや甲斐からだといふことだ」
「兎まれ他國から來たものらしい」
「白無垢姿だといふことだ」
「婚禮姿だといふことだ」
「死裝束だといふことだよ」
「一見幽靈そつくりださうだ」
「非常な美人だといふことだ」
「狂人とあつては仕方がない」
「何が原因で狂氣したのやら」

信州高島の城下では、所謂噂とりどりであつた。

さういふ女が城下の內外を、徘徊するといふのである。

捕へやうとしても捕へることが出來ず、居場所を知らうと付けて行つても知ることが出來ないといふことである。

「來ませ婿樣、花の咲くやうに」歌をうたふとも云はれてゐる。

――といふ事件を背景にして、この物語は起るのである。

× ×

諏訪湖に舟が浮んでゐる。天龍川へ向つて流れて行く。一人の武士が乘つてゐる。若くて逞しくて美しい。流れるまゝにまかせてゐる。敢て漕がうとはしないのである。舟底にぢつと仰臥してゐる。

滿月で湖上はあかるくて、城の櫓がぼつと見える。

天文十年の春である。

天龍の急流へ流れ込んだら、岩にあたつて碎けるであらう、さういふ舟に身を任せて、武士は仰臥してゐるのである。悲しみの色が顔にある。

何が武士をさうさせたのか? 死を決心したやうな、悲しみの色が顔にある。過去にさかのぼつて語らなければならない。

× ×

「何をなされます、何をなされます……女子とあなどつて無禮をなさるか……許しませぬぞ、お退きなされ……」

その年頃は十八九でもあらうか痩せてやつれてはゐるけれど、目立つて美しい﨟たけた娘が、帯の間の懐刀を握つて、血相を變へて叫んでゐる。

その娘と向かひ合つて、兇猛と荒淫との醜い笑ひを、顔へ湛えてゐる武士があつた。年は三十五六でもあらうか、頬髯を荒々しく生やしてゐる。

「これ〳〵嫁御どうしたものだ、そのやうに怒るものではない。某事は諏訪家の家臣で、諸角內記と申す者で、武道も達者、名譽もある者、さう〳〵沒義道に嫌はないがよろしい。其許が越後から流れて來て、來岳寺にお身を寄せられて以來、是非ご懇親に願ひたいものと。平つたく申せば付けつ狙ひつ、丁寧に申せば機を見てゐたものので。幸ひ今日は供もつれずに、そゞろ歩きと見受けましたので、心中をお打ち開けいたした迄で荒く取つて食はうとは申ませぬよ。何さ屋敷へお連れいたして、いろ〳〵のお話しをいたしたいまでゞ。さあ〳〵おいでなさりませ」

手を延ばして娘を捕へやうとする。

振拂つて娘は下がつたが、スルリと懐刀を引き拔いた。

「アツハヽ、莫迦な話しで、女子の打揮ふ懐刀などに、某が何のビクツキませう。ざつとした所がこんなもので」

手を上げると娘の腕を打つた。で、懐刀がポロリ落ちる。と、內記は寄添つたが、娘を小脇に引つかゝへた。

「かうして色鳥は手に入れた。料理はゆる〳〵と屋敷でしやうぞ」

ズル〳〵と引つ張つて行かうとした時に

「相變らずの色好みで、內記殿いゝ加減になさるがよろしい」

かういふ聲が聞えて來た。早春の林の木立を巡つて、姿を現はした若武士があつたが、それが然う云つて止めたのである。

「ヨ、貴殿か、千野氏か」

內記はさすがに鼻白んで、思はず娘の手を放した。

「いかにも某は千野兵馬で。悪い所へ出ましたかな」

現はれた若武士はにこやかに云つたが、ヒョイとその眼を娘へ移した。

「來岳寺に居られる鈴江殿で……さあよろしい〳〵大事ござらぬ。さあ〳〵お歸りなさりませ」

お禮を云つて、衣紋をとゝのへて落ちてゐる懐刀を帯へ挿んで鈴江が林から立ち去つた後には、二人の武士ばかりが殘つてゐた。互ひに憎さげに睨んでゐる。

(二)

鈴江は越後の產まれであつた。上杉謙信の家中にあつても、旗奉行中にあつても、旗奉行として令名のあつた稚內勘兵の娘であつた。

それがどうして諏訪の地などへ飄然とやつて來たのであらう?

失戀をしたが爲めであつた。戀の相手は同じ家中の、前坂小二郎と云ふ若い武士で、上杉謙信の近習役であつた。で、二人は戀し合つた。さうして二人は幸福であつた。然るに前坂小二郎は、やゝ謂ふところの當世男で、鈴江一人を守ることが出來ずに、鎗奉行として名の高い所の、甘利備中の二番目の娘の、品緒といふのと戀仲となつて、婚約をさへ取りきめて了つた。で、鈴江は戀を失つて、その代りに苦痛を受けることゝなつた。「越後の土地には居られない。苦くて苦くて居られない「あゝ妾は他國へ行かう」で諏訪の地へ來たのである。

鈴江にとつては伯父にあたるところの、來岳寺の住職の滴泉和尚は、數人の小僕を供に連れて、姪の鈴江が訪ねて來て、尼になりたいと云つた時には、可なり驚きもすれば叱りもしたが、しかし禪家の大和尚である、すぐに鈴江に次のやうに云つた「何も人間としての試練である。苦め苦め苦むがよからう」

爾來鈴江は來岳寺に住んで、禪三昧に耽けることになつた。さうしてその後に起つたのが、林の中での危難であつて、さうして其後に起つたのが、千野兵馬の來訪であつた。あの後しげ〳〵と千野兵馬は、來岳寺へ鈴江を訪ねて來ては、鈴江の心を慰めた。

「兵馬殿は立派な人物であるよ。武藝にも學問にも達して居られる。禪の道にも相當に詳しい。お前の苦い心持は、失はれた所の戀から來てゐる。で、苦みを取去らうとしたら、新しい戀を求めるに限る。よろしく兵馬殿に戀するがよい」

冗談ともつかなければ眞面目ともつかない、禪家一流の云ひ方で滴泉和尚は鈴江に向つて、時々こんなことを云つた。

しかし鈴江は依然として、憂鬱の中に住んでゐた。はじめに親んだ小二郎のことを、忘れることが出來ないからである。

「さういふ苦い心持ちが、もう一段強く押し詰まると、近來城下で噂の高い、白無垢姿の狂女のやうに、成り果てるものと思はなければならない。新しい戀! 新しい戀! 新しい戀をするがよい」

など、滴泉は云つたりした。で、兵馬が來るごとに、滴泉和尚は歡待した。

ところで鈴江を訪ねるところの千野兵馬の心持なるものは、どういふところにあるのであらうか?

矢張夫れは戀であつた。大した家柄ではなかつたが、誠實で眞面目で一本氣で、品行なども正しくて、浮いた噂などは一度も無くて、それでゐて武藝にも學問にも、秀でゝゐるといふところから、頼重公には寵愛され、家中一般には受けがよく、近習の役をつとめてゐた。

さういふ千野兵馬であるが鈴江に戀したのである。その戀心の激しさは、説明するにも及ばない。

「運命はかゝつて是にある。鈴江殿を獲るか獲られないかにある。獲られなければ俺は死ぬばかりだ」

――で、訪ねて行くのであつた甲斐撫の戀でないがために、却て率直に打ち明けることが出來ずにいまだに一言も洩らさなかつた。

さうして其事が兵馬の心を、一種の內訌に導いて、心を苦いものにした。

その上に兵馬の身の上には、もう一つ苦いことがあつた。いつの間にか流言がかまへられてゐて、御前が不首尾になつたことである。その讒言をした者は、他ならぬ諸角內記であつて、戀の邪魔をされた其怨みから、さういふことをしたのであつた。のみならず內記は友を語らつて、どうやら兵馬の隙を狙つて、闇討ちにしやうとしてゐるやうであつた。

その上更に兵馬の心を、不安におとし入れるものがあつた。鈴江の態度といふものが、兵馬の戀を受け入れてゐるのか、それとも受け入れてゐないのか、鮮明を缺いてゐることであつた。

兵馬に執つての心頼みは、滴泉和尚がいつも〳〵、兵馬を歡待することであつて、それあるが爲めに千野兵馬は、遠慮も氣恥しくも思はないで、東岳寺へしげ〳〵と行くことが出來た。

「もう〳〵一度で充分だ、一度だけ打ち明けてみやう、うんと云ふか、いやと云ふか、これだけ聞けば澤山だ」

で、兵馬は機會を待つた。

ところでこの頃のことであるが越後から旅裝ひをした一人の武士が、越後と信濃とを繋いでゐる、善光寺街道を諏訪へ向つて、氣忙はしさうに辿つてゐた。

(三)

長野、たんば島、稲荷山、とみあいだ、苅屋原、岡田を過ぎると松本になる。松本を過ぎれば村井となつて、それから郷原、鹽尻となる。それを通つて來た旅の武士である。

鹽尻峠の頂きには有名な桔梗の茶屋がある。峠を越して來た旅人は、何を置いても一休みして、四邊の景色を眺めながら、澁茶をすゝることになつてゐた。

で、その旅の侍も、床几に氣忙しく腰をかけて持つて來た澁茶をすゝつたが、氣になる話を耳にした。

「來ませ婿樣、花の咲くやうに―」あの歌聲を聞いた時には、俺は本當にゾツとしたよ」

「白無垢を見た時には、俺は一層にゾツとしたよ」

「毎晩湖水の岸に立つて、歌をうたふといふことだ」

「失戀の上の發狂とは、美人だけに氣の毒なものよ」

「あまりに城下をさはがせるので御家中の方々がご心配なされて、狂女狩りをすると云ふことだ」

「來岳寺の和尚に身を寄せてゐる鈴江とかいふ美しい娘も、御家中の若いお侍方の、心をそゝつて居るらしい」

「千野兵馬といふ侍樣が、一番凝つて居られるさうだ」

「越後の女だといふことだ」

「戀しい男に捨てられて、それで流れ來たのださうだ」

「いやはや高島の御城下は、失戀の二人の女のために、荒らされてゐるといふものさ」

高島の城下からやつて來て、松本の方でも行くものであらう、數人の町人が茶を呑み乍ら、さういふ噂話をしてゐるのであつた。

これが何うやら旅の侍の、心を强く打つたらしい。

「茶代は置いたぞ」

と云つたかと思ふと、飛び立つやうにして立ち上つて、走るやうにして峠を下つた。

「一刻も早く! 一刻も早く!」口の中で呟いてゐる。だが鹽尻から高島へは、道程にして相當ある。さうして今は夕暮である。夜でなければ行きつかないであらう。

さうして其の夜が闌つて來た時に、諏訪湖岸で一つの事件が起つた。

一隻の小舟が浮いてゐる。岸にもやつてゐるのである。その中に男女がゐる。

「御芳志はありがたく存じますが……」

かういつたのは女の聲であつた。

「が、私といたしましては、一生懸命なのでございますよ」

かう云つたのは男の聲であつた。

女は他でもない鈴江であつて、男は千野兵馬であつた。月明の夜を舟の中で、戀語りをしてゐるのであつた。

と云ふよりも兵馬が決心をして、鈴江を來岳寺から誘つて來て、この舟の中へ連れて來て、心中を打ち明けてゐるのであつた。

しばらくの間は聲がしない。二人ながら無言でゐるらしい。

と、兵馬の聲がした。

「私は不首尾になりました。御前が不首尾になりましたので……さうして私は狙はれて居ります。あの兇暴な諸角內記に……で、この私の身分も命も、今はあぶないのでございます。しかし私といたしましては、そのやうなことは何でもなく、寧ろ貴女のお心持を、捉へることの出來ないのが、悲しくも怨めしくも存じます」

咽んでゐるやうな聲である。一生懸命の聲である。

しかしさういふ聲に對して、答へてゐる鈴江の聲といふものは、冴えない物憂いものであつた。

「御芳志はありがたく存じますが……でも、妾には思ふ方が、他にあるのでございます。……さうしてそのお方はこの妾を、見捨てたお方ではございますが……でも妾といたしましては、思ひ切ることが出來ませぬ。……尼になりたうございます、尼になりたうございます」

月が湖水を照らしてゐる。何處かで水禽の羽音がする。で、しづかでひそやかである。

かうして兵馬は訊いたのであつた。戀人の心を! 鈴江の心を! その結果は「否」であつた。で、決心をしなければならない。

「陸へお上がりなされませ。ご無事におくらしなさりませ。あゝ併しこの私は……」

鈴江が舟から陸へのぼつて、さうして寂しさうに佇んだ時に、小舟はゆら〳〵と動き出した、兵馬が纜綱を解いたからである。天龍川の方に流れて行く。

(四)

陸へ上がつた鈴江の身の上にもよく無い運命が待つてゐた。と云ふのは一二間歩いた時に、「來ませ婿樣、花の咲くやうに」歌聲が不意に聞えて來て、歌の主にあたる白無垢姿の女が、楊柳の蔭から現はれたかと思ふと、鈴江の身體を捉へたからである。

「あツ」と叫んで振りもぎつて、逃げやうとした時に狂女の顔を、月の光で鈴江は見た。

のけぞるばかりに驚いたが。

「まあ貴女樣は品緒樣で!」

その狂女こそは紛れもない、鈴江から小二郎を奪つたところの、甘利備中の娘であつた。

と、品緒は笑つたが、鈴江の咽喉へ手をかけた。グーツとばかりに力を籠める。鈴江を殺さうとするのである。

さうして鈴江の呼吸が絶えて、腐木のやうに地に仆れて、全く動かなくなつたのを見ると、品緒は如何にも明るい調子で

「來ませ婿樣、花の咲くやうに」

歌を高らかに唄ひ出した。

さうして鈴江の死骸のまはりをグルリ〳〵と廻り出した。

しかし然ういふ品緒の身の上にも、恐ろしい運命が巡つて來た。といふのは品緒の歌の聲に、引き寄せられでもしたやうに、旅姿の侍が走つて來たが、品緒を見ると足を止めてそれから鈴江の死を見たが、矢庭に太刀を引拔くと、品緒を一刀に切つたからである。

途端に品緒は正氣づいたらしい血だらけの體を起したが、

「小二郎樣か! 殺されて本望!」

かう呼ばはるとグツタリとなつた。さうして鈴江の死骸と並んで月光に顔をさらしながら、安らかに呼吸を封じたのである。ところで品緒を殺した所の、前坂小二郎の運命にも、悲慘なものが巡つて來た。

二人の女の死骸を前に、ドツカリと坐ると品緒を切つた太刀で自分の腹を切らうとした時に、ムラ〳〵と數人の武士達が、湖畔の芦の間から現はれ出て、繪のやうに小二郎の體を切つて殺して了つたからである。

一人の武士が呟いた。

「鈴江は死んだか、惜いことをしたなあ……おゝ、何んだこの武士は、千野兵馬ではなかつたのか? これは一體どうしたことだ!」

他ならぬ諸角內記であつた。鈴江と兵馬との媾曳をさぐつて、兵馬を殺しに來たのであつた。

戀無情! みんな死んだ

小二郎は鈴江を愛してゐた。が權勢も欲しかつた。そこで品緒と緣結びをしたが、鈴江のことが忘れられなかつた。それと知つた品緒は嫉妬のために、婚禮の晩に氣を狂はせて、フラ〳〵と諏訪の地へ來たのである。鈴江へ怨みを晴らすために――。

それを耳にした小二郎が、追つて來たのは當然といへやう。で、悲劇が起つたのである。

× ×

小舟は天龍へ流れ込んだ。三大急流の一つである。

小舟が岩にぶつかつて、月夜に泡沫を上げてゐる。

兵馬は舟底に仆れてゐる。その顔色の悲しさうなことは……

が、その顔も見えなくなつた。小舟が岩にぶつかつて、粉々にこわれて了つたからである。溺れて死んだからである。

戀無情!――みんな死んだ。戰國時代の悲話である。

――完――

辰公

辰年生れの辰公お雑煮を食べながら頻りに思案、妻君の辰子まで頻りに首をひねる、年賀挨拶に來た龍三不思議に思つて尋ねると

辰公「今年はトテも素的な仕事をしたいと、目下思案中だ」

龍三「何かあるか」

辰公「ウム、一つある、辰年後をにごすなといふ仕事だよ」

謹賀新年

營業科目 誂穀金融、放資並に請負 不動產、有價證券の賣買 株式社債の引受 前項に關する附帶事業 一般代理業
大連市山縣通三十三番地
滿洲起業株式會社
電話(長)五二三四番 振替口座 三〇〇番
出張所 奉天浪速通り六番地(電話一一〇六番)

大連市春日町
稲妻タクシー
電話 本店 五五〇二番 六五五七番 支店 三三五八番 五二六三番
馬越久一

大連市浪速町三丁目
㊒井元商行
電話四七二一

チエルベルジス纖續合資會社
松浦壽吉
事務所 大連市山縣通二一三福昌公司內 電話七一七一番
自宅 大連市薩摩町七番地 電話四九五八番

大連市越後町六
貿易商 澤田組
電話 六四九〇番 七〇七一番

大連市千代田町二九
染料製造 大和染料製布株式會社
電話六〇五七番

度量衡器、測圖機械、製圖用品、文房具
大連市浪速町八十四番地
內田洋行大連支店
電話 四八五六番 六九二九番 振替大連 一二三四番

在大連滿洲土木建築業組合員有志

市川工務所 市川金太郎 大連若狭町三四 電話六五五四
伊賀原組 伊賀原岩吉 同神明町八 電話五〇八七
池內建築部 池內新八郎 同但馬町四五 電話五二七四
今井組 今井行平 同霧島町四六 電話六八八七
合資會社和泉組 星野光司 同惠比須町四一 電話六六七九
合資會社原組 原半次郎 同八幡町二七 電話六二三三
合名會社長谷川組 長谷川辰次郎 同神明町六 電話四五二〇
林工務所 林七藏 同東公園町五八 電話六六〇二
東洋コムプレツソル社 右近熊吉 同若狭町一ノ二 電話五七三〇
千輪工務所 千輪進 同東公園町五八 電話五三三八
岡組 岡常次郎 同彌生町四〇 電話二九九二
大倉土木株式會社 大連支店 同山縣通一六 電話四二三三
合資會社華勝公司 西川博 同山縣通七六 電話八四五二
大連工材株式會社 福井米次郎 同入舟町 電話四五六九
合資會社大同組 佐伯貫一 河村統治 同山縣通五一 電話三三七〇
株式會社多田工務所 多田耕一 同炎路町三 電話四七八九
蔦井組 蔦井新助 同但馬町三四 電話四四二八
辻組 辻吉太郎 同能登町八四 電話六〇六七
草場工務所 草場又一 同北大山通四 電話六二五〇
合資會社久保田組 久保田勇 同山縣通一五 電話八四七〇
矢野組 西津春治 同播磨町六七 電話四二三五
間瀬工務所 間瀬增吉 同惠比須町二一 電話三二五一
福昌公司 相生由太郎 同山縣通二一 電話七九一三
福井高梨組 福井猪和太 同西公園町八 電話三五四九
榊谷組 榊谷仙次郎 同能登町一七 電話六七一九
三田工務所 三田芳之助 大連市越後町 電話四八五〇
白川洋行 山內基信 同紀伊町五〇 電話七〇五三
蛭田組 蛭田福太郎 同榮町二三 電話六九八七
志岐組大連支店 高石清彦 同信濃町一四 電話七〇七二
吉川組大連支店 吉川康 同西公園町 電話六三九三
石井組大連支店 石井本一 同惠比須町二 電話六七三四
高岡久留工務所 高岡又一郎 同紀伊町二六 電話四八〇七
(次第不同)
滿洲土木建築業組合事務所 西通三五 電話四六二三

大連市常盤橋二三
大連製氷株式會社
電話 四八七三 五四八〇 六三一三番

大連實業藥劑師會會員 (イロハ順)

伊勢町藥局 林房吉
楓町 小笠原辰次郎
日新堂藥局 大谷福懿
中央堂藥局 萱嶋猛雄
明治堂藥局 勝城末吉
三大製藥所 谷拾吉
若狭藥局 黑田四郎
松井藥局 松井改治
日本橋藥局 福原勳雄
小松藥局 小松茂
日本賣藥株式會社大連支店 友田莞爾
大原藥局 大原幸吉
緒方藥局 緒方浩
天地堂藥局 笠原香
大昌堂藥局 田中進太郎
永壽堂藥局 上阪常次郎
赤誠堂藥局 柳沼輝治
衞生堂藥局 松井島吉
小島藥局 小島一雄
三共藥品販賣所 江頭儀六
根本藥局 澤昇
洪盛堂藥局 溝上知三郎
島松商店 廣瀬忠晴
洪盛堂藥局 溝上松次郎
誠昌堂藥局 清水四郎
大正堂商店 末次喬

大連市西公園町一七九
煖房工事請負
株式會社齊藤製作所大連出張所
電話三〇二四番

營業科目
油布、雨覆、日覆、天幕、洋服、多幸足袋、運動靴、室內裝飾、家具、洋服類各種、其他各種諸材料並以上業務に附隨する各種の營業
大連市橋立町
大連工業株式會社
電話 [illegible]
電略(登錄受信略號 タイレンタイコ)(發信略號 タコ)又は(コ)

新年文藝
（編輯局選）

短篇小説　一等拾五圓
福壽草
市內薩摩町南山寮　Y・HORI

彼等は明かるいN町まで馬車を驅つた。今宵大晦日は珍しく穩かに更けて、見上ぐる空には空一ぱいの星が寶石の様に輝いて居る。彼女は夫の傍に寄り副ひながら眩しい程飾られたウインドの一つ一つを幸福さうに覗いて行つた。彼女の頬には樂ぐつたい夫の息が戲れて、支那人の店先に並んだ林檎よりも美しい。結婚してからまだ一ケ月にもならない彼女は新しい生活の幸福に醉つてゐるのだ。

彼等はやがて晝の様に明かるく電燈の輝いて居る常設館の前に來た。時代劇で有名なAやO、現代劇のMやS、その他多くの俳優や女優の寫眞が白光の下に並んでゐる。色の褪せた其等の半身像を見上ぐるともなく見上げた彼女の心には瞬間ぐつと酸ぱい感傷がこみ上げて處女時代の追憶か、知らず知らずによみがへつて行く。

「此の常設館にだけでも隨分來たものだつたわ」

「そしてほんとうに樂しかつたわ」

「あの暗い空氣は何と云ふ魅力であつたんだらう」

「變にすました學生も、雀の様におしやべりの奥さんも、二階の藝者に大聲で呼びかけた醉つぱらひも、みんな妾には懷しかつた」

「あの何とか云ふ俳優が長い刀を振り上げて、ぐつと見えを切る所なんかほんとうにうれしかつたわ」

「小屋がひけて、青白い月光にまだ醒め切らない感傷をかみしめる事も、どんなにうれしかつた事か」

「然し横町のあの暗い通りは恐ろしかつた。でもあの晩」

彼女ははからずも思ひ出された彼女のたつた一つの忌まはしい情景にはつと夫を盗み見た。然し夫は彼女のおのゝきを知る由も無く時計店の飾り窓を眺めながら彼女と歩調を合して居る。

彼女は過ぎ去つた夜更けの出來事をそつとそつと胸に浮べた。其の夜は暖かい五月末で活動のはねたのは十一時を過ぎて居た。彼女は甘い感傷に浸りながら、小屋の裏手の暗い横町を拔け樣とした。と突然若い男が後から彼女の頸を抱いた。

「然しあの時聲なんか出なかつた。でも實際頬を抱かれたのか、幻を見て居るのか分らなかつたんだもの。しかしよかつたわ。奪はれたのはたつた一つの接吻だけだつたもの」

やがて彼女は追想の體を町の端れまで運んだ。

「おい、あれを買つて歸らうか」

夫は街燈の下に並べられた花屋の前に立止まつた。そして片隅の方に置かれてあつた福壽草を指さしながら再び彼女に呼びかけた。

「ね、此れを買つて歸らう」

彼女は無言でうなづいた。今まで追憶に沈んで居た彼女の瞳に鮮かな草花の色彩が快かつた。

そして彼女の心は急に明かるく輝いた。彼女はぐつぐつと溢れて來た幸福感の中にそつとつぶやいた。

「妾は若い美しい奥さんだわ」

其晩福壽草は小さい鉢に植ゑられた。青い莟までも具へられた目出度い草は五つの莟の一つ一つに新春の壽をひそませて居るかの様だ。

彼女は黒檀の机にそつと小鉢を置いた。

煖爐の前に坐つた彼女と夫とはコーヒーの高い香に暮れて行く平和な年を祝福しながらいつまでも語り合つた。

翌日麗かな太陽に新春の第一日が明け渡つた。彼女は夫の愛撫に亂れた髪を撫つけながら、机の上の福壽草を見た。おゝそれは何と云ふ驚異であつたらう、五つの莟は三つまで黄金色の花をつけて馥郁と薫つて居るのではないか。彼女は急しく夫を呼んだ。

「あなた咲きましたわ、福壽草が三つも咲きましたわ」

夫は起き出たばかりの寢卷の儘机の傍に寄つて來た。近眼の彼は若い妻によつて目の前にまで差し出された小鉢を眼鏡の無い瞳で眺めながら、櫻色のふくよかな妻の腕に輕く接吻した。

しばらくの後、小さい食卓で雜煮と屠蘇を祝ひながら、若い夫婦は開いた福壽草について話し初めた。

「ねえ、貴方、昨夜いつ頃咲いたんでせう、それとも今朝かしら」

夫はにやにや笑つて居たが、やがていたづらしく妻を覗いて答へた。

「勿論夕べさ、俺達が寢てから直ぐ咲いたんだよ」

「まあ何故?どうしてなの」

「俺達の接吻が見たかつたんだよ」

妻は顏を火の様にして夫を睨んだ。

「まあいやよ、そんな事」

然し彼女は實際福壽草に依つて彼女達の幸福を盗み見られたのでは無いかと一寸心配になつた。

「いいわ今晩は次の間に置いてやるから」

そして彼女は晴々と熱い雜煮を飲み込んだ。

黒檀の机では四つめの花を開き始めた福壽草が彼等の會話にそつと微笑した。（終り）

二等　拾圓
港（みなと）
市內吉野町三二　森貞行

老虎岬を廻つて漁船のはいつて來るのを眺めて居た女は

「あんたは、ちツとも煮え切らないのね」

きつく其の言葉を浴びせた。

——あの船が港に着いたら歸つておくれ。さもないと又階下の婆アさんが、あンたの歸つた後であたしにつらくあたるから……。

婦は憲吉に何遍も、さう言つた

しかし憲吉は未練があつた。

「歸るヨ、斯うしてたツてはじまらないンだからネ」

憲吉は遂に立ちあがつた。

漁船は、もう其の邊まで近附いて二階の窓から船のなかの顏が見別けられる程になつてゐた。

「直家へ歸ンの？」

憲吉は其れには答へなかつた。

「若し船のひとが來なかつたら、今晩あンたんとこへ行くわ。先刻のことね、考へて置いて頂戴よ」

婦は、さう言つて憲吉を送りだした。

暮色蒼然とした港の景色だつた

ちよつとした機會で憲吉は婦と知り合になつた——婦は最も其の時分前の夫に別れた間際だつたし殊に……珈琲店の女給だつた。

然し憲吉は、さうした婦との關係を花やかに續けて行く程に裕福ではなかつた。婦は婦で憲吉のための借金が其の珈琲店に嵩まつて行くばかりだつた。

「あンたは厭だらうけど」

さう言つて女は市內から港の飲食店に移つて來た。移つて來て見れば其處は並々の飲食店ではなかつた。

地獄の入口で働いてゐる漁夫たちは男女關係に僅の虚禮すらも持つてはしなかつた。

しかし女は

「あたしさへ辛抱すれば……」といふ肚でともかくも一軒の家を借りて憲吉を其處に住まはせた。

夏が秋に變る頃。

今まで毎日飲食店に通つてゐた婦が時折り店の方に泊るようになつた。

憲吉は、ぎよツとした。

結局は來ねばならない筈の事件が極めて簡單にやつて來た。

「幾ら醉つぱらつたツて、直そこんところぢやアないか。歸つて來れなくちやア……」

憲吉には強い事は言へなかつた

百圓といふ前借のある婦の身體だつた。所詮、憲吉の方には弱い所があつた。

憲吉は、婦の家から出ると裏手の丘をのぼつて行つた。結核療養所で提琴をひいてゐる人があつた

憲吉は石を拾つた。

「あたしにお錢を出さうツて男があンのよ。その變りあンたが隠れてゝ呉れなくツちや困るの。あンたが居るツてことが知れちやア駄目なんだわ」

さう言ふ女の言葉だつた。

「ね、あンたさへ其の氣になつて呉れたらいゝんだわ」

憲吉は港に向けて石を投げた。

「考へてゝ頂戴」と言ふ女だつた

翌朝、憲吉は早ばやと眠りから醒めた。

婦は遂に歸つては來なかつた。

窓をあけて煙草に火をつけた。

ほがらかな秋の空だつた。

突然、港の街が騒がしくなつた

船着き場の岬に寄つた海岸に、みる〳〵人の垣を造つた。

飯を掘つて走つて行く警官をみて憲吉ははツとした。

——……情死……——

とにかく行つて見よう、としかけた憲吉の眼に小走りにやつて來る婦の姿がとまつた。

腫れぼつたい顏だつた。

婦は走りながら憲吉の姿をみとめて、ふッと立停つた。お互ひに何かしら變に擽ぐつたい表情で顏を見合つた。

それから。

それから、お互ひにてれ臭さうに肩をすぼめて微笑しあつた。恰で……（昭和十二年十一月八日）

俗謠　當選四句

人　鞍山製鐵所　鈴木幹雄
雲を呼び風を起して、唸りをあげて空を翔けゆく龍の紙鳶

人　公主嶺驛　櫻ン坊
明けて嬉しや盥に汲んだ若水のぞけば主の顏

地　大連眞金町　中村幸子
國旗の喪章も舊臘から除れて今日から明かるいお正月

天　開原　岡田八穗
生れましたよ辰年生れ龍は坊やの出生門

和歌　新年雜詠
選外佳作

○ 旅順市月見町六五　野中雄二
雲と呼ぶ龍の繪壁に懸けながら心新しも年の始めは。

○ 遼陽イ區六〇ノ四　伊與部綏子
異國に始めて春を迎へけり門邊の御旗あざやけきかも。

○ 鐵嶺小學校　小泉放浪子
笑まひつゝ吾を迎ふるこの子等をよく導かむこの年もまた。

○ 市內日出町八　太田香津子
大御輿あげさせたまふよき年の初日うれしくおろがみにけり。

○ 市內　としゑ
魂も新なる如し元旦の大野に立ちて初日おろがむ。

○ 市內久方町　高橋久雄
新玉の年のはじめにははそはの母のまさねば淋しかりけり。

○ 市內櫻花臺　石元新助
新玉の年を迎へて行きかひの人もたのしげに見ゆる今日哉。

○ 鐵嶺　石暘生
元日は事なく暮れて枯柳のなごむ梢に夕月細し。

○ 遼陽　有馬貫雄
天つ日のみ旗のみいづ四方の海にかゞやきぬべき年たちにけり

○ 福岡市材木町　原田笑郎
天明り年のきたるとくだかけの長鳴鳥がみな鳴けるかも。

○ 福岡市濱の町　砥上榮次郎
肥の國はすでに春なり能古の島の梅は早も咲き出でにけり。
春すでに近づきにけむ草原に光あまねくものゝかにほふ。

○ 長崎縣對馬支廳　福地草夢
初春の光り浴びつゝうら安き心となりて巷を行くも。

川柳　課題「滿腹」
（一）高橋月南選

大連　淳堂　滿腹へ又友の來る寮の春
虎石臺　道義　廻禮者いやもう之れでと次を受け
長春　雨路月　其の次の慾は滿腹眠むくなり
旅順　蘇堂　初春の下女滿腹の餘慶あり
京城　みつ春　滿腹の人生の慾今はなし
大連　愁郎　滿腹になつてバンドは物を言ひ
長春　牧笛　滿腹へ飲まねばならぬ客が見へ
安東　錦魚　滿腹の然し酒保では別な味
大連　眞似子　箸置いて子供反り身に膳を立ち
長春　天居兒　居候帶をゆめて喰ふ雜煮
大連　一丁　ソフヘアに滿腹楊子の高笑ひ
遼陽　秋甫　滿腹の一人となりへ話しかけ
鞍山　紫影子　喰ひたツた時いじらしふ見る乞食
大連　再生子　滿腹になつて督軍民を捨て
同　章雄　諒闇が明けてふくらむ雜煮腹
長春　北公　滿腹の子に明日の我れ生きてくる
東京　河原　雜煮餅滿腹になるまで噛りつき
大連　喜一　餅の香に滿腹の客は逃げをはり
同　・かねこ　子の腹をなで廻し見る風呂の前
米澤　渡舟　母までも滿腹そうな貰ひ乳
遼陽　頑迷子　一椀で滿腹といふ子の心
大連　一光　滿腹に少し間のある居候
長春　箱八　乳だけで滿腹といふ年であり
奉天　秋月　お雜煮へ滿腹といふ顏であき
撫順　田滿子　もう一ツと泣いて駄々ツ子腹を出し
大連　かんこ　滿腹の腹をなでつゝ深呼吸
遼陽　綾子　腹一杯年に一度のためし喰ひ
撫順　寒舟禮　雜煮餅たべたポン〳〵見せに來る
沙河口　壽治　滿腹に胸の脹りたる意氣姿
天津　春洋　滿腹の舌にほんとの飯の味
大連　順子　滿腹でそつと袴の紐ゆるめ
奉天　雪風　滿腹へ又も好物持つて來る
開原　柳坊　食客は留守居に餅の腹かはり
撫順　秀郎　五六ぱい頃で一ペン息をつき
公主嶺　櫻ン坊　滿腹のふと貧民を考へる
旅順　辰雄　滿腹のしるし血の氣が薄う見え
四平街　夜詩子　滿腹になれば子供は眠むたがり

更新の春を祝す

營口 水道電氣會社
營口 倉庫汽船株式會社
營口 興業株式會社
營口 土地建物株式會社
營口 東和公司　電(長)一七〇番
營口 盛進商行　電話(長)二〇番
時計及貴金屬商 營口 近江洋行本店　電話二〇七番
和洋雜貨商 平本洋行　電(長)二九番

牛莊領事 岸田英治
營口警察署長 石井金三郎
商業會議所會頭 木下鋭吉
東亞製造所長 有福和一
正金支店長 子安平司
鮮銀支店長 大串盛多
三井物產支店長 廣岡郁次郎
古川醫院 古川米吉　電一一八番
商業會議所書記長 吉田文作
振銀專務 石田禬助
營 乃美呉服店　電四五番
重田屋百貨店　電話一六番 振替二五一六
丸美屋洋服店　電一一七五番
TE 東瀛大藥房　電(長)一四八番
土木建築請負業 川畑組　電九〇番
營口新市街 簡易食堂
電九〇七番 城山勝次郎

電話局長 山本太三郎
赤十字社營口支部 元田長
建興公司 寺尾德母
回天堂大藥房　電(長)四番
諸金物商 山住洋行　電三七番
寢具商 三信錢莊 米原洋行
衞生軒 富茂錢莊 刑部茂三郎　電五一番
今 辻呉服店　電一〇四番
和洋雜貨 熊谷商店　電一三〇番
食料雜貨 岩田商店　電九三番
雜貨商 滋賀洋行 阿原善太郎　電二〇六番
御料理 武藏野　電一五〇番
旅館 清林館　電三三番
御料理仕出し 瓊乃家　電七二番
旅館 營月　電(長)一六二番
營口 料理屋組合　電四〇番
營口支局長 東登一郎
忌中ニ付年末年始ノ禮ヲ欠ク 松本員男
忌中ニ付年末年始ノ禮ヲ欠ク 田邊源吉

謹賀新年

（申込順）

吉田茂
太田雅夫
林榮
深川菊太郎
彌永茂太郎
吉川康
内田五郎
和田秀雄
前田治之助
河野清
村岡敬四郎
稲葉逸好
庵谷忱
富村順一
三谷末治郎
手塚安彥
弘岡牛次郎
遠藤眞一

小田信次
野原正雄
石原峰槌
市岡乙熊
上木仁三郎
杉浦齊
寺澤晉叡
荒基
野添孝生
富安辰次郎
堀春三郎
石本力藏
飯島滿次
高橋由太郎
横田一雄
衛藤利夫
志和俊陽
原田孝七

宮越正良
中山東一郎
橋口正一
原田丑一
松井清作
大賀一郎
小田要一
城戸百太郎
神宮敏夫
中村政市
加藤清吉
田中得三郎
滿鐵公司
名和長正

奉天鐵道事務所
鈴木二郎
山口十助
下津春五郎
白井喜一
秋田豊作
鈴木長明
西村龜千代

森研吉

藤田九一郎

滿蒙毛織株式會社

滿洲醫科大學
同大學豫科
同附屬病院
從事員一同

金曜會

正隆銀行奉天支店
朝鮮銀行奉天支店
東洋拓殖奉天支店
正金銀行奉天支店
滿洲銀行奉天支店

奉天警察署　總領事館警察署

立川俊三郎
牧田太猪藏
田中定三郎
片山和吉
澤田岩松
仲村延四郎
松井盛隆
伊藤角太
高田仁藏
福島潔
福　直二

奉天貿易商組合

東省實業株式會社

奉天附屬地醫師會

回生醫院
山本醫院
大橋醫院
永井醫院
井上（耳鼻咽喉科）醫院
池田醫院
柳瀬醫院
永井醫院
吉田醫院
西田（産婦人科）醫院

大倉組奉天出張所

東亞勸業公司

奉天製麻株式會社

奉天取引所信託株式會社

滿洲土地建物株式會社

滿洲土木建築組合奉天支部員

長谷川組出張所　長谷川國一
原組出張所　中原文太郎
細川組出張所　益田義峻
大倉土木株式會社詰所　矢部濱吉
笠原組出張所　梶原多郎一
吉川組　吉川康
高岡久留工事部出張所　長谷川巳式
田中組出張所　村田久雄
葛井組出張所　佐伯長太郎
今井組出張所　坂西修廣
上木組　上木仁三郎
久保田工務所　久保田伊平
藤城組　藤城堅太郎
福井高梨組出張所　山地博
近藤組　油井文一郎
榊谷組出張所　黑子高一
三田工務所出張所　堀江勇平
島田組　島田正人
志岐組出張所　和田信義
岡組出張所　伊奈久忠
川畑組出張所　深町親重
大同組出張所　高垣信郎
後藤組出張所　西紋太郎

奉天地方委員會（イロハ順）

原田覺次郎
萩原昌彦
富安辰次郎
尾崎濟
長濱哲三郎
彌永茂太郎
山本謙幹
古山勝夫
河野通雄
赤松慶太
安達都
赤塚眞清
安藤基平
峰節翁
鹽尻彌太郎
末光源藏

奉天旅館組合

瀋陽館
大星ホテル
ミヤコホテル
大丸旅館
日進館
一力旅館
武藏屋旅館
常盤旅館
東亞旅館
春日旅館

奉天材木組合

山葉洋行奉天出張所

征矢野寫眞館

素人芝居 鎌倉山

柳家小さん

明けましてお目出度う存じます、當今は芝居流行、別けて御素人方が、宴會などには皆得意に御芝居をなさいます、昔も町家では惠比須講とか年忘れ、新年會、節句祝ひなどには素人芝居を能く致したものでございます、手前共も隨分好きで時々この芝居の内へ加はつて出ましたが、困ることにはどうも此の落語家といふ稼業が土臺人樣を笑はせるのが本業だけにお客樣の方でテンから可笑いものと見てお掛りになるので、幾ら眞面目に演りましてもお笑ひになります當人は本職の役者より巧くやつて居る了簡で、若い俳優達の後學の爲に良い型を殘して置いてやらうといふ位の考へでやつて居るのにワア〜笑はれて了ふので、折角の大芝居もお茶番になつて了ふのが誠に殘念で、尤も芝居は落語と違つて一人では出來ない、いづれ相手のあるものですから、その相手の意氣が合はないではどんなに一人だけで巧くやつても引立ちません、テナ譯で商賣人同樣の我々でもなか〜滑稽がございます、まして平常やらない素人衆の芝居と來ては巧く出來やう譯がございません、お店の新年宴會で奉公人初め出入りの職人などが集りまして、俺は何がして見たい、俺は何がしたいと各自により好んで騷ぎを致しますが、どうも役不足や苦情があつてうまく納まりません、商賣人の芝居でも、先づ稽古に七日位掛つて、それでも自分の臺詞を云ふべき處で默つて居て、互ひに顏を見合すやうな事が隨分あるものでございます、素人は勿論其の筈で、舞臺へ出ますとカツとする、半分逆上て居るから、狂人同志が芝居をするやうなもの、實に物騷千萬な話で、勿論芝居とは云へ、茶番のやうなものでございます、是は昔の事 主人「吉兵衛、困つたな、どうも先刻からお客樣が一杯來て居るのに、どうしたんだ大抵の處でお開きさうなものぢやアないか 吉「へヱ誠に恐れ入りました、私共も心配をして居るのでございますが、實は役者が急に一人不足になりました 主「そりやアいかねえ、不足といふのは困つたな、どうしたもんだ、例年年越の祝には芝居を催すと云ふことに決つて居るんぢやアないか 吉「其が昨日まで極つて居たんでございますが、急に病氣と云ふので 主「誰だえ 吉「伊勢屋の若旦那でございます 主「ウム、彼の人は却々巧いぢやアないか 吉「巧いだけに役不足なので 主「役不足だツて、昨日まで承知して居たんだらう 吉「それが毎年此の役不足でゴタ〜致しますから、今年は御相談の上で、くじ引といふ事に極めましてくじに當つたらどんな忌な役でもすると云ふ事に極つて居りました處が、鎌倉山の非人の權平といふ役に若旦那が當つたんで、御當人はマアそれでも宜いと云つて、昨日まで出ることになつて居た處がどうも家内が愚圖々々云つて、あんな役をされては困る、稽古の時に行つて見ると、出ると突然縛られて首を切られて了ふ、そんな氣の利かない役をされちやア困ると家内が頻りに愚圖々々云ふから、病氣といふ事にして斷るといふやうなお話でございます、さう知れて見ると、お目出度い御年越の爲に、後で夫婦喧嘩が出來るやうな事があつては氣の毒でございますから、どうかなりませうと云つて了つたんで 主「してどうする心算だ 吉「どうにも斯うにも一人なくつちやア仕方がございません 主「マア其の位の役なら、何とか出來さうなものぢやアないか 吉「それで私が今思ひ出したのは、信州から參つて居る權助の久藏でございます 主「ウム 吉「彼は芝居が好きで、村芝居などしたといふ話しを聞いて居ります、彼奴を間に合せに使つたらどうだらうと考へます 主「成程、そりやヤ恰度宜いぢやアないか、當人は演ると云ふのかえ 吉「演るとは申しませんが、幾らか遣はしまして演れと申したら喜んで致しませうと思ひます 主「それぢやア早く話しをして、幕を開けるやうにしなければ困る 吉「へエ、さういふ事に致しませう……オイ權助さん、久藏さん 久「ヒヤア、呼ばはりましたかね 吉「呼んだから聞えたんだらう 久「ヒヤア 吉「此方へ來ねえな、返事ばかりして居ねえで、少しお前に頼みがある 久「私はハア理窟を云ふぢやアねえけんども用があるなら何處へ行つて來い、之を何處へ持つて行けと云ふなれば、其處へ出向いて行きますが、頼みがあると云ふに此方から出向く事アなかんべえと思ふ、私は當家で使はれて、給金を貰つて居るけれども、吉兵衛さんに何も云つちやア困る、此の忙しい中でそんな事を云はないで一寸此處へ來てお呉れ 久「何でがす 吉「別に理窟ツぽい話でもないが、お前に頼みと云ふのは、一ツ今日急に役者をして貰ひたいんだ演つた事もあると云ふんだから一ツ出て貰ひたいと思ふんだ 久「ヒヤア有難うごせえます、芝居と來た日にヤ隨分國で演つた事があつて自分で言つちやア訝しうがすが眞正の役者も跣足だ 吉「其奴ア剛氣だ、併し只は頼まないよ、是やアホンの心持ちだか…… 久「ヒヤア一分あるでがすな、一分になりやア何でもやるべえ……其處で何の芝居をするでがす 吉「鎌倉山の非人の權平と云ふ盜賊だ 久「ハア盜賊と云ふとやられねえ事もねえけれども、馴れねえ事は旨くいかねえ 吉「盜賊に馴れてちや大變だ、其處が芝居だよ 久「さうでがすかどんな事をやるでがす 吉「寶藏といつて、倉へ入つて中から寶物を盜んで出るのだ 久「ヒヤア、何を盜んで出るのです 吉「寶物の鏡を盜んで出て來るのだ 久「さうでごぜえますか 吉「それを盜んで、刀を持つて土藏を破つて出るんだ、久「其れア駄目でがす、幾ら切れるか知れねえが、刀なんぞで土藏がなかなか破れるもんでねえ 吉「ほんとうの土藏ぢやアないよ、唐紙だ、その中へ箝め込みになつて居る、刀を突込む途端にくさびを取るとバラ〜落る、それを切り破つたやうに見せてお前が出て來ると云ふ 宜い役だ 久「左樣でごせえますか 吉「其處に出て臺詞が一通りあつて、些とも早くオ、さうだといふのを切掛に出て來るのが提灯屋さんだ 久「彼奴毎日のやうに此處へ來て居るが、提灯屋の野郎でがすか 吉「野郎と云ふのはない、それは團三だ、奴搭へで、お前に知れないやうに上手から出て來て、お前が花道へ入る奴を鐺を摑んでダチ〜と後へ下るソコで禪のつとめといふ鳴り物になつて立廻りになる 久「立廻り、ハア喧嘩でがすか 吉「喧嘩と云ふのも訝しいが 久「打合えなら彼んな野郎、揆り殺して吳れる 吉「本當に打合つちやアいけない、其處が芝居だ 久「さうですか、江戸の芝居と田舍の芝居とは違ふから樣子が分んねえ、さうしてどうなるだかね 吉「彼方へ廻り此方へ廻り立廻りをする中に、提灯屋さんがお前を打ち、お前が氣絶をする、目を眩すんだ 久「お斷り申します一分返せば仔細ごぜえますまい、面白くもねえ、多くの見物ん中で目を〻して…… 吉「本當ぢやアないよ、拳固を見たら引つ繰返るんだ 久「ぢやア拳固を見ると引繰返る、拳固癲癇見たやうなもんかね 吉「拳固癲癇といふのもないがお前が引繰返ると繩を掛ける、後手に縛られる 久「縛られるでがすか折角だけんどお斷り申します、引繰返つた上に縛られるなんぞして堪る譯のものでねえ 吉「夫が狂言だよ、本當に何も繩を掛けやアしねえ、それが狂言と云ふ奴だ 久「ハア、ぢやア客を欺すでがすな」吉「マアさうだ、本當に縛られて堪まるものか 久「それからどうするだ 吉「何者に欺されたか眞直に白狀をしろといふと、お前がイヤ知らねえ覺はねえ 是でもかと刀を縛つてある處へ突つ込んでこじり上げる、痛くつて堪まらないから、言ふめえ〜と思つたが、斯うなつたら何も彼も云つて了ふ、實は近江の小藤太に頼まれた、さう云ふ臺詞だが、皆云つちやアいけない、近江のと言ひ掛けると、藪疊の中から小藤太が自分の名前を云はれてはならないから、お前の首を切るんだ 久「駄目でがす…… 吉「又一分出して、頤へてるぢやアねえか、何をそんなに頤へてるんだ 久「首を切られるてえから 吉「馬鹿野郎、本當に首を切る奴があるものか、それが芝居だ、お前が後へ反りくり返る、お前の身體へ黒い布が掛る、前へ張子の首がゴロ〜と轉がり出す 久「張子でがすか 吉「刀を拔いてスパリ切る態をするとお前が其の途端に倒れる、身體へ布が掛つて張子の首がそこへ落るといふ趣向だ 久「そんなら宜いけんども、本當に取られて後で喧嘩にもなんねえから」吉「馬鹿を云ひなさい 久「ぢやアマア一分は安心をして貰つて置く其からどうするだね 吉「死んじまへばそれで宜い、後は樂屋へ退つて湯にでも入つてお前の役は濟むんだ 久「ハアそれだけかね 吉「臺詞は今云つた處で却々覺切れないから、後で付けるから其通り云へば宜い 久「宜うがんす 吉「ぢやア直きにモウ幕が開くから支度を宜かえ……」此方は見物、退屈をして欠伸をするやら手を拍やら大騷ぎ其内に支度が出來上り、鳳晉で繁いで居る内に土藏を破つて、前申上げた通りの處で出て來ない、吉「オイどうしたんだ鳴物が繋いで居るのに、肝腎の役者が出て來ない、オイどうしたんだな、今此處に居たんだが何處へ行つたんだ出になつてから何處かへ行つちやア仕樣がねえ……久藏さん 久「オヽ」久藏いやにおちついてゐます引張るやうにして皆なで連れて參りましたが、茲から出ろと云つても分りません 吉「サア刀を拔いて 久「彼のバタ〜する音は何でがす 吉「今上るんで拍子木を打つてるんだ、ソラ聲が掛つて居る、ズブリ突込みさへすりやア宜いんだ……」此方は見物 ○「どうだえ、今日の役割といふのは面白いぢやアございませんか、去年忠臣藏のおかるをした役者が、今年權平をするんだ、役の優しい役者に此の荒ツぽい處が出來るから不思議で伊勢屋の若旦那は大したものぢやアございませんか、どうだえ、彼の足の毛は凝つたものだヨー〜恐れ入りました、どうです、實に商賣人にもない位、女形が出來て其で又斯ういふ役を思ひ切つてするといふのは感心だ △「何だか大層な評判だが、是あア樣子が變だよ、何だかノソ〜として居る、ア、舞臺へ出て來た……ア、あれは伊勢屋の若旦那ぢやアねえ、家の久藏といふ飯炊きだ、ヨー〜權助さん御苦勞 久「ハア是は〜採店の旦那でがすか、先達ては大きに…… 吉「オイそんな事を云つちやアいけねえよ、台詞だく 久「台詞、何だつけ 吉「何だつけぢやアねえ、マンマ 久「エ、、マンマーと、マンマーと、マンマ……甲「ヨー〜、飯炊きだけに飯々といつてやがる、お飯が焦げましたかね 久「駄目な事をいはねえもんだ、飯を炊いて給金を貰つてる人間だ、人の商賣を腐すな斯う見えても飯を焦がした事けねえ火の焚きやうで硬くも軟らかくも出來る、水加減なんざアどうでも宜い、是やア水が多いと思つた、火を強く燃せば水が噴出して了ふ 吉「オイ飯の講釋などをして居てはいけねえ、首尾よく寶藏へ忍び入り 久「首尾能く寶藏へ入り、吉「入りぢやアねえ、忍び入りだ 久「忍び入り 吉「奪え取つたる讓り葉の御鏡 久「奪え取つたる柚味噌の曲物 吉「柚味噌ぢやアない、久「左樣でごぜえますか……」是さへあれば大願成就、小藤太樣へ差上れば、褒美の金は望み次第と、臺詞があつて 吉「些とも早く、オ、さうだ、 久「疱瘡だ 吉「疱瘡ぢやアない 久「痲疹か 吉「仕樣がねえな 久「オ、さうだ」ソコデ提灯屋さんが團三の役で充分儲けようといふ心算だが、對手が惡くつては往生だと澁々權平の後から尾いて來て花道へ掛る、見物も茲を待兼ねて居たからワイ〜聲が掛る、鐺を取つて、タヂ〜く、臺詞があつて順に渡つて、「何を小癪な」茲で立廻りになるんだが、權助動かない 吉「サアサア立廻りだ〜 久「何だ〜 吉「何だつてぢやアない、拳固を振り廻すんだ 久「其れならば此の野郎サア叩つ殺してやる 吉「そんな事を云つちやアいけない」彼方へ廻り此方へ廻りして居る中にドーンとやりましたけれども、三尺も拳固が離れて居るので、感じませんから突立つて居る、始末にいけないから提灯屋さん、本當に當てるより仕樣がないと橫つ腹をドンと突いた 久「アイタ 吉「默つて居なけりやアいけない、目を眩して〜 久「目を眩した 吉「斷らないでも宜い」ソコデ細が掛る ○「ヤア權助さん、大層威張つて居たが、遂々縛られましたね 權「馬鹿ア云やアがれ、何だつて、遂々縛られたとさういふ奴等が芝居事を見るのは無駄だ、芝居といふものは欺かした、前の方で繩が掛つて居るやうに見えても、斯うだ、兩方の手が明いて居る 吉「オイ〜手を取つて踊りを踊つてはいけない」始末にいけないから提灯屋はヂレ込んで本當にグル〜卷に打縛つて白狀しろ」本當に締上られたので堪まらない 久「アイテ……勘辨して呉んろ、勘辨して呉んろ 提「サア何者に頼まれた眞直に白狀しろ 久「ウーム、一分で吉兵衛さんに頼まれたゞ」

龍の話

お互に見た事のない怪しげな動物
西洋にも面白い傳説

理學博士 石川千代松

昔時から龍と云ふものは何れの國の噺にもある樣で殊に支那では龍は尊いものとしてある。であるから天子の顏を龍顏と云ふたりして居る。處が龍と云ふ樣な動物が本統にあるものであるか、夫れは誠に怪しいもので支那の繪に書いてある樣なものは誰れも實際見たものはあるまい。併し動物や植物に龍といふ名の付けたものは澤山ある。例へば草に龍膽と云ふものもあるし、龍眼、五爪龍、石龍芮だの龍舌草等云ふものもあるが、實際龍の舌は誰も見た事はあるまい。夫から又石龍芮だの龍栗等云ふものもある。又動物にも龍の落し子と云ふものがあるし、伊勢蝦も赤龍蝦と云ふ。夫に魚に龍盤魚と云ふものもある。夫から又藥種屋に龍骨と云ふものがあるが、彼れは龍の骨と云ふものではなく

大きな化石の骨を龍骨と云ふ樣で本邦でも瀨戸内海の海底からも澤山出るし、其外諸方から化石となつて出るものがあつて、之等を一般に龍骨と云つて賣つて居る。此龍骨と云ふものは色々の動物の化石の骨を云ふたもので、本邦では夫れが瀨戸内海から澤山出る無論之等龍骨が何かの役に立つと云ふ樣な事は全く迷信である。處でこの龍骨と云ふものは博物學者の目から見れば面白いもので、夫れが又瀨戸内海の樣な海から出ると云ふのは不思議ではなからうか。誰も知る樣に百人一首の内にある末の松山波こさじとやと云ふて、彼の高い峠に介類の化石があるのと同じ樣に海の中から陸棲動物の骨が出て來るのではないか。

併し動物の内には又支那で龍と云ふた樣なものもないでもない。夫は南洋の諸島に產する飛龍(フライイング、ドラゴン)と云ふもので、之れはトカゲの一種であるが、其背中の兩腋から翼が生えて夫で空中を飛ぶのである。夫から又本邦の近海にも澤山居る海馬は又龍の落し子と云ふが、其形が如何にも繪に書いた龍に似て居るからである。

夫れから又中古超の頃にはトカゲと鳥の中間物の樣なものが居て夫れが又繪にある龍の樣である。茲に出

したプレロナウリアと云ふ樣なものは今日居たらば確に龍だと思ふであらう。

處が龍といふものは色々の人が想像をして色々の事を云ふたものである。例へば熱帶地方で能く起る龍卷きと云ふものも彼れは龍が天上するのではなからうかと云ふたらしいのである。印度洋邊で龍卷きを見ると如何にも龍であるかと思はしめるが無論彼れは生きた龍等ではない事は分つて居る。併し昔時の人だの今の人でもまだ物事の解らない人等には夫れが龍であると思ふものがあるのである。

何にせよ龍と云ふものは昔時から今にも諸方にあるものでスサノオのオロチからドイツのシイグブリイドが退治して龍、英國のセント、ジョージのドラゴンと云ふ樣に西洋にも日本にも夫れがあるのは或は同一の處から出たものであるか、或は人間は同じ種類のものであるから同じ樣な事を方々で考へ出したのではあるまいかとも思はれる。

何にしても龍といふものは中々面白いもので何れの國にも夫があるのは又面白い事ではあるまいか (完)

謹賀新年

建築材料 石炭販賣 大連市浜江町二番地 德和公司 電話六一八一番

大連市伊勢町五十九番地 北支那青果株式會社 電話八七七〇番

醫療用藥品 工業用藥品 衛生材料品 醫療用器械 有効諸賣藥 大連市伊勢町五十號地 MM 溝上藥舗 電話七〇八〇番 振替口座大連四六番 電信略號(ミソ) 長春三笠町二丁目 溝上支店 鞍山赤城町三丁目 溝上支店

正月御家庭團樂に パテーベビー小型活動寫眞機を 寫眞機械、鏡玉 双眼鏡、活動寫眞機械及材料 直輸入 K 樫村洋行 大連市浪速町 電話(長)四七三八・七三二五番 振替口座大連七九番

大連市山手町四 竹山商會 電話六五五三番

煖房衛生工事請負 煖房及衛生用材料 諸機械金物材料 製作並直輸入販賣 大連市淡路町二十九番地 勝本機械事務所 電話(長)六八九〇番 工場 大連市得勝街五九 電話三八九四番 出張所 奉天琴平町十六番地 電話三六九番ノ乙 出張所 大阪市南區日本橋筋五丁目六〇 電話(戎)三一七一番

諸製綿 脫脂綿製造 大連市磐城町五十八番地 伊勢屋本店 高尾音次郎 電話(長)三七六〇番 振替大連三六五〇番 製綿工場 大連市若松町四五番地 電話三三八九番 大連市秋月町一〇番地

株式會社日本蓄音器商會 滿洲總代理店 合資會社 藤飯洋行 大連市伊勢町二十七番地 貿易部電話(長)七二三七番 樂器部電話四三九五番 振替貯金大連三三二番

日本一の清酒金波發賣元 大連市若狹町(大連劇場前) 金物商 峰商會 電話四七八六番

菓子原料 卸問屋 大連市西通九〇番地 松村兄弟商會 電話四九七一番

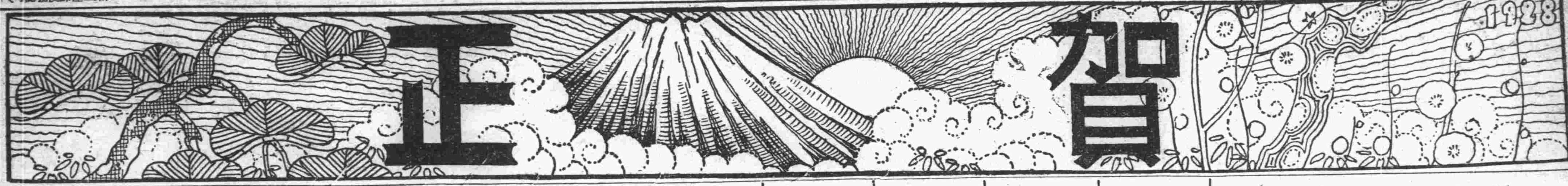
家具裝飾品商 大連市愛宕町 成三商行 電話(長)四二七五番 工場六四六七番

大連慈惠病院 大連市播磨町 電話三八三五四番 六二二三番 伏見臺分院 電話五九六六番

大連旅館組合 大連市信濃町(遼東ホテル內) 電話(代表番號)四一三一番

小崗子料理店組合一同 電話四三三六番

西檢番料理店組合一同 事務所 惠比須町二〇四 電話三二二一番



（順不同）

四洮鐵路局 會計處長 由利元吉
事務處長 宇佐美喬爾
工務處長 小栗盛三郎
病院長 佐藤良治
電燈會社專務 平林市郎
地方事務所長 川上融
警察署長 竹友德太郎
取引所長 鮫島七郎
信託專務 茶谷榮治郎
驛長 白石寅治
山口成淳
桂馨三
竹村石次郎
竹本二丸

（順不同）

四平街地方委員 議長 子安甚平
佐藤龜記
竹村勝晴
濱田有一
村上輝文
山添尙江
鶴見次世
森永嘉一
阪本直吉
木藤品治郎
白川安衛
伊藤新八
石川直吉
櫻井教輔
洪淳璣
池田耕

和洋式帳簿調製
四平街印刷所
電話一二三

四平街
日支料理店組合

四平街劇場 電話二二四番
山本興行部 電話二五一三・二五九番
いさむ號 電話五一三番

四平街火曜會
取引所信託株式會社
交通銀行
正隆銀行四平街支店
國際運送株式會社四平街支店
四平街電燈株式會社
朝鮮銀行四平街支店

四平街
佐藤龜記商店
電話一一三 振替大連五七三

四平街
構內販賣
和田庄太郎
電話（構內二二 自宅五〇八）

四平街
和洋雜貨 書籍雜誌
米田商店
電話一四七

四平街
窯業共同部
大西半重郎
電話二五六

森永製菓特約店
共保生命代理店
陸軍御用
和洋御菓子司
久月堂
四平街 電話二〇八

四平街
和洋雜貨 旅行用具 諸雜品
東澤洋行
電話一七

四平街
各種製造販賣
熊谷靴店
廣瀨直吉
電話五〇一

藥品雜貨ゴム製品 クラブ代理店
四平街
合資會社
大連洋行支店
本社 大連 支店 芝罘 龍口

四平街
竹本醫院
電話七八

四平町
滿鐵會社 陸軍 關東廳 御指定
小松屋旅館
電話一一六

四平街
植半旅館
電話二〇

四平街晝夜金融株式會社
電話二七五

四平街
日華特產商聯合組合
電話一二八

滿洲日報販賣
雜貨 履物
菊池洋行
電話三一一

和洋雜貨 硝子ペンキ 請負業
林洋行
電話六七

溝上洗布所
電話四四五

吳服洋反物 メリヤス雜貨
余ノ宮商店
電話五〇一

石炭販賣
信和洋行
電話一九

松昌公司
電話九

岸回生堂藥房 岸窯業部
岸久藏
電話一五一

中村桶樽工場
中村濤吉
電話一七〇

醬油釀造元
⼈池田醬園
電話六五 振替大連一二二九〇

大石橋

（イロハ順）

稻川利一
伊藤祐雄
岩井繁守
石川憲二
西島常次郎
河內由藏
長山猪重
村上眞
上田鏇彌
山下義明
山內茂義
小林才治
水野鐵雄
七田積

大石橋電燈株式會社
電話（長）十六番

大石橋驛前
梅廼家旅館
電（長）七番

驛構內食堂
電五十二番 七十六番

雜貨商 軍隊用達
石川商店
電話一四番

御料理
日本館
電話一〇番

御料理
福住
電話一一番

生蕎麥 仕出し
福住庵
電話五一番

和洋菓子 陸軍用達
三谷日新堂
電話三〇番
森永製菓會社特約店

御料理 生蕎麥 仕出し
梅月
電話二七番

御料理
環之屋
電話四六番

驛貨物積卸請負業 ベーチカ專門宮崎組支店
國際運輸會社代理店
富昌公司
鮫島豐志
電話一九番

新聞圖書 雜誌 文房具
石文堂書店
電話二八番

末廣旅館
電話四三番

諸新聞取次 代書業
細野芳枝
電話四四番

新年小說 正子のユーモア

上司小劍
(鈴木凌秋畫)

(一)

あけて十二になつた尋常五年生の正子は、なか〜面白い、ひようきんな娘であつた。

正子は小さいときから、しじうニコ〜してゐて、ほんとに愛嬌のある、可愛らしい娘であつたが大きくなつても、いぢわるをしたり、おこつたりしたことは、めツたにないほどの、平和ないゝ娘である。

正子のお母さんも、お友だちもどうかして一度正子のおこつた顏が見たいものだと、よく言ひ〜してゐるのであるが、賢くて、愛嬌のいゝ正子は、なか〜母親などが思つてゐるやうにはいかないのだつた。

だから、お母さんまでが、何かでちよつと機嫌がわるく、ふさぎこんだりしても、正子の顏を見ると、ツイをかしくなつて思はずニコ〜と笑ひだすのだつた。

「ほんとに、正ちやんの顏を見ると、おこることがあつても、おこれなくなりますわねえ。おほゝゝゝ」

お母さんは、お父さんにさう言つて、笑つたりした。

「さうさ。正子はうちの惠比須さまだもの。なア正子。いゝから、毎日ニコ〜笑つてゐるんだよ」

お父さんまでが、そんなに言つて、心から正子の笑顏を滿足さうに見いるのであつた。

何か家のなかに面白くないことがあつても、正子が學校から歸つて來ると、まるでそこら中にひろがつてゐる暗い影も何もかき消すやうになくなり、家の中は明かるくそして、賑やかになるのだつた。

ほんとに正子は、家のためには生きた惠比須さまのやうなものであつた。それに、彼女の面白味はよくある子供のやうに、無理につくつて面白くするのではない。つまり、わざとひようきんなことをして、人を笑はせるのではなく、まア云はゞ生れつき滑稽に出來てゐる子供なのだ。することが自然にひようきんなのである。だから見てゐる人は、どうしても笑ひださずにはゐられなくなるのである。

(二)

ある日、それはお正月になつたばかりで、表にはまだ目出度い松かざりが、戸毎にきれいにそろつてゐて、天氣も冬とは云へカツと照つて、春のやうに小暖かい日であつた。

お午頃學校から歸つて來た正子は、いつものとほり、暖かい茶の間で、三つになる弟の末吉を遊ばしてゐたお母さんに「たゞ今？」をしてから、突然「おほゝゝゝ」と笑ひだしたのであつた。

「まアいやな正ちやん？いきなり笑ひだしたりして……。何うしたの？」

さう訊かれて、正子は一そうをかしげに笑ひだし、とてもたまらないやうに、おなかをおさへながら笑ふのである。

「へんな正ちやん？何がそんなにをかしくつて？」

「おほゝゝ。お母さま、だつて？おほゝゝゝゝ。おゝ苦い。あはゝゝ」

何か言はうとする風であるが、言ひ出さうとすればするほど、可笑しさが胸の奧からでも込み上げてくるらしく、正子はどうしても樂に話ができないのだつた。

「笑はないでお話しなさいよ。おほゝゝゝ。何がそんなに可笑しい？」

さう言ひながら、母親もつい誘はれて可笑しくなり、自然と笑ひ出すのだつた。

「あのね、母さん」

と、そのうちやつと笑ひやんだ正子は、それでも何うかするとすぐ可笑しくなるのを無理に押しこらえて、話をはじめた。

「今ね、通りの角のところでね、おほゝゝゝ」

やつとそれだけ言つて、正子はまた笑ひ出すのだつた。

「通の角のところで？それから何うして？」

お母さんは眞面目な顏で訊いた

弟の末吉は、何事だらう？と云つた風に、大きな可愛い目をパツチリと開いて、キヨトンと姉を見てゐる。

「あのね、車にどツさり積んであつたの、そいでもつてね、あの角んとこでね、自轉車とぶツつかツちやつたの。さうしたら……おほゝゝゝ。みんなコロ〜コロコロつて、轉がつちやつたのよ？」

「まア、なんなの？何が、正ちやん？」

母親には、まだそれがなんのことだか判らない。

「おほゝゝゝ。當てゝごらんなさいな、母さん？なんだともつて？」

「さア、なんでしよねえ？判らないわ」

「そいてね、車を曳いて來た人がね、それを拾はうとするね、なほコロン〜とその上を轉がつてくの。とても可笑しかつてよ。おほゝゝゝ」

「あツはゝゝゝ、正坊？また面白い話をしてるね」

さう言ひ〜、次の間から正子のお爺さんが、白い鬚の中でニコ〜しながら出て來た。

(三)

「あら、ずるいわ？お爺さま。すつかり聞いちやつて……」

「聞いたよ。だつて、面白さうな話ぢやないかの。お爺さんが當てゝみようか？」

お爺さんも笑ひながら、カンカンと暖かくおこつた火鉢のそばへ來て坐つた。

「えゝ。當てゝごらんなさいな、お爺さま。判つて？」

「判つた。そりや八百屋の事だろ？」

と、圖星を指され、正子は、

「あらツ？」

と、思はず聲を上げる。

「それから、その轉がつたものはだ、誰かの大好きな林檎だらう？」

「えゝ、そのとほりよ？よく判つたわね、お爺さん、……あら、お爺さん、見ていらしつたんでせう？」

正子はびつくりして、目をまん圓くした。

「なアに、見てなんかゐるもんかあはゝゝゝ。可笑しな正坊ぢやね」

「そいから何うして？お爺さん判つて？その先が……」

「はゝゝ、そりや判らない。だつて見てゐなかつたんだもの」

「おほゝゝゝ。そこまではあたりつこありませんわね、お爺さん。なんぼなんだつて……」

と、母親はニコ〜しながら、お爺さんと正子の大好きな甘いカステラを切つてそれへ出し、熱いお番茶をいれて、二人にすゝめた。

「何う正ちやん？林檎と何う？これだつて惡くないでしよ？」

カステラを二きれ、お箸にはさんで上ながら、お母さんが言つた

「はゝゝゝ。こりや正坊もさすがに一本參つたな」

と、お爺さんはお茶をぐつと飲んでから、面白さうに笑つた。

「なに、お爺さん？一本參つたといふの？」

なんのことだか、ちよつと解せない正子は、生眞面目な顏をして祖父に訊く。

「おほゝゝゝ、あのね、正ちやんのお話の、その林檎も正ちやんの大好物なんだけれども、このカステラはもつといゝでせうつて、お爺さんが仰有るのよ」

と、母親が說明するやうに話して聞かせた。

「あらさうを？まア？隨分ねえ、お爺さん？」

正子は子供らしい氣まり悪さをわざと誇張して言つた。丁度お菓子を一口頰張つてゐたところなので、カステラの黃色い屑が一ぱいにひろがり、そのおあまりがボロ〜と膝の上にこぼれた。

「なアんだい、姉ちやん、お行儀がわるいよう？」

今まで默々として、これもお菓子に餘念のなかつた末吉が、それを見て、さも大發見でもしたやうに大きな聲で面白がつて言ふのだつた。

茶の間は正月らしく大陽氣である。

(四)

玄關の格子戸が、ふとガラリと開いた音が聞えた。お客か、それとも主人が歸つて來たらしいので母親はすぐ立つて行つた。すると弟の米吉が母親の後からヨチ〜とついて行つたが、すぐ戻つて來て、眞面目な顏でかう言つた。

「オイ、今歸つたよ」

それはお父さんの口眞似である。

「あら―末ちやん、お父さん歸つて來て？」

正子は今玄關の物音が、お父さんのお歸りかと思つたので、さう訊いた。

「うゝん、さうぢやないやい」

末吉は相變らず眞面目な面付で頭を横にうち振つた。

「ちや、だアれ？」

「知らないやい、……やアい、姉ちやんの馬鹿ア？」

そんな惡口を言ひながら、末吉はまた玄關の方へ危ない足どりで駈け出したが、パツタリ廊下で母親と衝突して、パタリと轉がり、忽ちワツと泣き出した。

「あら、ごめんなさい？だつて、夢中になつて駈け出して來るんだもの」

母親はすぐ子供を抱き上げて、茶の間へ戻つて來た、末吉は間もなく泣きやむ。

「今ね、母さん」

と、正子はまたクス〜笑ひながら、小さな弟にかつがれた話をした。

「あら、さうを？」

母さんも思はず笑ふ。

「だつてね、母さん。そりやとてもうまいのよ？、その眞似が……ねえ、お祖父さん」

「はゝゝゝ」

と、そこにある新聞を讀んでゐたお祖父さんは笑つて、

「末坊も、お前にまけない滑稽坊主になるぞ。はゝゝゝ」

「ほんとですわねえ」

母親も面白さうな顏をしながら

「それはさうと、さつきの正ちやんのお話は何うして？」

「あ、さう〜。私も言ふのを忘れてゐたわ。……あのね、その八百屋さんがね、ころがつた林檎の上を、またゴロ〜ころがりながら……」

と、また可笑しくなつて笑ひ出し、

「早く拾ひませうと、すればするほど、よけいころがるのよ。そのうちね、車の上を見ると小さな子供の足が二本、籠の中からニユツと出てるの、とても可笑しかつてよ―」

「あはゝゝ。なんだ、そんなことか」

お祖父さんが詰らなさうに笑つたので、正子は不平らしく、すぐ顏をふくらました。

「おほゝゝゝ、正ちやんのふくれツ顏、久しぶりに見たわ」

「まア、ひどいわ！お祖父さんも母さんもおぼえてゐらつしやい」

さう言つて、正子は茶の間を出て、パタ〜と奧へ駈け込んだ。

後には祖父と母親がまた可笑しげに笑つた。

(五)

ある日、またこんなことがあつた。ちやうど月曜日の夕方で、正子の家では父親も母親も、お向うのうちの婚禮に招かれて行き、留守だつた。で、祖父が末吉をお守して、いつものやうに暖かい茶の間で遊んでゐた。話好きなお祖父さんは二人の孫たちに昔のお話を面白可笑しくして聞かせてゐた。

とそのうち、正子は何か思ひ出したやうに座を起つたが、間もなくすつかりよそゆきの美しい衣物に着換えて、玄關の間にキチンと坐つた。それはちやうど誰か迎へに來るのを待つてゐるやうに見えた。

お祖父さんはそんなことは少しも知らず、小さな孫を相手に遊んでゐた。

すると、そこへ、正子の叔母が表から入つて來た。

「あらア正ちやん、今晩はばかにおめかしをしてるぢやないの。これから何處へ行くの」

叔母は珍しさうに聞いた。

「私ね、叔母さん。お向うに行くのよ。およばれに……」

「さうを。それアいゝことね。お向うのお家はなんなの？」

「今晩ね、ご婚禮があつてよ。それで、お父さんもお母さんも行つたの」

「そいで、正ちやんもおよばれをうけて？」

叔母は漸く樣子が解り、さう訊いた。

「うゝん。まだなの」

「えツ？」

「あのね、あたしにだけは、まだなの」

「へえゝ、さうすると、正ちやんは後から來るやうにつて言ふの？」

「うゝん、さうぢやないの」

「ぢや、なんて？」

「あのね、叔母さん。あたしにはね、まだおよばれが來ないのよ。だからあたし、かうして待つてんのよ」

「へえゝ。まだお招きがこないから……。おほゝゝ。まア正ちやんはいつも〜面白いのね」

と、叔母は思はずふき出して、

「お父さんや、お母さんが行つたのなら、もうそれでいゝぢやないの。正ちやん、行かなくたつていゝんでせう？」

「でも……」

正子はなか〜承知しなかつた

「だつてさ、招待のお使がこなくちやアね」

「だからあたし、かうしていつまでもお使を待つてんのよ」

「おほゝゝゝ。そして、そのお使ひが來なかつたら？」

「來なかつたらばね……」

と、正子は平氣な顏で澄ましてゐる。

「來なかつたら、行かれやしないわよ」

「えゝ。そりやさうだわ。だからあたし、かうして行かないでるのよー」

「あはゝゝゝ。面白い娘ねえ？」

叔母はワツとふきだしてしまつた。

「叔母ちやんも、坊やんもお嫁に行くのよ？」

茶の間からヨチ〜と出て來た末吉が、片言まじりにさう言つた

孫の後からそこへ出て來た祖父は突然變つた正子の裝ひを見て、忽ちアツと驚いた。

「あはゝゝゝ」

と、皆なが一しに笑つた。その時、お向うの家から目出度い唄ひ聲が、賑やかに聞こえてきた(終)

謹賀新年

吉林總領事館 總領事 川越茂

吉林總領事館 警察署長 倉持淺之介

吉林滿鐵公所 所長 吉原大藏

吉林東洋醫院 院長 齋藤源治郎

吉林日本尋常高等小學校 校長 倉井盛行

中日合辦吉林同文商業學校 主任 井上輝雄

吉林居留民會 會長 堀井覺太郎

吉林在鄉軍人會 分會長 藤浦淸人

吉林木材同業組合 組合長 細野喜市

吉林造材組合 組合長 寺尾民助

吉林質屋組合 組合長 西村豐吉

東亞煙草株式會社 駐在員 曹爾猪孝

滿鮮杭木株式會社 出張員 南諭吉

吉林 吉川組出張所 吉林車站前 電話一二〇番

貿易商 裕泰號 吉林河南街 電話二六三番

木材商 大吉 木材合名會社 吉林東大灘 大連市淡路町

材木商 富士公司 吉林新開門外 電話三〇五・二六五番

高等雜貨商 福昌號 吉林新開門街

食料雜貨商 丸德商店 吉林新開門外 電話四二七番

運送業 丸重洋行 吉林驛前

自轉車販賣並修理 電氣器具材料一式 蓄音器月賦販賣 獨乙製ミシン月賦販賣 增島洋行 吉林新開門外

高等旅館 名古屋旅館 吉林省城商埠地 電話二〇〇番

總領事館 工藤正次

吉林昌邑屯 吉林燐寸株式會社 電話二五八番

森林經營各種原木 枕木、杭木、電柱等 共榮起業株式會社 電話二七一八六番

吉林官商合辦 華森製材公司 電話三〇〇番

吉林料理屋組合

製函、製材原木 吉林木材興業株式會社

滿洲銀行支店長 大倉太七郎

總領事館 汾陽四郎

車段長 三浦嘉七

總領事館 栗木秀顯

第一工務段長 趙心哲

總領事館 木本修藏

小學校長 倉井盛行

總領事館 嘉屋庄右衛門

同文商業學校 井上暉雄

博濟病院 小松徹

松本洋服店

車站 芝元正次郎

廣成公司

工務課 黑木八五郎

柿元淸

賀正

（長春ノ部）

長春領事 永井清

長春地方事務所長 土肥顓

吉黒鹽務稽核處長 小泉土之丞

吉敦鐵路局代表 田邊利男

長春地方委員會議長 原田種壽

長春警察署長 峯岸安太郎

長春取引所長 永原岩雄

長春商業會議所會頭 島名福十郎

長春滿鐵病院長 白鳥文雄

長春驛長 蓼沼泰一

長春郵便局長 岐部與平

長春商議副會頭 和登良吉

國際運輸長春支店長 釘宮松三郎

南滿洲電氣株式會社 長春支店長 大浦力

長春ヤマトホテル 支配人 田中芬

長春驛事務主任 齋藤順治

長春貨物主任 高澤公太郎

長春保線區長 堀江元一

長春列車區長 興津哲太郎

長春機關區長 片瀬晋

長春檢車區長 中村謙治

國粹會長春本部長 阿川甲一

長春取引所信託株式會社 山崎重次

長春商議書記長 大垣鶴藏

長春滿鐵醫院事務長 山岸守永

南滿洲瓦斯會社長春支店 河喜多英二

長春觀測所支所 杉野實次

長春 同仁醫院 市橋貞三

長春蓬莱町一丁目 齒科 早川醫院 早川俊男

長春大和藥房 山本八十四郎

赤羽一二

北原紙店 電四〇一番

長春吉野町一丁目 合資會社 宮下木廠出張所

日本橋通 金泰洋行

長春地方事務所 庶務係長 門間堅一 地方係長 平尾康雄 勸業係長 川合正勝 土木係長 吉田元一 建築係長 小林廣治 經理係長 中村治郎

長春東二條通 日鮮精米所 電話二一一九番

長春三笠町 羅紗洋服商 松田洋服店

長春三笠町 仁和洋行

日本橋通り 貿易商 藤田商會

長春日本橋 和洋雑貨 和洋文具商 林洋行本店 同文具店

長春日本橋通 和洋百貨店 平本洋行 電一五八番

ジヤパンツーリスト、ビューロー 長春案内所 電話一三九三番 吉津清

長春旅館組合

長春新市街 料理店組合

長春取引所 取引人組合 電話一二五番

長春取引所信託株式會社

長春薬業組合

長春工友會

長春 石炭商組合

長春大和通四九 食料雑貨 警察署購買組合 三浦洋行 電五六七番 電一〇〇四番

長春市場 食料雑貨商 松尾商店 電九九一

本場銘仙直賣 秩父屋 長春祝町 電五四七番

長春千鳥町 全良牛乳 三宅牧場 電八八番

長春市場株式會社

東海起業株式會社

長春 合資會社 松茂洋行

吉林燐寸會社長春支店 電四一〇・八一八番

和洋雑貨商 長春吉野町 廣春洋行 電一〇五二番

長春 ㋐みしまや呉服店 電七一・五三五番

陶磁器、硝子器販賣 大華窯業公司 長春出張所

日本橋通 阿曾時計店

鍼按灸術 電氣マッサージ 安藤療院 電六七四番

長春東一條通 竹島印刷所 電四〇五番

吉野町 佐藤仁平洋服店

日本赤十字社 長春委員部 主任 星熊太郎

(活) 長春 滿蒙活社

直營 長春演藝館 森省三

長春 寶石堂 電一三一八番

和洋酒食料品商 丸平洋行

食料雑貨 長春富士町 梶原洋行 電一二五五番

金物商 日本橋通 船越商店

長春哈爾賓間 小包郵便委託 用達 石山運送店

吉野町一丁目 和洋菓子 日新堂 電一〇二二番

東二條通 西澤薬房 電一〇八五番

長春東一條通 金城靴店

長春 西脇洋行

長春 岡田醬園 電一一四六番

長春東二條通 濱木活版所

長春富士町 蝶屋洗布所 電七二〇番

和洋雑貨 長春大和通 大葉商店 電六七五番

長春吉野町 (德) 丸徳商店 店主 猟川徳太郎 電二三三番

長春吉野町 乾寫眞館 電一〇二五番

長春鐵道北 小松製材所 電一〇一九番

長春吉野町 森野商店

長春吉野町 佐藤呉服店 電三七番

長春祝町五丁目 千葉修一商店 電一七一番

日本橋通 東洋薬房 電一〇一九番

日本橋通 大本商行 電五五〇番

長春吉野町二 エスヤ洋服店 電六一九番

滿鐵會社 警察署 憲兵隊 郵便局 御指定 富國徴兵保險相互會社 日清生命保險株式會社 滿洲日報長春營業部 長春代理店 富士屋旅館 館主 五味武太郎 長春驛前 電話三八四番 振替大連三八五三番

滿洲日報
元旦號 其の三

婦人の社會分擔と生活改善
眞に母性に目醒めよ

日本女子大學教授　井上秀子

一

男性と女性と比較すると、生理的に大きな相違がある。即ち、女性は生れながらにして男性にないところの母性を所有してゐる。從つて、そこに男性と女性の社會分擔の相違がある譯である。昔から男は主として外で働き、女は主として家庭內に止まつて育兒の任に當つてゐた。子を生み、子供を育てることは、女にとつて最も大切な仕事の一つである。だから、女は先づ何よりも一個の母性としての自覺を持たなければならない。然しながら、その自覺は自分の子供を生み、自分の子供を教育すると云ふ狹い範圍に止まらずして、進んで社會、國家、人類の種族の永久の保存といふところまで深まらねばならない。即ち、ユニバーサル、マザフルといふ自覺にまで到達しなければならない。日本の婦人は母性に目醒めてると一般から云はれてゐる。然しながら、よく考へて見ると、それは極狹い個人主義的な自覺にしか達してゐないやうに思はれる。自分の子供を立派に教育すると云ふことは勿論大切なことである。然しながら、單に自分の子供だけではなく、社會全體の子供を精神的にも肉體的にも立派にすると云ふことは更に／＼大切なことでなければならない。

例へば、最近に於て東京市の牛乳屋が不良な牛乳を一般の家庭へ販賣してゐると云ふ事實が摘發されて社會的にかなり大きな問題を起したことはまだ私たちの耳に新しいことである。ところが、この不良牛乳の問題は、何よりも女性殊に子供を持つ母親にとつて重大な問題であるにも拘らず、一般の母親はこれに對して何らの抗議をも起さなかつた、彼女たちは之に對して全然無關心のやうに思はれた。これは彼女たちが眞に母性としての自覺を持つてゐないと云ふ證據ではあるまいか。不良牛乳の問題は、單に自分の子供一人の問題ではなくして、子供全體の問題である。かうした問題は全體的な問題として婦人が社會に對して自分たちの立場から抗議を申し込むべきである。

また、子供は一般に非常に病氣にかゝり易いが、子供の衞生と云ふやうな點に於ても、婦人が本當の母性に目覺めてゐるとすれば、個人主義的な考へから拔け出て、かうした問題を常に全體の問題として考へねばならぬ義務がある。例へば、自分の子供が傳染病にかゝるとする。これは自分一家にとつて非常に重大なことであるのみならず、やがてまた他の子供へも傳染する恐れがあるものであるから、自分の子供の病氣などについては、單に自分の子供についてのみならず、他の子供のことも考へて、常に細心な注意を拂はねばならない、これと反對に、自分の子供が如何に健全でも他から病氣を貰ふ場合もあるから子供のことは常に全體のことゝして考へねばならぬ。

二

以上述べたことを要約すると、自分一個の母性としての婦人は、自分の子供のためにも他の子供のためにも、環境をよくすることを心掛けねばならぬと云ふことである。自分の子供だけをよくしやうとすることは不可能なことである。社會は凡て環境から成り立つてゐるものである。自分の子供を丈夫にすることゝまた自分の子供をよく教育することは、一にこの環境をよくすることにかゝつてゐる。如何に自分の子供を健全にしやうと思ひ如何に自分の子供を善良な人間として教育しやうと思つても、環境が惡ければ、その影響から免れることは出來ない。ところが、日本の婦人は一般的に云つてかうした考へをあまり持つてゐないやうに思はれることは殘念である。

最近、また子供を持つ親にとつての實際問題として入學試驗廢止と云ふ問題が起つた。今日、兒童の最も惱まされてゐる問題は入學試驗問題である。我國の文化は日一日と進み、從つて學窓に志す者がどん／＼殖えて行くにも拘らず、學校の數は限られてゐる。こゝに入學難といふ問題が起つて來たのであるが、親たる者は誰しも自分の子供を無事に學校へ入れたいのが人情である。從つてこの問題は直接子供の教育に携はる母親の愼重に考へねばならぬ問題である。これは政府で考へるべき問題ではなくして、先づ親の方から政府へ持出すべき問題である。然るに、政府から持ち出して始めてこれを考へてゐるやうな傾きがありはしないだらうか。こゝにも私たちは日本の女性が眞に母性としての自覺を缺いでゐるのを見出さずにはゐられない。

以上述べたやうに、婦人には婦人としての重大な社會分擔の役目を持つてゐる。然しながらこの役目を充分に果すためには、今日の日本の婦人は、家庭的な或は社會的な、その他いろ／＼複雜した事情のために妨げられてゐると云ふことが事實である。一面に於ては婦人の自覺が足らないといふことにもよるが、他面から考へると如何に婦人にさうした自覺と力があるとしても、現在の日本の家庭生活の事情がそれを許さない。日本の家庭生活は今日と雖も非常に保守的で、女性がその一家の主婦として立つたとしても、しうとや姑に束縛されて自分がこれと思ふことを充分にやれない位置に置かれてある。また、母としての天職、或ひは進んで社會婦人として社會のために盡さうとしても、右に述べた家庭的な事情や忙がしさのためにそれが充分に果されない。そこで私たちに與へられた問題として、差當つて考へ、且つ解決しなければならぬことは、生活の單純化と云ふことである。

三

生活改善或は生活の單純化と云ふことは前々から叫ばれてゐるにも拘らず、それが未だに實現されないのは何故であらうか？

それはその具體的な方法がはつきりと研究されてゐないのによると思ふ。生活を單純化するといふことは勿論結構であるが、如何に單純化すべきであるか、これがはつきりと判らねば駄目である。私たちは生活の單純化と云つても、無暗に生活を單純化すべきではなくて、合理的に單純化することを考へねばならぬ。

例へば衣食住について云へば、無暗に生活を單純化して、不自由や缺乏や、不健全を招くやうではその單純化は何等役立たない。生活を單純化して然もそこに調和と慰めを見出すやうにしなければならぬ。日本人の着物はどの點から考へても、無駄な部分がある。だから、これを單純にし、實用的にすることは結構であるが、然し、また實用一點張りで何等そこに美が見出されないのでも困る。今日少し進歩的な考へを持つた婦人は生活の單純化を計る一端として、和服の代りに洋服を用ひてゐるがこれは充分に研究せられた上でそれを用ひてゐるとは思はれない。和服は種々の點で活動的な人間にとつて不便であるから洋服に代へたと云ふ程度であつて、生活の單純化と云ふことに對してはつきりした研究がもつと／＼出來なければ、それをどう改善すべきか、また日本人が洋服を着るとすれば、日本人の身體にぴつたりしたどういふ洋服を作るべきか、と云ふことも研究されなければならない。然し、今までのところでは、經濟、勢力、時間の上から洋服の方が、和服より優つてゐると云ふことは事實である。

食物もこれを改善すべきであるが、これは同時に國家的見地から食糧問題と結び合して考へなければならぬ。私たちは米を常食としてゐるが、必ずしも米食でなければならないと云ふ譯ではない。米に代るべき食物があるとすれば、どん／＼それに代へて行くべきである。これは行き詰まれる我國の食糧問題を解決する一端ともなると思ふ。例へば米の代りにパンを取るなどがそれである。

衣食住中で、住宅が一番改善されてゐるやうに思はれる。即ち、文化住宅等はその好適例で、今までの家より安く出來て、然も住心地は今までのに決して劣らない。

一體に日本人は議論ばかり多くて實行が伴はないといふ通弊があるからしなければならないと考へた部分から先づ手をつけなければ、どんなことも解決のつくものではない。大いに研究し、議論すると同時に、それを實行すると云ふ強固な意志を持たねばならぬ。これが理想的でないとしても、先づそれを實行して見れば、よいところや惡いところが見出され、その問題はよりよい方向への解決の道を見出すものである。

生活改善問題は、何れの方面に於てもまだはつきりした見通しがついてゐる譯ではない。が、ある案が立つたところから着々と實行して始めて生活改善の實が擧げられるのである。

今日の日本婦人は、いろ／＼な事情から不自由な位置におかれてゐる。多くの婦人の中には、相當に自らの立場を自覺し、そこから理想に向つて邁進しやうとするものも決して少くないが、たゞ傳統的な保守的な家庭生活に災されて自分の思ふ通りになれないのは悲しむべきことである。婦人が眞に母性として使命を果し、進んで社會婦人として社會の分擔を全うしやうとするならば、先づ、家庭生活の改善から手をつけなければならないと思ふ。（一）

辰歲生れのスター…（一）
初春の御挨拶
八雲惠美子（松竹—玉野笑子）

明けましてお目出度うございます、未だ若輩ではございますが何卒御後援をお願ひ申し上げます。

—さうですね、妾は明治三十七年生れですから今年の干支と同じ辰歲でございますわ、生れ故鄕は大阪です、學校を卒へてから暫く家事の手傳ひなさしてをりましたが、忘れもしない大正十五年の一月始めて松竹蒲田へ入社いたしました、妾が映畫界に入つたそも／＼なんですから何うしたつて忘れられませんわ。幸ひ皆樣のお蔭で新人の三田英兒さん共演で『初戀』を完成し續いて『霧の中の灯』『娘』『秋の唄』『歸らぬ笹笛』『黒髪夜叉』等に主演してをります、趣味ですつて？　さうね日本舞踊に讀書くらゐですの。

來る五日より掲載する新小說
彩鳳の踊り子
野村愛正作　島御風畫

かつて大阪朝日の懸賞小說第一等に當選して一躍文壇の寵兒となつた野村愛正氏は、その後久しく新聞小說にその力を示さなかつたが今回本社の請を容れて本紙愛讀者のため一大長篇を執筆することゝなつた。殊に氏は今回の創作において一新境を示すべく、非常なる努力を注ぐべき決心を物語つてゐるから、その圓熟せる技巧と變化に富める構想とは必ず我愛讀者の期待に背かぬであらう。挿畫は關西畫壇の巨擘として優婉なる筆致に人を魅する島御風氏のもので愛正氏の力作と相俟つて精細巧緻の密畫である。この一大雄篇はいよ／＼來る五日の本紙朝刊より連載されるが、昭和三年の新春劈頭滿蒙在留邦人の讀書界に一大センセーションを捲き起すべきことを疑はぬ。」

＝作中の人物＝

最近東京の某大銀行整理問題に關して榮爵を辭したといはれる墨田伯爵には實子がないといはれてゐるが實はあつた。それは伯の唯一の妾腹の娘であつた。絕世の美人であり才媛である伯爵の娘をヒロインとした本篇は、この伯爵家の沒落、辭爵を背景として展開し、ヒロインの失戀—自棄—人肉の市など野村氏の圓熟した筆で織出される中に、奸計あり、決鬪あり波瀾曲折の極を見せ讀者をして翌日の新聞を待ち焦がれさせずにおかぬほど魅惑するであらう。

お…正…月…は
斯く致します
本社の質問に答へた在滿婦人のお考へ

本社ではかねて各方面の御婦人に左の質問を致しまして、得ました返事を御紹介致します

一、貴家のお正月は例年どうなさいますか、

二、滿洲のお正月に缺けてゐるものは何でせう、

三、新年から是非お始めになりたいことは何？

古澤丈作氏夫人　古澤滿江

一、兎角に日本の習慣を存じませんでも子供達の爲めに形ばかりでもお正月のお祝ひ（お屠蘇とかお雜煮とかの類）は出來るだけ致します樣に心懸けて居ります、そしてお休みの間は少くとも半日は子供相手に遊びます

二、どなたでも仰せられますが、矢張りお正月氣分とでも申しませうか、二重硝子の窓の中では外の景氣も判りませんので、そんな氣分が一寸缺けてゐる樣に思ひます

三、何でも「今年こそは」と思ふ事は毎年のことで御座いますが今度は特にこれと申すことも御座いません・新しい事よりも今までにして來たことをよりよくしたいと思ふばかりで御座います

旅順　齊藤きん子

一、別にきまりは御座いません、土地の例に倣ひます

二、當地の御正月は初めてゞ判りません

三、別に御座いません

哈爾賓　栗栖蔦子

一、日本の趣味習慣に格別の好意を持つて居ります、私共の宅ではやつぱり此處の生活でも祖母や母に習つて來た煮豆、田作り數の子の御馳走にお雜煮を毎年頂戴して喜んで居ります、それが貧しい主婦の手料理だけに家內はすつかりお正月氣分になります・生れついて以來のお正月でございます

二、靜かな調ふた氣分と活氣だと存じます

三、計畫的のものが一つも實行出來なかつた過去からすればどうだか分りませんが、貧乏せぬ樣に特に注意を致さうと思ふて居ります

哈爾賓　古澤靜子

一、私共では家庭としてよりも主人の職務上から非常に混雜な新年を致します

二、すさまじい氣持が致します・今少し冥想のあるお正月でありたいと思ひます（但しこれも私の方の事で御座います）

三、そうした事は今考へては居りませんでした

榮島前滿鐵地方部長夫人　榮島英子

一、別に取立てゝ申上ぐる程のことは何も御座いません

二、氣候といひ家屋の構造といひ內地のお正月の氣分は出ないやうに思はれます

三、何も考へて居りません

旅順　大槻たつ子

一、門松飾りと屠蘇を作りまして正月を待ちます、元旦は主人が日の出を拜し、私共一同は主人にお祝を述べます、屠蘇と雜煮は三ケ日祝ひます、廻禮客のため心ばかりの準備をします

二、神社が少くお詣りが出來ません、でも寒さが嚴しいので億劫になります、追羽子の出來ないのもそのためでせう、獅子舞とか萬歲のないのもお正月に缺けてゐる一つでせう

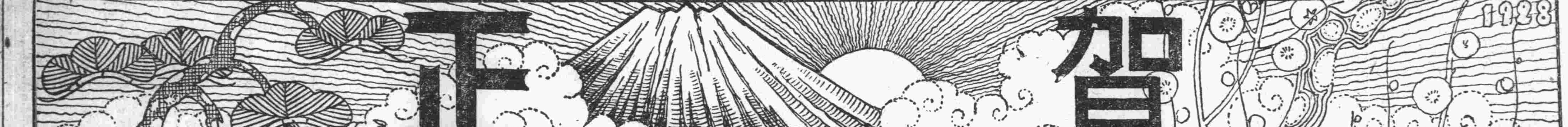
三、別に考へて居りません

旅順　池田幾代

一、年中行事の初歩として第一番に神祭をなし、未明打揃ふて新年の五禮を交し屠蘇を酌んで心行くまで談笑にふけります

二、私は植民地といふ考へを持つてゐるためか足らざるをもつて滿足して居ります

三、社會事業と申た處で一婦人の身、先づ入るを計つて出るを制し家政を司りたいと思ひます



大連錢鈔取引人 五日會

- 和盛泰錢莊　大連市駿河町二　電五一八一番
- 和泰錢莊　大連市愛宕町三三　電四三七二
- 泰信錢莊　大連市奥町二三　電五一五一
- 泰記錢莊　大連市奥町一八　電五一〇一
- 山田錢莊　大連市信濃町二八　電五一三五一
- 廣來錢莊　大連市監部通八八　電五一二二
- 永順錢莊部　大連市大山通五八　電六五五二
- 義升福錢莊　大連市愛宕町二二　電六一五五
- 永泰錢莊　大連市山縣通　電八七四五
- 仁記錢莊　大連市監部通一二　電五一九一
- 東華錢莊　大連市奥町七六　電六一二二
- 德泰公司　大連市山縣通　五電六一六四
- 山本錢莊　大連市山縣通六三　電五一四一
- 純昌號錢莊　大連市山縣通一八　電六一九五
- 豐昌泰錢莊　大連市淡路町二七　電六一一一
- 東裕錢莊　大連市山縣通一八　電五一五七

大連海運業聯合會々員名（イロハ順）

- 山縣通二〇〇　日本郵船株式會社出張所　山口啓三
- 山縣通二三三　大阪商船株式會社支店　飯塚祇吉
- 山縣通一九九　大連汽船株式會社　塚本貞次郎
- 山縣通一八　高橋商會　高橋利吉
- 山縣通一四四　大連東和汽船株式會社　善甫亥三郎
- 紀伊町二三　合資會社辰馬商會　觀浦宗太郎
- 山縣通一五三　合資會社大三商會　三村元介
- 加賀町三〇　田中商事株式會社支店　松浦靜夫
- 山縣通七一　太洋海運株式會社代理店　三倉讀吉
- 山縣通一三〇　堤商會　堤昇
- 北大山通四　宇田商會　宇田精一
- 加賀町四　山下汽船株式會社支店　鵜木健造
- 濱町三　滿洲船渠株式會社　和田敬三
- 敷島町六　合資會社丸一商會　佐志雅雄
- 山縣通二二一　國際運輸株式會社　吉村英吉
- 山縣通八七　合資會社後藤商會　高瀨直一
- 山縣通一八一　帝國汽船株式會社出張員　田中次郎
- 山縣通二〇〇　阿波共同汽船株式會社支店　天羽壽郎
- 須磨町六　株式會社澤山兄弟商會出張所　辻菁木
- 山縣通一八二　三井物產株式會社船舶部　中澤尙次郎
- 山縣通一七七　合資會社宮崎商會　宮崎優一
- 山縣通一九二　合資會社靖和商會　小寺武市

大連酒商組合（いろは順）

- 白鶴　發賣元　嘉納合名會社大連支店
- 澤龜　同　宅合名會社大連支店
- 白鹿　同　合名會社辰馬商會
- 大關　同　黑岩大連支店
- 滿洲鶴　同　滿洲清酒株式會社
- 忠勇　同　增屋
- 櫻正宗　同　扶桑號上中商店
- 白菊盛　同　合資會社肥塚大連支店
- 菊正宗　同　鐵谷商店
- 富士東洋一　同　株式會社柴谷洋行

綿糸布商聯合會
會員一同（いろは順）

- 大連市山縣通　日本綿花株式會社大連支店
- 東洋綿花株式會社大連支店
- 小津武林起業株式會社大連出張所
- 大連市監部通　株式會社大信洋行
- 大連市大山通　株式會社角田洋行
- 大連市山縣通　丸永商店大連支店
- 永順洋行
- 鈴木商店

福昌華工株式會社
電話四五一〇番

專務取締役　高尾秀市
常務取締役作業課長　小住善藏
取締役庶務課長　加藤友治

童謠童話と兒童教育

野口雨情

兒童文藝とは何ぞ

童謠と童話は、姉妹文藝であつて、どちらも兒童文藝である。兒童文藝と云ふことは、所謂一般の文藝に對する區別上の名稱ではあるが、その本質の上に於ても相異つてゐるのである。まづ、大體に於て如何なる點が異つてゐるかと云へば所謂一般の文藝の多くは生活の苦惱とか異性間の戀愛とか成人の世界に存在する事件を主材として取扱はれたものが重なのであるが、兒童文藝にはさうした生活上の苦惱たとか、異性間に關係ある戀愛だとか、兒童の世界に關係の遠い事柄に材題を採ることが許されてゐないのである。

童謠と童話の愛好

童謠と童話は、姉妹文藝であるから、いづれを取りて、いづれを捨るといふことは出來ない。作者においても童謠に才のある作者もあれば、童話に才能のある作者もある。童謠と童話とは姉妹文藝に相違ないが、童謠に才能のある作者として童話に才能があるとは云へない作者に於てもさうである以上同じ兒童間にも童謠の愛好者之また童話の愛好者であるとは限らず童話の愛好者等しく童謠の愛好者とは限らぬのである。要するに童謠を好むものもあれば、童話を好むものもあるのである。しかも童謠を好まず童話も好まぬと云ふものがあつたならば、それは童謠童話を知らない兒童である。知らざるが故に好むことが出來ないのである。

兒童文藝の選擇

童謠童話が兒童文藝である以上兒童教育上に有益なことは云ふまでもないことであるが指導者なり、父兄なりが、その選擇を誤りて兒童文藝ならざる類似の作品を與へたとしたならば、その作品の影響を受けて、兒童の性情に弊害を及ぼすことは勿論である。最も注意すべきは兒童に與ふる作品の選擇であるが、世の多くの父兄は、兒童の好むに任せて、作品の選擇については、あまりに等閑であり、指導者も、一部研究家をのぞくの他はその選擇について、あまりに無智であると云はねばならぬ。

作品の選擇を要す

純良なる幾多の兒童文藝家はあるが、兒童文藝家の作品悉くが兒童の教育上有益なものとは云へないのである。作者が自ら有益なりと思惟する作品が、教育上果して有益であるか、どうか、疑はざるを得ないものが要はある。要は父兄に兒童文藝の作品に對する選擇眼を望むと同時に、指導者にも鑑賞眼を望むのである。徒らに甲を眞似、徒らに乙を眞似ることの愚さを考へて貰ひたいのである。

兒童文藝の眞質を解せざるものは空想的のものをよき作品と誤つたり、滑稽、奇矯なる作品をよきものゝ如く考へたり、甚だしきは駄洒落が兒童文藝であるが如く思つてゐる傾きさへある。かやうなことは最もいとふべき、文藝の邪路であり、健實なる兒童文藝は左樣なものではないのである。

自然の感動歡喜

單に美を傳ふることが兒童文藝の教育上の目的ではない、兒童文藝の目的は、兒童に歡喜と感動とを傳ふることにある。そして、それが自然の歡喜であり、自然の感動でなくてはならない。不自然の歡喜や不自然の感動であつたならば、教育上却て有害である。不自然の歡喜とは、テクニックによつて無理に兒童の歡心を求めることにある、不自然の感動も、矢張りそれと同じやうに、こと更に兒童の感動を買はんとする手段のことである。

一つの作品によつて歡喜と感動とを傳ふることは、童謠にありては短き歌詞に於て至難であるが、童話に於ては必ずしも至難ではない。しかし、その作者によつて歡喜を傳ふることに重きをおく傾向と、感動を傳ふることに重きをおく傾向と二樣あるやうに思はれるが、これは、作者その人の主觀であつて、いづれを是とし、いづれを非とするといふことは出來ない。さうした作品を交互に與ふることが寧ろいゝのである。その一方にのみ偏することは、兒童文藝の教育上不可である。

歡喜によつて兒童の心は、はなやかに伸びてゆくであらうが、感動によつて兒童の心は浮薄を去り緊張されてゆくのである。この二つは教育上大切なことなのである情操教育といふことも全くその目的はここにあるのである。

父兄指導者に望む

兒童文藝は、眩術的な作品ではないのである。素朴な眞面目な作品であるべき筈である。なぜなれば、兒童文藝であるからである。この點について、父兄に、指導者に、童心より生れた作品であつて最も留意されんことを切望する次第である。

不老長壽論（一）

古今の若返り法を研究して
適切確實なる長壽法を教ふ

醫學博士　高野六郎

人類の欲望

は、富貴と長命とであらう、人類が生存する以上、出來得る限りよく生き、長く生きやうとするのは當然の要求である、善く生きる爲には、財産や地位、名譽などが必要であるが、世間の人達は之を獲んが爲めに知らず〳〵の間に全力を盡してゐる。さて財産や地位名譽などを手にした後で、今度は長生しやうと希望する。即ち衣食足つて後初めて養生を思ふのが常であるが、夫ではもう既に遲い。長く生きんがためには

人生の初期

から之を工夫しなければならぬ。吾人は寧ろ長命の策を先にして、富貴を後にするが至當であると思ふ。人生には長さと幅とがある。所謂太く短く送つた生涯と、細く長く送つた生涯と何れがよいかといふことは決定出來るものではないが、兎に角太くて短いよりは細くとも長い方がよいやうに思へるし、太く且つ長ければ尚更結構である。病身で寢てばかり居りながら、それで割合長生する者もある、三十前に一人前以上の仕事も仕とげて惜まれながら死んでゆく者もゐる、人間

一人前の仕事

を缺かなければどうでもよいやうだが、出來得る限りは充實した生活の、充分に長いのを望まねばならぬ、生きてゐて自分も面白く、他人目にも頼もしげな生活ならば、いかに長くとも結構である、生命長ければ恥多しなどゝいふことは、不完全な生命に就いていふことである。完全な生命こそ、長くして愈々慶福加はるべきである。今後の

衛生上の標語

は「太く長く」主義でなければならぬ。現代では三十にして未だ修業がすまない四十代に入つて漸く働き盛りとなり五十、六十と段々油が乘つてくる。學問技藝の進歩もそうである。多大の苦心と費用とをかけ三十歳以上までもかゝつて漸く一人前になつた者が、僅四十や五十年の年齡で老朽し、或は死亡してくれては、國家のためにも個人の爲にも大變な損失である。從つて今後の社會は、よく

活動する老人

の多い方が勝利を占める。若隱居の多い國民は衰微する、から考へてくると、不老長壽は獨り個人幸福の問題ではなくて、國家の盛衰に關する重大な問題である。近頃の衛生學者は「健康は國民の財産」であると云つてゐる。まことに、世の間に對して最も効果を擧ぐべき中年以後の人達の健康は、全く重要な國家の財産でなければならぬ。

謹賀新年

西洋樂器樂譜
西洋家具裝飾
水道衛生器具
大連市信濃町
株式會社 山葉洋行支店
電話代表四一四八番 振替口座大連八二番
販賣店 市內浪速町三丁目 電話（長）三一〇番
出張所 奉天浪速通十六番地 電話（奉）六九八番

大連市浪速町伊勢町角
鈴木呉服店
電話代表五二九八番 振替大連四八番

大連市浪速町二丁目
奥田時計店
電話六七三一番

浪速町三丁目
同支店
電話三八九七番

大連市浪速町
大阪屋號書店
電話四六〇八番

大連市吉野町
三星洋行
電話五一六一番

大連市浪速町
伊藤呉服店
電話代表番號六一〇七番 振替大連二八五番

大連市信濃町
滿洲水產株式會社
電話七〇五三三・五三七番

大連市山縣通
藥品貿易商
株式會社 乾卯大連支店
電話三〇九〇・五六一七番

大連市奥町
大連商品信託株式會社
電話八一三一番

大連市磐城橋中央ビルディング
大連海上火災保險株式會社
電話五四一二番

大連市山縣通一六八番地
鴻恩洋行
廣島製砥所大連出張所
電話七八七七番

大倉商事株式會社
大連出張所

直輸入貿易商
合資會社 加藤洋行大連支店
大連市紀伊町
電話代表六一一五番

アンドリユース エンド、ヂヨーヂ合名會社
大連支店
電話八三二〇番

大連市奥町廿四番地
大連株式商品取引所
商品取引人組合

大連市奥町廿四番地
大連株式商品取引所
商品現物取引組合

鐵材商
大連市吉野町四十一番地
畑中佐太吉商店
振替口座大連九三七番
電話長七二七二番
電信略號（ハタ）

大連市信濃町
遼東ホテル
電話長四四一七三一番

大連市西公園町六五番地
大連質業株式會社
電話七〇七三番

大連市信濃町市場
羽月商店
電話七二九六・四五四三番
本店 西通一〇四番地

大連信濃町市場組合
電話四七六三番

大連市浪速町
おしるこ おぞうに
梅園
電話五二一二番

辰の年の運勢

丸顔が好運の年

景氣は年末からよくなるが いろ〳〵こうるさい龍の年

二世 高島象山師

本年は辰年である。辰は龍であるから本年は龍年であると云ひ得る。元來この龍なるものは傳說上の空想的な假想動物であつて、和漢三方圖繪に本草綱目を引いて曰く「龍は人に似たり、頭は駝の如く、角は鹿に似たり。眼は鬼の如く耳は牛に似、項は蛇の如く、腹は蜃の如く、鱗は鯉の如く、爪は鷹の如く、掌は虎に似たり」と。大變な怪物に仕上げてゐる。勿論、支那人の製造?した怪物?易經にも「飛龍天にあり、潛龍田にあり」などあるから、其の起因甚だ古く、何れも天子、皇太子に譬へて極度に尊び、遂に國の徽章としたと共に、天子の玉顔を龍顔、御言葉を龍言、御怒りを逆鱗とか云ふやうに、古來萬物中至上最高の生物とされて來た。

そこで此の辰の字は「日輪地上に現はれ、中天を指して日輪立ち登る」と云ふ意から生じたる文字で、干支では辰と讀み、普通は辰と讀む。而して辰は「進と伸」に通じ「ススム」「ノビル」の義があり「朝に湯氣が伸張し、日輪の中天に進む」の義であつて一日の時刻にすれば午前七時から九時まで、昔の五ツ時即ち辰時は之に相當する。

それから年中の季節上に於ては陽春將に酣ならんとする二月の初旬に相當し、草木萠芽し、綻びるの季節であるから草木の芽立つの意となる。なほ辰卷、辰風などといふがいづれも其の季節を說いたものである。

社會的運命

辰のことは先づ之れ位にして、さて辰年なる今年の社會的運命と社會の種々相を科學的豫言に立脚して率直に豫言しやう。

今年の社會は元日から大晦日まで遺憾なる七面倒臭いことが多く思想、勞働問題は云ふに及ばず、政界、財界、學界、外交界等に至るまで、次から次に大問題が頻出續發する。

政治界

尤も政界は比較的無事の方で、突發的大問題即ち先年のシーメンスシユツケルト事件の如き大きなものは突發せんから一寸ひと息の形で、最初の普選による總選擧も思つたほどの物議も起らず、割合にあつさり終了する。併し議會は開院早々野黨の猛烈な肉迫を受けるから政府の難戰苦鬪はひと通りではないけれども、際どい所で解散を免れる。が、この無事通過が却て禍となり、朝野共に黨員の大動搖や離合集散がうるさく繰返されるから厄介此の上なしだ。六七月頃になつて政界の變化動搖の兆が見える。

經濟界

經濟界は幸ひに執拗極まる陰氣が去つて著しく陽氣になり、大正九年から逐年不況又不況を續けて來た不景氣は愈今年が其のドン底になり諸物價は益々ガラ落ちになり米價はまた一段と安くなり續いて株も綿糸も生糸も何も彼も三月頃からそろ〳〵安くなつて十月頃まで續くが、十一月から、今度こそ掛値の無い好況の第一歩に入ることを忘れてはならぬ。蓋し、之れが本當の辰年の本能發揮であつて大正九年以來前後九ケ年の長い財界不況も今十ケ月の辛抱である。

農作物と風雨

次は本年の農作の中麥作は春の天候に害されるから、殘念だが一寸面白からず爲めに平年作よりは減收だ。之れに反して稻作は大豐作であるから農家諸君は豫め豐年祝の準備に着手すべきである。就中早稻と來たら素敵な當りで、中稻は少し落ちるが晩稻は之れ亦大當りである。それから大豆は可もなく不可もなく平年作であることを斷つて置く。

天候天災地變

本年は雨は少い。ただ四月中旬から六月中旬頃迄の二ケ月は例年より少し雨量が多い。そして困つたことは今年の夏は馬鹿に暑く、それに天氣が猛烈に續くから、避暑地と氷店は萬々歲だ。但し九月下旬から十一月中旬に亘つて、一時的の大風、大雨があり、殊に此の災厄は北日本にはなく南日本を見舞ふのであるから、中國、四國九州方面は今から水害の豫防に留意せねばならぬ。風は二三月の交に一寸厄介な大ものが來るが、農家の氣遣ふ九月頃は無事である。地震は中部日本に、火山の噴火は南と北に起きる。但し、大騷ぎする程度のものでないから安心して可なりである。

病氣が惡い

今年は病氣は非常に多い。就中著しく多いのは春の神經系統のもの夏は呼吸器筋肉に關するもの秋は消化器關係のもの冬は心臟腎臟等の內臟關係のものが多い。併し、好都合にも惡性の傳染病の流行はない。併し十二月初め頃から全國的に流行風がはやて來る。尤も先年のスペイン風のやうな恐ろしいものではない。社會方面では、思想方面は案外平穩で、さしたる勞働爭議は起らない。たゞ相變らず生活難のための自殺、痴情の自殺が多いと共に知識階級者の智能的犯罪が激增することを特筆せざるを得ない。

辰年の運命

次に辰年の運命の方は一歲、十三歲、廿五歲、三十七歲、四十九歲、六十一歲であるから氣の毒だが結構な年廻りではない、中にも男は一歲二十五歲四十九歲の人は注意が肝要、女は十三歲、三十七歲六十一歲の人は最も注意を要する、といつて年の運命とか運勢とかは非科學的であるから、餘り拘泥してはならない。たゞ以上の年廻りの人は生理的見地からも確に注意せねばならないのであることを承知されたい。

觀相學と今年の運命

觀相學から今年の運命を一般的に大別すると左の通りである。先づ今年は額が廣くて頭に至るに從つて狹いものと顏面大なるものゝ當り年であつて、此の種の人は試みれば必ず遂げ、行へば必ず成ると云ふやうに萬事得意の發展を遂げ得ることが出來る。

次に顏面小で丸形のものが有利の運命を展開する。從つて此の種の人相をした官吏でも軍人でも、學者でも、商人でも、否何人をも問はず得意の境に入り榮達、繁榮すること請合だ。

次に長圓形のものは至つて運が惡く萬事不如意で不結果で失敗勝ちであるから萬事控へ目にするがよい。

尚本年は、結婚上の順年だから不思議なほど緣談が順調に整ふ、特に官吏、政治家、實業家の家庭の子女の結婚には最も好適の年である。そして、一方、姙娠率が頗る多い年で子供が澤山出來るのは結構だがかうした方面に千種萬樣な悲喜劇が頻發し全國の各新聞紙上を賑はせる。

今年の豫言表

最後に、今年中に於ける各月の重大事件を豫言しやう。

一月 恐怖すべき智能的大犯罪事件發生す
二月 第一流人物死去す。
三月 大事業家の破產あり。
四月 政黨政派離合集散始まる
五月 新規の思想運動起る。
六月 內閣の運命に關する大問題起る。
七月 複雜なる外交問題起る。
八月 恐怖すべき交通事故を生ず。
九月 暴風雨あり。
十月 教育界に大問題起る。
十一月 財界好況に向ふ。
十二月 感冒全國的に流行す。

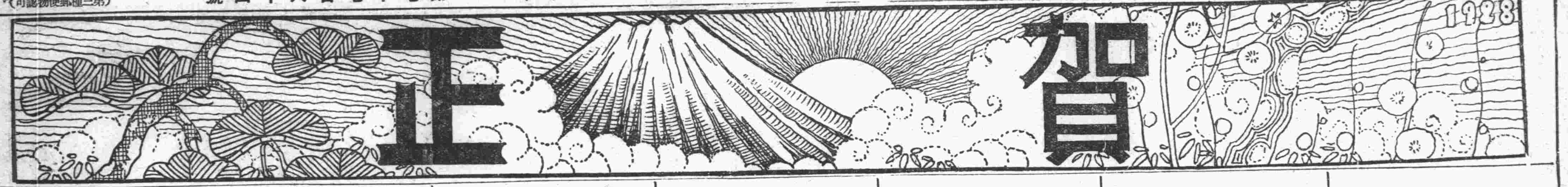
本店 東京市日本橋區駿河町七番地
大連市大山通
三越呉服店大連出張所
（電話代表）四一八一番
支店 大阪市東區高麗橋 京都市上京區室町二條上ル

輸出入 金物、電機並機器、自動車、ロープ、ベルト、鑛油 SKFベアリング、其他工場並に船舶用品 石材、ドロマイト、木材、セメント、煉瓦、其他建築材料 麥粉、砂糖、海產物其他食料品 洋酒、毛糸、蓄音器其他洋雜貨
土木建築
大連市山縣通二百十三番地
FC 福昌公司
電話（代表番號）七一七一番
振替貯金口座大連一〇六〇番
倉庫 一般倉庫業務 大連市寺內通二十九番地（電話六〇六三番）
保險 豐國火災、大阪海上火災 日本共立火災 セ、ノース、ブリチシ、エンド、マーカンタイル 各保險會社代理店

大連市紀伊町八番地
株式會社 金福鐵路公司
電話八五七二番

金銀兩替錢鈔取引
公債社債株式賣買
大連市山縣通五番地
株式會社 德泰公司
電話 代表 六一六四番 長距離 六一六七番 證券部 四五四五番
振替貯金大連八五六番
受信登錄（カブトク）

大連水曜會
東洋拓殖會社大連支店
朝鮮銀行大連支店
中國銀行大連支店
橫濱正金銀行大連支店
大連商業銀行
大連株式商品取引所
大連取引所信託株式會社
大連取引所錢鈔信託會社
滿洲銀行
交通銀行大連支店
正隆銀行



貿易錢鈔輸出入商
大連市大山通り五十八番地
永順洋行
電話(四五三三・七五四三・六四八三・六六九〇・五番番)

大連油脂工業株式會社
電話(代表)六一七一番

大連市監部通
東亞煙草株式會社
大連販賣所
電話長四二七三番

牛乳バター、クリーム販賣
大連市櫻町七十八番地
滿洲牧場
電話(六三四・七三五一・〇五一三・二四五四・七番番番)

關東廳職員購買組合指定
大連市磐城町
勝又洋服店
電話六七六一番

毛布、毛糸、靴、帽子　直輸入
大連市浪速町三丁目
一ノ瀬商會
電話(四四・七三二〇五番)
振替口座大連三八九

大連市三河町十七番地
戸畑鑄物株式會社
大連出張所
電話六四三八番

煖房、水道、衛生、工事材料
ボイラー、ラヂエーター、瓦斯管、及継手バルブコック類
鉛管、衛生陶器、水栓各種、其他附屬品類
パイプ工具類、附屬品在庫豐富
米國アメリカンラヂエーター會社
獨逸ナショナルラヂエーター會社　滿鮮代理店
大連市紀伊町五番地
關原彌太郎商店
電話長六八二二、三四三二番
(受信略號)タイレンセキハラ

大連市伊勢町十四番地
高橋峰次郎
電話(四六七・五五〇・〇七番)
本宅　神戸中山手通六丁目四十八番屋敷

石綿製品各種パッキング商
大連市榮町十五番地
杉元商店
電話三八八七番

輸出入商、石炭採堀、保險代理
株式會社南昌洋行大連支店
電話(八三・四七・八四・八四番)

造花裝飾材料商
大連市伊勢町十七番地
魚谷吉二郎商店
電話六八七七番

大連市磐城町二十番地
浪花鮓
電話五六五六　四七七二番
簡易食堂は設備を充分に致しました

大連市信濃町市場三十三番地
魚商　西園商店
電話(代表番號)五一五五番
住宅　西通り八十四番地
電話三六四〇番

大連市磐城町八九(西通り筋)
博多屋本店
電話四四五三番

滿洲辯護士會(いろは順)
五十村貞俊　電話六八一八番
石山憲一　電話三五八二番
伊藤久志　電話六三四一番
渡久山寛常　電話三七五五番
値賀連　電話四九一三番
大内成美　電話七三六九番
小野寶雄　電話六六四三番
岡野勇　電話三三四四番
河内山武雄　電話七六六七番
米岡規雄　電話五六九〇番
立川雲平　電話五〇三七番
高橋猪兎喜　電話三九七九番
玉置榮吉　電話三〇九三番
竹田菅雄　電話六八〇〇番
松谷竹三郎　電話八四五三番
古賀元吉　電話三九六三番
衛藤隅三
寺島由松　電話六二六二番
寺島[illegible]二　電話四九一三番
相川米太郎　電話五〇三七番
新野尾善九　電話六九一四番
齋藤[illegible]ノ郎　電話四七六五番
木原鐵之助　電話六〇五一番
湯淺唯二　電話三五一二番
澁田俊介　電話五三六五番
關根道一郎　電話三七九四番
五泉賢二　電話五三七九番

大連米穀同業組合員(いろは順)
同生厚精米所
選東精米所
大矢組株式會社
大島屋商店
渡邊商店
河又出張所
大連精糧株式會社
泰東精米所
田中商店
高山商店
泰宏洋行
名藤商店
中矢商店
桑野洋行
山喜商店
慶和徳
福永洋行
復茂東
甲信洋行
永順義
越後屋商店
寺田商會
協盛泰精米所
裕泰洋行
志摩洋行
順記精米所
城島商店
泉陽精米所
盛進商行

大連市伊勢町九四
川越齒科口腔科醫院
電話六五三五番

小間物　化粧品　半ゑり
浪速町の
夏川小間物店
電話五二二〇番

營業品目
銅鐵材、建業材料
諸工業機械、雜穀肥料
大連市監部通四九
株式會社大信洋行
大阪支店　大阪市南區安堂寺橋通三丁目
奉天支店　奉天小西關大街
銅鐵工場　大連市香取町六番地
製油工場　大連市千代出町十一番地
倉庫部　大連市東郷町二五番地

營業科目
一、電燈、電力の供給並此等に附帶する事業の經營
二、電氣鐵道、乘合自動車の經營並此等に附帶する事業の經營
三、電氣機械器具の販賣又は賃貸
四、當會社と同種事業に對する投資
五、所有土地建物の賃貸
資本金貳千五百萬圓
南滿洲電氣株式會社
專務取締役　横田多喜助
本店　大連市常盤橋中央ビルディング
支店　奉天支店、長春支店、安東支店、鞍山支店
出張所　連山關出張所、海城出張所

先驅＝滿蒙開發の楔子＝東洋貿易の
國際運輸株式會社

瓦斯
熱用
燈火用
動力用
工業熱用
副産物
瓦斯コークス
コールタール
硫酸アンモニア
瓦斯カーボン
資本金壹千萬圓
南滿洲瓦斯株式會社
專務取締役　富次素平
本社　大連市西通一一七番地
電話代表八一八一番
(重役庶務專用)八四七八番
支店　鞍山、奉天、安東、長春

謹賀新年

大連市浪速町三丁目
㊂ 丸三吳服店
電話（六五五四・八二〇五番）

大連市奥町七十七番地
大連醫師會
電話七四〇四番

大連市但馬町三四
深尾商店
尾舗健治郎
電話四二八二番

大連市岩代町（磐城町角）
寫眞器及材料
高柳洋行
電話六二二〇番

大連市監部通九十六
出光商會支店
電話（長）六一九一・六一九三・六四七一番
電略「イ」又ハ「イデ」

品目＝各種硝子板、厚鏡硝子切、パテ
旭硝子會社製品滿洲發賣元
日米板硝子會社製品特約店
大連市山縣通一四九
松島商店
電話代表五一八六番

藥種商
大連市吉野町一〇五
大正堂商店
電話（四九五二・七七〇一）番

若狹町八六番地
淸見屋
電話六八三九番

大連市八幡町二番地
株式會社 大連車夫合宿所
電話六〇二〇番

滿洲特產物輸出貿易商
大連市山縣通一〇一番地
㋚ 瓜谷長造商店
電話（長）四四二六・六九三六・七七六四番
發電略號（ウ）又（ウリ）

直輸入時計貴金屬
眼鏡寶石銀器類商
大連市浪速町
Ⓗ 平田洋行
電話四四三四・三六二九番
振替口座大連八〇番

文房具 運動具
大連市浪速町三丁目
天野滿書堂
電話四九九四番
振替（大連）六三番

和洋食料品商
大連市磐城町三十一番地
外海洋行
電話四二二九・六九〇〇番

大連市西通り
月星合資會社
電話四五七二番

大連市伊勢町五二（浪速町通）
三宅時計店
電話五四〇四番

大連市浪速町
㊎ まるきんや小間物店
電話五六一〇番

大連取引所錢鈔重要物產取引人
大連市監部通
日華特產株式會社
特產部 電話（六二四一・六八三四）番
錢鈔部 電話五一二一番

各種蒸汽罐放熱器
暖房衛生裝置
設計工事請負建築材料
一般藥品醫療理科器械
直輸入貿易商
大連市監部通
合資會社 島松商店
電話六一四一番

大連市磐城町
田中屋吳服店
電話四八五三番

和洋家具
世帶道具商
大連市浪速町一一〇番地
船塚商店
電話（四三七九・七五四三）番

第一タクシー
電話（六九六四・七四〇五）番

和洋紙 文具
大連市大山通り五一番地
光明洋行紙店
電話七〇五九番

大連市伊勢町五十一番地
榮商會
電話八三九〇番

大連市大山通り五十六番地
德海屋洋服店
電話四三四二番

山縣通
安全タクシー自動車
電話（八九六九・三〇三六）番

大連市大山通り三十二番地
體育堂
電話三七二三番

大連市信濃町一三五番地
木村屋本店
電話七〇八七番

各製紙會社特約店
大連市浪速町三丁目
內外洋紙
歐米文具
國產諸紙
卸商 ㊇ 鮎川洋行本店
電話六八七三番
振替大連四九七番
電話略號（〇ア）
支店 旅順市靑葉町四十八番地
電話二五四番
振替大連三二七六番

大連市浪速町三丁目
柳本吳服店
電話五八五八番

大連市伊勢町
山本運動具店
電話五九七九番

大連市大山通一四
藤川篤助商店
電話四七三九番

大連市西通り常盤橋ビルヂング
千山閣書店
電話四三六二番

淸腦新劑チエヤー本舗
防臭消毒劑エーシヨン發賣元
醫療吸入用酸素
藥種貿易商
大連市伊勢町八十五番地
Ⓚ 合資會社 松內楠陽堂
電話（長）四九八七・三四六六番
（振替口座大連）一五三九番
發電略號（エム）

大連市監部通二丁目百〇九番地
水道、衛生、暖房
溫水、設計、監督
工事請負並に建築
材料販賣
㊢ 高石商會
電話三五〇二番

センターストーブ滿洲總代理店
カメリヤベルト代理店
金物
機械
船具
大連市伊勢町
久保洋行
電話四三五三番

大連市浪速町一四七番地
日本賣藥株式會社大連支店
電話代表六一三九番

大連市信濃町市場前
藤井洋服店
電話三五二五番

米國チニイ會社
チニイ蓄音機 滿洲特約販賣
大連市伊勢町百〇六番地
田中蓄音機商店
電話七八四二番

大連市山縣通り一三五
濱崎商店
電話（五五一八・七二七六）番

山縣通
第二市場組合

大連市吉野町
村上寅造
電話四九三七番

大連市監部通電車停留所前
食道樂いろは
電話七七九六番

吉野町八五
おきな
電話八二四八番

大連飲食店
組合員一同
事務所 近江町一番地
電話三八四五番

大連市敷島町六二
歌舞伎座
電話（四五三八・六七四六）番

大連市若狹町
大連劇場
電話三九三八番

大連市浪速町一〇七
日活共營
浪速館
電話四六五四番

大連市岩代町三七
マキノ共營
寶館
電話三七五八番

大連市西廣場
帝キネ共營
演藝館
電話五三〇七番

大連市信濃町三三
松竹共營
帝國館
電話六九五四番

逢阪町遊廓組合員一同

賀正

(開原ノ一)

開原
滿洲電氣株式會社
電話(長)一二〇番

開原市場株式會社
電話(長)三二四番

開原驛
華商公議會
電話(長)貳拾壹番
會長 王執中
副會長 馬秀升

開拓長途汽車鐵道股份公司

日清製油株式會社開原出張所
電話(長)二　番

清酒、醤油其他飲料
前田洋行
前田實二
電話(長)三六六番

藥種賣藥、精米業、糧賣買
開原
村田保之
電話(長)三四九番 三五番

營業課目
電信電話機、發電機電用品一式、諸機械類一式、各種木材
鐵道用諸材料式、鐵道敷設請負、煖房器類並に取付工事請負
和登商行開原出張所
電話(長)三〇番

資本金貳百萬圓
拂込資本金八十七萬五千圓
開原取引所信託株式會社
電話(長)一三五番、二二五番、三三三番

横濱正金銀行開原支店
電話(長)二五番

朝鮮銀行開原支店
電話(長)一〇〇番

正隆銀行開原支店
電話(長)一一〇番

牛乳搾取、自園蔬菜
開原
山本牧場
電話(長)三二九番

西洋料理
開原驛前
カフエー大和
電話(長)二〇二番

上郡山、倉岡合名會社
開原屠獸場
電話(長)三〇一番

大豆 豆粕、豆油其他製油原料
海上火災保險、ＫＴＯセメント防水劑
合資會社
坂井洋行
電話(長)三八番

藥種貿易
大吉堂藥房
電話(長)八三番

特産物商
開原公司
洪淳亨
電話長參八參番

川畑坦開原出張所
荒木太郎
電話(長)二八〇番

食道樂
ニコニコ
電話(長)二六五番

高等料理
松鶴
電話(長)二三三番

高等旅館
二葉旅館
電話(長)二二八番

高等料理
二葉
電話二八番

食道樂
開原
千島
電話(長)二七四番

糧雜穀、精米業
開原
能地精米所
電話(長)三〇六番

開原商品證券信託株式會社
電話(長)四九番

開原交易信託株式會社
電話(長)一〇番 一六〇番

特産物商
豐泰洋行
電話(長)五二番 二三〇番 三二〇番

特産物商
増谷商店
電話(長)四七番 八九番

石炭商
利生洋行
電話(長)三五九番

石炭商
松昌公司
電話(長)一二四番

經理
帝國火災保險公司
友信洋行
電話(長)三八番

滿洲日報社開原支局
支局長
佐竹令信
電話(長)三八番

滿洲日報取次販賣店
森永商會
森永傳八
電話(長)一九七番

同　取次販賣店
小寺洋行內
川瀨昌之助
電話(長)一三三番

新年童話 龍の王子と妃

白井史郎
井上猛夫畫

一

むかし、蒙古に一人の王樣がいらつしやいましたが、どういふわけかお世つぎのお子樣がお有りになりませんでした。ある日のことお氣に入りの大臣と街を散歩していらつしやると、一匹の龍が五六匹の子をつれてゐるのを御覽になりました。王樣は

「おゝ、神樣、あなたはこの生き物にこのやうに澤山の子供をお授けになつたのですか。どうぞ、この龍の子を一匹お減らしになつて私に子供を一人お授け下さい」とおなげきになりました。

それから、だいぶ日が經ちました。すると、ある晩お妃が大病におかゝりになりました。で、あちこちに、人を遣はして、よい看護婦をお探しになりました。看護婦を搜し出すことはそんなにむづかしい事ではありませんでした。しかし、なぜか看護婦は病人の側に寄ると、すぐ死んでしまふのでした。すぐさま他の看護婦が呼ばれました。けれども、この人もお褥に近づくと、すぐに死んでしまふのでした。誰でもお妃のお側近くへ行く者は、忽ち病氣となり、一度病らへば死ぬといふ不思議な病氣にかゝるのでした。

さて、この御殿に年とつた女官が一人ゐましたが、この女官には繼娘が一人あつて、しかも憎んでゐましたので、その事を聞くと、女官はさつそく御前に罷り出で王樣に言上いたしました。

「陛下、私には看護の上手な娘がございます、娘が參りますことをお許し下されば、お妃樣の御病氣は御全快遊ばされるかも知れません」

そこで王樣は、さつそくその娘をお召しになりました、けれども娘は、看護の事は全く知りませんでしたので、どうしようかと父親に相談いたしましたすると父親は

「心配しないがいゝ、これから御殿にあがる途中で、お母樣のお墓にお詣りをしてよく跪いてお願ひをするのだ。神樣は、いつでも困つてゐる人達は救つて下さるからね、お願ひをしたら心配しないで眞直に御殿におあがり」

と云ひました。

そこで娘は馬車に乘つて、死んだ母親のお墓へまゐつて、悲しさうに涙をこぼしながら、神樣にお助けを願つて居りますと、お墓の中から、

「おまへは、王樣の前に出たならば、藥罐に一杯牛乳をいたゞきなさい。さうすると王樣のお妃のお側へ近寄つても危ふいことはありません」

と云ふ聲が聞えました。で、娘はまた馬車に乘つて、やがて御殿に着きました。そして牛乳を藥罐に一杯下さいと賴んで、それを持つてお妃の御病室に入りました。間もなく、娘はお妃が王子をお生みになつたけれども、その王子は龍の姿をしていらつしやるといふことを知らせました。

王樣は特別にお喜びにもなりませんでしたが、兎も角も今は、お世嗣ぎの御子樣がお出來になつたことですから、御滿足なさいました。そして王子の御誕生をお祝ひするために澤山の羊が屠られたり、幾百人かの奴隷が自由の身とされたりいたしました。

そのうち若い龍の王子に御教育をさづける時が來ました。そしてその爲に幾人もの學者が召出されました。ところが、まだお教へしないうちに、その學者達が引續いてこの龍の王子に殺されてしまふのでした。さあ大變！この樣子では忽ち御領土内に學者が一人もゐなくなるかも知れませんでした、繼母の女官はこれを耳にすると、また王樣の御前に出ました。そして、

「陛下。龍の御子がお生れのときお手傳ひいたしました娘は、必とお氣に召した御教育をいたすことが出來ます」と申しあげました。

二

そこで王樣はまた、その娘に參るやうにとお命じになりました。

娘は御殿にまゐる前に、今度も先づ母親のお墓詣りをいたしました。そして神樣に、自分をお助け下さるやうに、またお守り下さるやうにと心から祈つてをりました。するとまた、お墓の中から母親の手が出て、かういひながら一本の杖を渡しました。

「この杖をお持ち、そして、もし龍がお前を襲つて來たら、この杖を見せるのだ。きつと龍はお前に害をあたへないだらう」

其處で娘は、その杖を貰つて御殿に出かけました。そして龍の王子にお教へするために、王子のお側に近づいて行きますと、龍の王子は、すぐさま娘に喰つてかゝりました。しかし、娘が素早く例の魔法の杖を出して見せると、王子は忽ち身を退きました。

暫くすると、御教育申す心づくしのほどが充分滿足に現れて來ましたから、王樣も大層およろこびになり、御褒美に澤山のお金をやつて、娘を家にお歸しになりました。

やがて、龍の王子は、お妃を迎へるお年頃になられました。そこで王樣は立派な花嫁をお見つけになつて、王子と婚禮の式をあげさせました。ところが、その御婚禮の夜に、龍の王子は花嫁を食べてしまひました。そこで第二の花嫁を探して來て結婚させますと、その夜もまた、その花嫁を食べてしまひました。

すると例の女官は、また王樣の御前に出てから申しあげました。

「陛下、あの娘ならきつと王子樣のよい花嫁となる事が出來るでございませう」

王樣は、これをお聞きになつて「成程あの娘なら食ひ殺される心配はあるまい」と、大層およろこびになりました。そして、直に娘を御殿へお召し出しになりました。

娘は御殿にまゐる途中でまた母親のお墓に參詣しましたが、つひ悲しくなつて泣きだしました、するとまたお墓の中からなつかしい母親の聲で、

「少しも心配することはありませんよ、山あらしの皮を剝いで面をこしらへなさい。御殿へ行くと龍の王子はおまへを傷つけやうとするでせうが、この山あらしの毛の蕀が王子を刺すでせう。その時王子が「面をお取り」と云ふに違ひありません、そしたら、お前は王子樣がお召物をお脱ぎになつたら私も面をとりませうとおつしやい。そして龍の王子が着物を脱がれたら、それを取つて火の中へ投げ入れて燒き捨てゝおしまひ。かうすると龍の王子は、もう龍の姿ではなくなつて、ほんとの人間になります」と教へてくれました。

やがて娘は御殿にあがりました。そして王子の御部屋に案内されてこゝで結婚式を擧げました。やがて王子は、二人きりになると、直に娘に襲ひかゝりました。けれども娘は素早く山あらしの皮で拵へた面をかぶつたので、その蕀が邪魔になつて思ふやうに娘に近づくことが出來ません。

「その面を取つておくれ」と王子はいら〳〵しながら云ひました、

「殿下がもしお召物をお脱ぎにならなかつたら、私もこれを除りませう」と娘は、あるだけの勇氣を出して答へました。

すると王子は、少しもためらはずに着物をぬがれました。だんだんぬいで、一番おしまひの着物が王子の御體から離れると娘はこれを掻き集めてみんな火の中に投げ込みました。するとまあ、あの恐ろしい龍のかはりに、目のさめるやうな美しい青年に王子はなられました。

三

その翌朝、一人の奴隷が王子のお部屋に樣子を見に參りますと、中では新婚の二人が健かで、むつまじく語り合つてゐるのを見ましたから、奴隷はすぐこの由を王樣にお知らせ致しましたので、王樣も大層およろこびになつて、早速盛んな宴會を催して、二人の結婚をお祝ひになりました。そして魔法の呪ひから王子をお救ひしたと云ふので、娘は、御殿や國中の人々から大そう敬はれる身になりました。

その後暫くして王樣は、隣國の王と戰爭を始められました。そして國王自身戰場にお出になるお考へでしたが、王子は父君に代つて自分が戰場に行きたいとお申し出でになりました。そして、どうしても肯入れませんで、父王も仕方なくお許しになりました。

丁度王子が御出陣中のこと、あの心のよくない女官は、自分には繼娘になる王子のお妃をどうにかしてなき者にしようと、工夫をこらしました。

そしてある日王子の名で、王樣に宛て一本の手紙を書いて居ました。この手紙が王樣のお手に屆いた時、王子のお妃も丁度そのお側にをりましたので、その手紙の趣きをお知りになりました。そして悲しさうに、

「最早、王子殿下が、私をお愛しにならないのを知つたのですから私はこの御殿からお暇申すよりほかにいたし方ございません」とおつしやいました。

王樣は、これは確に隱れた敵の仕業に違ひないと思ふと仰せになつて、いろ〳〵お妃をおなだめ申さうとお努めになりましたが、お妃の心を飜すことは出來ませんでした。

お妃は、

「私はお暇申しませう。きつと王子殿下は私よりも美しいお方にお會ひになつたのでございませう。さうでなければ、このやうな手紙はお書きにはなりませんでせう」

から仰せになつて、涙ながら御殿をお立出でになりました。そして、なつかしい母親のお墓の傍に來て、そこにさゝやかな庵をこしらへ一人さびしく日を暮してゐました。

一方父王の代理で出陣した王子は、しばしば隣國の王樣と戰つて遂にこれを降伏させ、何年振りかで無事に本國に凱旋なさいました。

王子は、御殿に歸られると、お妃の姿が見えませんから、父の王樣に、

「私の妃は何處に居りますか」

と、早速おたづねになりました。すると王樣は、妃は王子から來た手紙が元で、御殿を立ち退いたといふ話をしましたので、王子は落膽して直に妃の行方を探しに出掛けようと決心いたしました。

そこで、愛馬にまたがつて單身御殿を出られました。そして、山を越えたり、谷を通つたり、野原を横ぎつたりして、やがてのことお妃の暮してゐる街に着きました。そして通りすがりの人に尋ねて漸く、この町はづれの墓地に自分のお妃が見るかげもない貧しい姿をして、母親の墓守をしてるのを發見しました、

「おゝ、そなたは妃ではないか。私はお前のたつた一人の夫の黒目の龍だ」とおつしやいました。そしてお互ひに無事の再會を喜びました。

やがて王子はお妃をつれて御殿に歸られましたが、一體誰がこんなに妃を苦めたのかと嚴しくお取調べになりました。するとそれは妃の繼母になる女官の仕業だといふことがすぐに解りました。間もなく女官は王子の御前に引出されました。王子は「百頭の驢馬でも、百本の棒でも、どちらでも好きな方を申せ」と言ひ渡されました。すると女官は「百本の棒は私の敵を防ぐために、また百頭の驢馬は私自身が頂きたう存じます」と答へました。そこで王子は、その女官の身體を百頭の驢馬の尾に繋がせて、百本の棒で驢馬の腹を叩かせましたので、驢馬が荒れ狂つてその女官の身體を八裂きにしてしまひました。

再會した王子とお妃とは、また新しく盛大な結婚式をお擧げになりました。そして、その後は平和に、誰からも邪魔されずに、お暮しになりました（おしまひ）

謹賀新年

- 鐵嶺領事 田中莊太郎
- 鐵嶺地方事務所長 藻寄準次郎
- 鐵嶺滿鐵醫院長 小野健次
- 朝鮮銀行鐵嶺支店長 萩尾開造
- 鐵嶺商業會議所會頭 權太親吉
- 鐵嶺居留民會長 紀藤義也
- 新臺子居住民會長 根上藤五郎
- 下山恭次郎 電話四七番
- 鐵嶺城內 日華銀行 電話八八番
- 鐵嶺松島町 中瀨呉服店 電話一四〇番
- 鐵嶺松島町 鹽田洋行 電話五八番
- 鐵嶺ホテル 電話二九番
- 鐵嶺電燈局 電話二五番
- 鐵嶺 大矢組株式會社 電話一一三番 二七〇番 支店 大連、旅順、海城 出張所 公主嶺、遼陽
- 平頂堡 永田平介
- 保線區長 磯谷新吉
- 機關區長 岩永唯一
- 鐵嶺 石田組 電話二一七番
- 地方委員 橋本勝藏 電話八六番
- 民會副會長 西尾信 電話一一六番
- 地方委員 德本延藏 電話二七六番
- 地方委員 河村常次郎 電話一三三番
- 地方委員 横尾正雄
- 鐵嶺 田中組 電話一一一番
- 鐵嶺 竹井安平 電話二六四番
- 鐵嶺 高橋藥房 電話五五
- 郵便局長 辻五郎
- 電燈局主任 宗石昂 電話二八六
- 鐵嶺 能地精米所 電話一五二
- 昌和洋行 山田桂藏 電話二〇五
- 松岡洋行 電話七四
- 地方委員 小林朝遙 電話一〇一
- 民會議員 岡藤造 電話二八一
- 第二區長 加藤捨二郎 電話二七七
- 吉見洋行 電話六八
- 商業會議所書記長 上田武弘
- 民會議員 久米谷忠太 電話四一
- 山本呉服店 電話二〇六
- 民會議員 小池辰次郎 電話一九一
- 第一區長 小山仙次 電話一〇一
- 共進商會 電話五
- 北五條通 十字堂商店 電話三
- 鐵嶺北四條通二丁目 御料理 會席 あさひ 電話八二番
- 鐵嶺櫻町 高等御料理 萬安 電話四九番
- 鐵嶺検番株式會社
- 鐵嶺驛前 指定御旅館 松花ホテル 電話一一〇番
- 鐵嶺驛長 青柳亮
- 民會議員 佐々木陽男 電話三五番
- 瀋陽商行 佐々木甚三 電話二八七番
- 迫田釆之助 電話六一番
- 鐵嶺小學校長 白髮隆孫
- 廣岡勝三郎 電話一三八番
- 朝鮮銀行鐵嶺支店 望月明吉
- 千田宗次郎 電話八五番
- 御料理 日東館 電話一九二番
- 御料理 幸樓 電話四〇番
- 御料理 由良之助 電話一五六番
- 滿日支局長 末廣榮三

謹賀新年

大連市淡路町
三好野
電話三八五八番

大連市山縣通リ六十三番地
徽章メダル貴金工業
金華號本店
電話七九六四番

大連市磐城町八番地
大分臺灣滿州物產紹介
東亞物產館
電話七〇三七番

大連市山縣通リ
ラジオ電氣機械販賣
內藤商會
電話四二五七番

大連市淡路町
菱川大昌堂藥局
電話七八九三番

大連市磐城町六〇
藥種商
森藥舖
電話五〇〇九番
振替大連七三五番

森永製菓會社專屬特約店
大連市信濃町一〇八番地
千原料問屋 類一式
菊水堂
店主 若狹善陸
電話四六八九番
日本製飴會社特約店

大連市信濃町六一
御旅館
鎭西館
電話四四八二番

大連市磐城町
滿鐵、關東廳御指定
磐城ホテル
電話(代表)七一六一番

大連市吉野町(監部通角)
春田旅館
電話(代表)五一一四番

御菓子司

大連市浪速町三丁目
花乃屋本店
電話四九五九・七二〇七番

同 伊勢町一二〇
花乃屋分舖
電話三四五七番

大連市山縣通一五二(市場入口角)
花乃屋支店
電話六六九八番

大連木材組合一同

大連市常盤橋
大連タクシー
代表者 葛和善雄
營業部長 海南宇門
本店 電話三五八七六七八四番
老虎灘出張所 聖德街出張所 電話四五三二一五番
旅順驛前營業所 電話九三五二三番

銘酒 白鹿
ユニオンビール
大連市紀伊町二十二番地
合資會社 辰馬商會
電話六五八三八四二三番

大連市吉野町六七番地
株式會社 大連株式信託會社
株式會社 第二大連株式信託會社
電話八〇八五番

大連市愛宕町(正金裏)
松本洋服店
電話三九三五番

大連市西通二丁目
室內裝飾 和洋家具 窓枠建具 製造販賣
ヤマトヤ商店
松浦常一
竹山眞作
電話六八三一番

電氣諸機械器具材料品販賣
電氣工事設計監督修繕請負
大連市伊勢町五一番地浪速町角
合資會社 佐藤電氣商會
電話(長)六七〇三六九七七番

大連市岩代町
夏木瀨印刷所
電話六三三七番

大連市吉野町 電話五三九九番
大正タクシー
主 深津澄

大連市若狹町四十四番地
米穀 木炭業
共進洋行
電話三八一一番

朝日ポートワインIA印果實蜜發賣元
和洋食料雜貨商
朝日屋
吉田權三
電話三九一一番
大連市越後町但馬町角

時計及貴金屬寶石類御商
大連市浪速町一五一
眞聲堂
電話七六五九番
電略(シ)又ハ(コ)

浪速町
今中洋行
電話五四〇九番

大連市信濃町百二十九番地
丸仲運送店
電話(長)七五三四〇六一三番
振替口座大連七一七番

大連市伊勢町
毛絲商
佐井田洋行
電話六二〇八番

大連市伊勢町
井町大連製肉所
電話七二〇八番
同 支店
電話四〇二三番

大連市西通一四番地
大盛うどんそば
若松屋本店
電話三三〇九番
大連市伊勢町四〇番地
麵類御料理仕辨當
若松屋第一支店
電話三二六四番

大連市伊勢町
雨蓮社
藤田半七
電話六五五八番

大連市濱町
滿洲船渠株式會社
電話(代表)七一九五番

大連市濱町三番地
同 大連工場
電話(代表)七一九五番

大連市大棧橋甲埠頭
同 埠頭出張員詰所
電話六三〇三番

旅順市東鄉町
同 旅順工場
電話四番 一八〇番 一八二番

火災 海上 運送
保險代理店
大連市山縣通
三井物產株式會社大連支店
電話(代表番號)七一〇一番

東京市麴町區八重洲町一丁目一番地
大連中央土地株式會社本店

大連市若狹町三番地
株式會社 大連中央土地 大連支店
電話三四五一番 八三二〇番

大連市山縣通五十四番地
三菱商事株式會社大連支店
電話八一五一番

滿洲日報
元旦號 其の四

葉公の見た龍

生方敏郎

福太郎「御隱居さん。今日は
幸兵衛「何だ。又來たのかえ。福さん。年始かの。
福太郎「あはははは。御年始には今朝程一度上りましたよ、御隱居さん、もう御忘れですか。
幸兵衛「冗談をお云ひでない、私が何で忘れるものか、私の事を何[illegible]
幸兵衛「あんまりいゝ方でもないな。お叩頭の相手をしたり屠蘇を出したり可成り厄介だからな。ところで福さん。今度は何の用で來たのだね。
福太郎「何の用かはちと恐れ入りましたね。用がなければ引き退がれといふ事なのですか。世間によくある事ですよ。會などで始めて逢つた人が名刺を下すつて、にこにこしながら、私は此處に勤めて居りますから彼地へお出かけの御序でも御座いましたらば、どうぞ御立寄り下さい、などと仰有られる。その言葉を眞に受けて、こちらも實は相應に忙しい時間を割いて其の會社をお訪ねすると、早速應接間へ通されますが、本人は仲々顏を見せません。こちらは待くたびれて嫌になつてしまひ、もう歸らうかしらと思ふ時分になつて漸く扉を開けてにこ〳〵しながら其の男が入つて來て「やあ、お待たせしました」と云ふので、こちらも再びいゝ氣持ちになり打解けて何か話し始めると、急に向ふは六ケしい顏つきに變つて「時に御用件は何で御座いますか」と切込んで來ます。
幸兵衛「成る程、忙しい時に、暇人に訪問されると隨分迷惑する奴さ。
福太郎「それは先方が忙しいのは先方の勝手です。私の方で知つた事ではありません。訪問せよとい[illegible]
幸兵衛「そんな時には、先づ怒るよりも氣轉を利かせて、實は途中で糞子が出たくなつたから便所を拜借にあがつたのです、とでもいふがいゝ。金を貸せと聞いたら氣絕するやうな男でも、便所を貸せと云へば安心して「さあさあ、御ゆつくり、何時までゞも御使ひなさい」と云ふにきまつて居る。
福太郎「そんな事を云はれたとて何時まで臭い所に入つて居られるものですか。
幸兵衛「正直に便所を拜借しないでもいゝさ。只さう云つて氣の小さい男を安心させてやるのも、一つの功德と云ふものだ。
福太郎「さうですか。では、御隱居さん。便所を拜借しませうかね
幸兵衛「なに。私の處のか。
福太郎「でも、たつた今御隱居さんは私に何の用事で來たかと仰有たぢやありませんか。
幸兵衛「便所なら何時でも御用だてするが、私の處の便所は今日汲んだばかりではねるから、そのつもりで用心しなさい。
福太郎「えゝ、ほんとうに拜借するつもりぢやあないんですよ。實は他の用事で參つたんです。
幸兵衛「元日早々金借りに來たのかえ。感心な心がけだ。有りさへすれば何萬圓でも用だてゝやるが實は昨日みんな出し拂つてしまつて、金庫には只今一文もない。
福太郎「そんな事は仰有らないで[illegible]つて居ます。金庫なんか持つ[illegible]入らつしやらない癖に。
幸兵衛「銀行に有るやうなこけおどしの金庫は持たないが、秘密[illegible]れたまゝで、時々金が机の抽[illegible]にある事もある。狀袋は私の[illegible]抽出しは私の金庫だ。
福太郎「御隱居さん。柄にもない[illegible]な金庫の御自慢なんか、なさ[illegible]もいゝですよ、誰もお宅へ[illegible]借りに來る物好きはありませ[illegible]ね。
幸兵衛「でも、泥棒なら來るだらう。
福太郎「泥棒でも餘程氣の變な泥[illegible]なければ、先づ御隱居さんの[illegible]は入らないでせう。そりや[illegible]見たところで金のある家とな[illegible]は判りますよ。
幸兵衛「福さんも扨ては前に泥棒[illegible]驗があるとみえるな。
福太郎「御冗談を仰有いまし。人[illegible]の惡い。知らない人はほんと[illegible]と思ひますよ。
幸兵衛「知つて居る人は又かと思[illegible]う。だが如何して判るね。
福太郎「そりやあ判りますさ。御[illegible]さんの家のやうに、軒燈が一[illegible]に何度も消えたり點いたり[illegible]うな家は、どうせ金がない[illegible]て居まさあ。
幸兵衛「これこれ、元日早々貧乏臭い話は止して吳れ。それより何だね君の借りたいといふものは。
福太郎「御隱居さんにも困るなあ元日早々私の顏をみると物を借りに來たものと決めて居るんだから御隱居さん。私は今日は物を聞きに參つたのですよ。借りに來たのぢやありませんよ。
幸兵衛「では智慧を借りに來たのだらう。やつぱり同じ事ぢやあないか。いや同じどころではない。智慧を借りに來る奴は金を借りに來る奴よりも質が惡い。
福太郎「踏み倒された經驗でも御座いますかね。
幸兵衛「勿論の事だ。人は金を借りた場合には、利息も拂へば期限も決める。踏み倒す奴も稀にはあるが、大抵は返して來る。然るに智慧を貸した場合には、利息も拂はないし、期限も定めない。みんながみんな踏み倒すに定まつて居る。中には有難いとすら思はない奴がある。だから金は貸すべし智慧は貸す可からずだ。
福太郎「では何ですか。物を聞いても御隱居さんは敎へては下さいませんでせうか。
幸兵衛「左うとも限らない。只で物を敎へるといふ事は、智慧を寄附するといふ事だ。月謝を取つて物を敎へる事は智慧を賣る事だ。だが、福さん、人間とは妙なもので物を賣るよりも與れる方が樂みなものだよ。智惠だつて同じ事だから月給を取つて敎師をするよりも、只人に物を敎る方が氣持がいゝ。だから人に道を聞いて御覽、大抵の人が叮嚀に敎へて吳れるから
福太郎「アメリカでは、おまわりさんに道を聞いた後で、五錢か十錢位必ず御禮する習慣ださうですね。
幸兵衛「さうなくてはならぬところだ、只で道を敎へて貰ふのは、只で智惠を貰ふ事だ。謂はゞ智惠の乞食だ。福さん、お前さんなんかは年中私のところから智惠を乞食して居るんだよ。
福太郎「どうも濟みませんね。此れからは、月謝を拂ふ事に致しませうか。
幸兵衛「貰つてもいゝ。必ずしもお禮に及ばない。他ならぬ福さんの事だから智惠と澁茶くらゐは此ちらから寄附する事にしやうよ。「受くるより與ふるは幸なり」で智慧をあたへてメートルをあげて居るのは、滿更惡い氣持ちのものでもないさ。
福太郎「では、そろそろ、智慧を頂かして貰ふ事に致しませうか。
幸兵衛「よろしい。どんな事を聞きたいかの。
福太郎「ほかでもありませんが、御隱居さん、今年は辰の年で御座いますね。
幸兵衛「左樣、辰の年だね
福太郎「だが、彼の龍と云ふものは、無論想像の動物でせうね。
幸兵衛「その通り。何處の國でも色々珍しい想像の動植物がたくさんあるが、殊に昔の支那人は豐富にそれを持つて居た。龍も其の一つだ。麒麟だの鳳凰だのと同じ樣に、龍は芽出たい動物だ。動物といふより寧ろ靈物だ。神靈なものだ。八大龍王など〻云つて、龍は雨を降らす力を持つて居る。又龍は志を得ざる時は、蛟となつて小さな池に潛む事もあるが、一度雲を得れば龍となつて昇天すると云はれて居る。
福太郎「成程、素晴らしいものですね。十二支の中では龍が一番偉さうですね。
幸兵衛「さうとも、外から見て偉さうなばかりでなく、龍は自分でも偉がりたがる癖がある。そこで繪などにも双龍寶を爭ふところだとか、龍虎の爭ひだとかいふやうなのが屢々描いてある。勇ましいと云へば勇ましいが、どうも喧嘩が好きな奴だ。
福太郎「兎も角、恐ろしい面構へをして居ますね。
幸兵衛「先づ人間で云つたら、獨逸のビスマルクはブルドツクに似て居るといふし、佛蘭西のクレマンソウは虎に似て居ると云ふが、イタリーのムツソリニは何に似て居るかな。それから日本の山本權兵衛の面構へは一寸龍に似て居るところがある。豪傑と云ふ奴はいづれも恐ろしい面構へをして居るよ。
福太郎「だが、豪傑の顏つきは、女の子には好かれませんでせうね
幸兵衛「苟くも英雄豪傑となれば其の考へるところは常に天下國家だ。婦女子が自分を如何に思ふかそんな事はてんで問題にはして居ない。
福太郎「嫌な商賣ですなあ。」
幸兵衛「何が。
福太郎「今云つた英雄豪傑とか云ふ奴ですよ。
幸兵衛「なに、英雄豪傑がいやな商賣だなぞとは怪しからん。そして福さん如何いふ點が嫌かね。
福太郎「でも婦女子を問題にしないで、天下國家だなんて騷ぎまわつて居るのは殺風景で餘り感心しませんね。
幸兵衛「福さんが感心しないでも世間に感心する人は幾らもある。矢張英雄は人間界の最高峰だ。龍は其の英雄と同じく自然界の威力をシンボライズしたものだ。それであゝ云ふ恐い顏をして居るのだ
福太郎「龍でも笑ふ事がありませうか。
幸兵衛「さうさな。龍の笑顏と云ふものは、遂ぞ見た事がない。多分笑つても似合ないからだらう。さう〴〵それに就いて面白い話がある。
福太郎「へえどんなお話です。それは。
幸兵衛「昔支那の葉公といふ人が世間で龍の話をするのを聞いて話だけでは滿足出來ない。どうかして實物の龍が見たいと考へた。そして常日頃から「龍が見たい、龍が見たい」と云つて居た。
福太郎「へえ、成程。
幸兵衛「ところが或日の事、大夕立がして來た。葉公はこんな時こそ龍が見られさうなものだと思つて、窓から外を見て居ると、俄に空から一團の黑雲が降りて來たかと思ふ、と庭に何か居る。よくみると龍だ。葉公はそれを見ると非常に恐れ、腰をぬかして了つたと云ふのだ。餘程恐ろしい顏をして居たものとみえる。
福太郎「全體、そんなものを見たがると云ふのはよろしくありませんね。
福太郎「だが恐いもの見たさといふのは其處のところだらう。人間の弱點だのう。
幸兵衛「すると如何しても十二支の中では龍が一番強い譯ですね。
幸兵衛「昔の繪本には、よく十二支が戰爭をするところを書いた軍記お伽話があるが、龍と虎は常に味方で、双方別れて敵になる事がないから、どちらが勝とも書いて無い。然し誰も動物園の虎を見て葉公が龍を見た時のやうに腰を拔かす者が無い所をみると、此れは虎の方が左程強くないかも知れないぞ。
福太郎「でも、御隱居さん。動物園の虎は檻に入つて居ますからね。あれがもし野放しにされて居たものなら、見る人は腰を拔かしませうよ。
幸兵衛「あはははは、如何にも左うだつたな。龍もあゝして檻に入れて置いたらさうまで人が恐ろしがるまい。人間も其處は同じ事だ。檻に入れられたが最後、もう終しまひだ。
福太郎「さうなると、人間の動物園が出來ますね。
幸兵衛「さうだ、世間を見渡すとことゞく人間の動物園だ。目にこそ見えないが、みんなそれ〴〵檻に入れられて居るんだ。官吏や軍人は勿論だ。教育家も銀行員もさうだらう。工場で働いて居るプロレタリヤが檻の中に追込まれた狼だとすれば、金庫の番人をして居るブルヂョアは、矢張檻につながれて居る狐見たいなものだ。此れは男ばかりの事ではない。女は又家庭といふ檻の中につながれて居る。そして其の中から一歩も出る事が出來ない。だから大臣を虎だと假定すれば大將は熊だ。金持男爵が象だとすれば無政府主義は駱駝だ。マルクス主義が豹だとすれば左傾團體はブルドックだ。強く見えても彼等はみんな檻の中に居る。其處へゆくと龍ばかりは偉いものだ。龍は檻の中に入れられないからな。龍は一度時を得れば雲を呼び昇天して雨を降らせる天地を清涼に洗ひ去るの神通力を持つて居る。
福太郎「人間に譬へたら、誰なんかゞ龍でせうね。
幸兵衛「龍の如く天地を驅け廻る自由を持つものは、恐らくこの私のやうな浪人者の他にはあるまい龍は私ぢや。あはははは……。
福太郎「御自慢ばかり、相變らず……あはははは……。

新年落語

珍案 お酒の放送

（上）

月の家鏡丸演　（村田欣二畫）

初春のことでございますから、成べくお陽氣なお話を一席申し上げます。物も言ひようで種々になるもので、百藥の長とか憂ひを掃ふ玉箒、なぞと申しますとお酒も大層な德のある物に聞えますが、これを氣狂ひ水と來ると餘り結構な物ではないように思はれます。斯うなると何方が本當だか判りませんが、米國では法律でお酒を禁じてあるとか申しますし、我が國でも未丁年の者には飲ませてはならない掟になつてゐる、併しまあ是も程に用ゐて居りましたならば結構な物でございませう。すべて物には度を過すといふ害がありますが、さて其の程といふものが仲々難かしいもので、中には勸め上手といふのがありまして、さアお一つ、まアさう仰しやらずに、何ですねえ、宜いぢやアありませんか、デハどうかこれ丈お受け下さい。イヨウお美事〳〵、さあ最う一つ位宜しいでせう、駈け付け三杯ツてえ事があります、なぞ、言つて勸め上手な人があります。一杯にして人酒を飲み、二杯にして酒酒を呑み、三杯にして酒人を呑むとか申しますが、酒に呑まれるようになつてはお終ひでございます。それが爲めに醉ひ方も鬪武六を通り越して、グデン〳〵の醉泥醉といふ事になりますと、和に近所迷惑、先づ碌な事はありませんな。まあこれは程が宜しいようでございます。○「よわつたなア、どうも、昔の人は旨い事を言つたよ。後悔先に立たずと言ふが、今更悔んだ所で追つ付かない。どうして俺は斯う酒の上が惡いかなア、止さうよさうと思ひながら、止められないのが身の因果、併しさうは言ふ物の酒といふ奴は全く惡くないからな、俺も一度は懲り〳〵して斷然禁酒しようと思つたが、猶且未練があつてこの始末だ、何處へ行くにも酒を提げて歩くなぞは、自分ながら駄目だね。尤も種々考へて酒德利ぢやア具合が惡いから、斯うして藥の瓶の中へ酒を入れて、ハンケチで包んで歩くなぞは我ながら感心したね、どうも妙案だて、斯うして透して見るといゝ色だよ、こんな水を飲んだ爲めに、氣が變つて巫山戲たくなるとは、そも〳〵物の不思議と言ふもので、それがためにたうとう若旦那の許へも行かれなくなつたのには驚いたね。何しろ爲になる大切なお得意樣だからなア、何とかお詫は叶はないものか、兎に角、今日は一つ度胸を据ゑて行つて見る事にしよう。何となくどうも極まりが惡いなア、……エ、今日は、エ、今日は……ごめん下さい、ごめーん」若旦那「誰だえ、變な聲を出して泣いてるのは」○「エヘ、泣いてるつてえ譯ぢやございませんので、私でございますよ。手前で」若「オヤツ、誰かと思つたら茶良助ぢやないか。どうしたんだ」茶「どうも若旦那、何共先夜は申し譯がございません、この通りでございます、最う低頭平身、先非後悔、只々恐れ入りまして、厚皮しくもお詫に出ましたような次第本來ならばどの面下げて上れた義理ではございませんが、あれにはその、種々と曰く因緣故事來歷がございまして、まアさういつたような事情から、何が何したもんですから、たうとう何して終つたと言ふような譯で、イヤハヤどうも到底就中……』若「何を譯の判らない事を言つてゐるんだ、それがどうしたと言ふんだよ」茶「イエ最う御立腹は重々御尤もでございまして、茶良助、今度こそは正眞正明うそ偽りも掛引もない所、本當に禁酒を致しました。どうか一つ御勘辨を願ひます次第で」若「フーンそれでは斷然酒を止めるから勘辨して貰ひたい、と言ふのだね』茶「正に其の通りなんで』若「本當かい」茶「本當にも何にも、正に判然と立派に禁酒、エ、最う確かなもので、誰が何と言つても最う飲みません。斷然禁酒して酒を止めました』若「大層丁寧だナ、併しまア酒の害に氣が付いて、止めたと言ふのは結構だ』茶「エツヘツヘ、ア、これで大安心を致しましたよ」

ドウせ産むなら 立派な子供

ヤクザな奴は役にはたゝぬ

戀は思案のほか　其他產兒制限に就て

理學博士　石川千代松

◇—◇

產兒制限論には二つの觀點がある。その一つは優生學的觀點——質の惡い者の出生を制限して善良な者を造るといふ立場で、他の一つは人口論的觀點——人口が增加すると遂には食物が不足するから無暗に子供を產まない樣に適當の制限を加へるといふ立場である。例のサンガー夫人は主として前者の立場からこれを唱道し、我國なども可成りその影響を受けてゐる。併し我國の產兒制限論には今一つ別の立場がある。例のモガ横行の風潮に破れた有閑階級の極めて不健全な議論がそれで、これは產兒制限といふよりも寧ろ絕對避姙といつた方が適當かも知れない。そしてモガ論の全く一顧にも値しないことは言ふ迄もない。

◇—◇

優生學的產兒制限論は彼の性の問題で有名なフオレル氏が二十年も前から盛に唱へたものである。その議論の要旨は

今日開明國の風俗は甚だよろしくない。キツスやダンスは言ふ迄もなく、凡て婦人の服裝が如何にも挑發的である。肩、腕、胸の一部を露出する夜會服は勿論、普通の衣服でも無暗に胸を膨らまして裏に乳房の存在を想はしめ、更に腰の豐隆な曲線を見せて、徒らに青年の心を唆る樣に出來て居る。生理的に未だ器管の發達しない內から、さうして性慾を誘ひ出される爲めに種々不自然な事をする樣になり又過つて病毒に感染するに至るロンドン、パリー、ベルリン等歐洲大都會の青年男女は實に斯くの如くして腐敗し、健全無垢な者は殆んどないと言つてよい斯樣に不健全な者から何うして良い子供が生れやうか。

といふので、これがこの議論の出發點である。

◇—◇

フオレル氏に從へば、結婚の第一條件は男女共先づ完全に生理的發達がされて居ることにある。次には經濟的に結婚生活を營むだけの資格が備はつて居なければならぬ。若い收入の少い者が結婚して困る樣な場合には、斷じて子供を產まぬ樣に避姙しなければならぬ。又子供が澤山出來て生活難をかこつ樣な者も適當に避姙をやらなければならぬ。これは單なる經濟のみの問題でなく、又一面よい子供を得る途である。子供の良し惡しは遺傳質によること勿論であるが、又教育の力も與つて力がある。完全に養育の出來ない程澤山の子供を拵へて何うして良い子供を得られやうか。のみならず多產は往々にして母體をも害するから適當なる避姙は絕對に必要である

◇—◇

但優生學そのもの〻創始者は彼の有名なゴルトン氏で、更にメンデルの遺傳法則を加へて一層盛んになつたものである。優生學の目的は主として一般的に人間の品質を良くすることにある。我々の體は一個の單位でなく澤山の單位の集合である。そしてそれ等の單位は受精によつて子々孫々に傳はつて行く、善い單位も、惡い單位も——。そこで優生學はこの受精の單位の選擇を行ふといふのである而してこれは動植物界等では明に可能が實驗されて居るが、人間が果して動植物並に行くか何うか。昔から戀は思案の外といふ位で、大多數は必ずしも子孫などの事を考へて結婚するものではないからである。けれども我々は人間である以上之れは大に考へなければならぬ。少くとも子供が如何にして生れるか位のことは本當の事を知らなければならない。

◇—◇

產兒制限について優生學以上切實な問題はマルサスの人口論である。即ち人間の生存には一定の食物を必要とすると同時に、男女兩性の愛情も亦必要である。然るに異性の愛が今日と變らない以上、人口の增殖は遙かに食物の增加を凌駕する。言ひ換ると人口は幾何級數的に增加するが、食物の算術級數的にしか增加しないといふ極めて悲觀的な說である。而してこの議論はダーヴインとウオレースに自然淘汰說を考へ出させた。それは生物界では個體の增加が激しい爲め、その生存に要する食物の不足を生じ、勢ひ生存競爭が起るといふのである。無論生物の生存競爭は食物のみが原因ではないが少くともそれが主なる原因であることは疑はない。

◇—◇

人間も生物である以上、生活と生殖の二作用は全く本能のもので、之れを制することは困難であり、苦痛である。のみならず人間愛の最も美なるものである以上、子供の出產の制限は尋常一樣では行かない事情がある。けれども一面に於てヤクザな子供が生れた場合、親の苦痛は實に言語に絕する又かゝる者の出生は國家にも有害である。故に優生學の教ふる所に從つて善良な子供を得る樣に努むることは、當に國民の義務であらねばならぬ。女の腹は借りものだと云ひ、又は畑だなど〻言つて、素性の知れない女に子を生ませて平氣で居る樣なのは、當に無智であるのみならず、國民としても恥ぢねばならぬ。

◇—◇

フオレル氏は言ふ。

產兒制限は先づ各家庭で兩親の健康狀態や財產等を考慮して、夫婦で適當に子供の數を定めて實行する。自分達の間には五人の子供を作つたが、それは恰度自分達の力で完全に養育が出來又妻の健康上にも無理のない所だと思つた數である

と。若し一國の國民が凡てフオフレル氏の樣な考へで子供を作つたならば、世の中は餘程幸福になるのであらうと考へられる。併し智識階級のみが之を實行しても、他の階級で無考へにドシ〳〵生產されては何もならない。だから國民全體がその氣になつて、出來る丈け劣等な種を減じ、善良なものを增加する樣努むべきである。

◇—◇

右は一國內の事、廣く世界を見れば人口は次第に增加して、土地といふ土地は、アフリカの中央までも入り込んで生活する樣になつて居る。これでは近き將來に、マルサスが恐れた樣に、人口と住所食物との均衡がとれなくなり、共倒れの狀態にならぬとも限らぬ。一部には之れは萬國協同して解決に當らねばならぬとする議論もあるが、軍備縮小さへ纏まらぬ今日果してかゝる理想論が實現するか何うか。サンガーさんでなくとも眞面目に考へれば、產兒制限の問題は全く重大な問題であるに違ひない。

細菌の 植民の意義

——生活現象から見た

金井章次

「上」

最下級の生物現象が、そのまゝ人類生活に應用されては、たまつたものでないと非難されそうである。だが、生物である以上、生きむ爲には食はねばならぬ。種族保存の爲には子孫を產まねばならぬと云つた、生物界の一般規約には種族の上下を問はず、盲從せねばならぬ。

私がこの問題を取扱つたのも、斯う云つた極めて輕い意味からである。

實驗室で、細菌の種族を保存しやうとすれば、絕えず細菌を新しい培養基か、乃至は動物に植ゑ代へて行かねばならぬ。細菌學者は之を細菌の繼代培養、或は細菌の移植と呼ぶ。培養體としては、動物よりも、普通、人工の培養基が選まれる。

破傷風菌や、脾脫疽菌は環境の性狀が、自體の生活に不利となると、芽包體なるものを形成して、生命の延長を謀る。併し、芽包體とても、永久の不死身ではない。結局、細菌の生命を活氣ある情況の下に、永遠に傳へやうとすれば、移植といふ手數より外に途がない

斯やうな立場から人類の移植民を論じたのがウオードである「種族や國民は常に最も活力ある分子を送り出して新しき地に移植す…有機論者は植民を目して社會生殖の現象なりといふ。之れ一半の眞理を含む。「植民は畢竟新生を意味する。そは種族の發展を意味し、社會的進化を意味すると。」

さて細菌の種族保存に移植の必要な理由は、左の事實に基づく。

一、同一培養基內では、細菌の發育增殖に一定の限界がある。その儘放置すれば自滅する。

二、細菌が一度發育增殖した培養基には、再び同種の細菌を移植しても發育增殖せぬ。否、增殖しないどころか直に死滅する事がある

この二つの事實は、同一原理の兩側面を解釋される。

獨逸のバウムガルテンは、細菌の發育增殖には、夫々固有の榮養素が必要であると主張した。從つてこの榮養素が消耗され盡せば、細菌の發育が停止するは無論の事自滅は只時の問題であるとされた今日では多數の學徒から、殆ど忘れ去られたやうな學說だが、その後、この特殊榮養素の存在は、實驗的に立證された。

バウムガルテンの榮養消耗說を紹介すれば、自然に、彼の有名なマルサスの人口論が聯想される。「人口の增加は生活資料に依つて必然に制限される」而も、食糧の種類は種族の異なるに依つて可なり特殊であるとして、「イングランド南部の勞働者は精良な小麥のパンを食ふ習慣が强く、彼等は殆ど餓死するほどにならねば、スコツトランド農民のやうな生活には甘んじないであらう」と述べ、尚自然の壓力に依つてこの程度に生活を引下げる事に就ては、「苟くも人道に心を寄せる人は、かゝる企てが不成功に終らん事を希望する」といつた。

マルサスの人口論が、人類以外の生物社會に於ける事實と、多大の相似性を有する爲め、マルクスは、「抽象的人口律なるものは、人類から歷史的に干涉を受けない動植物の上にのみ存在してゐるのである」と非難したが、多くの學者は或る特定の社會情況に於ては、人口對生活資料の關係で、人口過剩の起り得る事を、否定してをらぬ。而も、この種の人口過剩が移植民の間接的動因として、可なり有力に作用する事を容認する。」

「下」

經驗の徵するところに依れば、人口過剩の救濟策として移植民を企圖する事は、成功なる結果を齎さなかつた。恐らく人口過剩が移植民の唯一の動因でない爲めと思ふ。

細菌學界では、バウムガルテンの榮養消耗說以外に、近時、他の有力なる原理が主張されるやうになつた。

「細菌の發育增殖が或極限に達すると、細菌自身の生活を阻碍し、或は自體を崩壞する物質を產生する」

細菌の自家溶解性物質の研究は大正八九年の頃、佛人デレルに依つて唱道された、デレル氏現象或はバクテリオハアーシュ問題が、世界の細菌學者の視聽を惹くに至つてから、詳細に研究されるやうになつた。

之に相似た現象であるが、別個の事實として、

「細菌が或限度の發育增殖を遂ぐると、自身の生息する環境の性狀を惡化して、自らの生活及び發育を障害する結果に陷る」

この研究は、米國系の細菌學者に依て、種々なる方面に利用されてゐる。」

約言すれば一細菌の生活現象に、發育增殖の行程中に、自己否定の顯抗作用を生じ、發育增殖が或極限に到達すると、この顯抗作用は著しく顯著となつて、遂に自己の破滅を來すのである。

マルサスの人口論も、之れと相似性の立脚に立つてゐる。

「人口が食物の限界の殆ど最端まで增加すれば、凡ての豫防的、積極的障碍は、當然力を增して作用する」と。

マルサス主義の人口過剩論を非人間的と嘲笑し、在來の經濟學者の勞働者過剩論を、天體運動に於ける地球中心說に比喩したマルクス主義者も、資本主義經濟の下に於ては、資本蓄積の行程中に、必然的に資本主義、崩壞作用のある事を論じてゐる。

自家の拮抗作用の影響する圈外に出で、榮養物の存在が豐富で、而も環境の情況が有利なる情態に置かるれば、細菌の發育增殖は盛んに行はれ、活氣ある生活現象を出現するのは無論である。

細菌の旺盛なる生活現象を維持し、併せて之が種族の保存を謀る爲めに、移植を行つた理由が始めて瞭にされた。

母國民の移住を伴ふ移植民の意義も、その一半の理由は皆に爰に存するものと解釋される。

尚母國民の移住を伴はざる植民地經營にも、同樣な意義の存在する事が發見される。

即ち植民地を以て母國の榮養物の攝取個所、自家の顯抗體乃至は作用の排除地とするのである。

この目的を到達するには、必ずしも植民地たるを要せないのであるが、實際上、植民地對母國の關係は、强者の前に立つた弱者の地位である。之等の作用は植民國の立場からして易々として行はれる現に、列强の採つた植民對策中には、斯ゝる見地から、容易に諒解さるゝものがある。

一、植民地よりの食糧品及び產業原料の輸入

二、植民地への國內の不平、不良、不能分子の逐放

三、植民地を以て過剩資本の消化地とする事

即ち、母國の旺盛なる國民生活を更に助長し、或は維持する爲には、經濟的にも、政治的にも、社會的にも、植民地經濟が國家の生命上、必須の手段である事が知られる。

植民地經營に國民の移住を附隨せしむべきや否やは、第二次的の意義あるに過ぎぬ。移住を伴へば植民地經營の本來の目的は、一層確實有效に實現さるゝ事は否定出來ぬ。

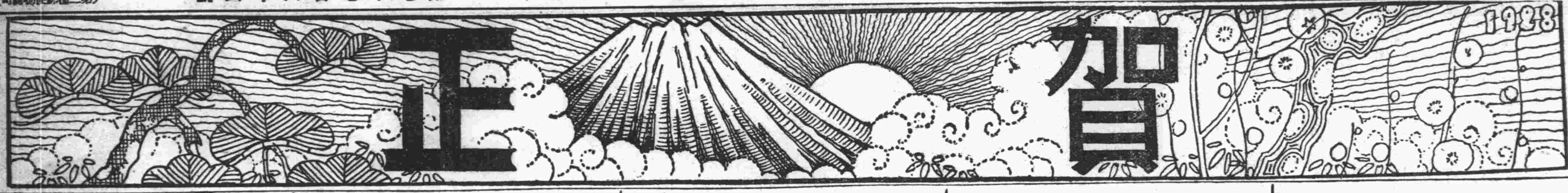
尚、最後に、細菌學上興味ある一ツの事實を紹介しやう。

細菌を培養して得た毒素液で、時間を經過した陳舊なものは、その毒作用を消失する。之に新鮮なる毒素液の微量を注加する時は、陳舊毒素液は、忽然として毒作用を復活する事がある。

由來、植民地の社會生活は、自由であり、精氣あり、實驗的である。潑剌たる植民地の社會精神が因習と沈滯とにとらはれたる母國の國民生活に一般の淸凉劑たる事はなからうか。

私の所論は之を以て終りとする我は斯かる植民の動因が、果して現代に適合するや否やを論じたのでない事を言譯する。

この點は列强の植民地經營の歷史に徵し、合せて植民地の國際的道義に訴えて判定すべき問題だと信ずる。



(いろは順)

入江正太郎
滿鐵東京支社

大橋新太郎
東京市麹町區上六番町四十三番地

小田久太郎
東京市外東中野一五二〇番地

小畑啓造
東京市外上澁谷一三五

川村鉚次郎
東京市外巣鴨町染井十一番地

横山信毅
大倉土木株式會社
東京銀座大倉組内

谷川善次郎
東京市外代々木富ケ谷一四五六

野田俊作
東京市麻布區材木町二十九番地

久保要藏
東京市牛込區中里町二十四番地

松本剛吉
東京滿鐵倶樂部

西山左内
關東廳

大川周明
東京日暮里渡邊町筑波臺

上塚司
東京市青山南町五ノ一

上田碩三
日本電報通信社

栗原廣太
東京滿鐵支社

松野鶴平
東京府下上大崎三四七

古川達四郎

後藤一郎
東京市深川區佐賀町二丁目

齊藤肆郎
東京滿鐵倶樂部

株式會社ヤマト
社長　庄司鶴之助
銀座一丁目四ツ角安田銀行裏側
自宅　東京市外大森(山谷)一六四九

廣瀨直幹
東京市芝區三田四國町二番地

森俊六郎
(一月一日ヨリ左記ノ通リ地番改正相成候ニ付御承知置願上候)
東京府澁谷町松濤四十五番地

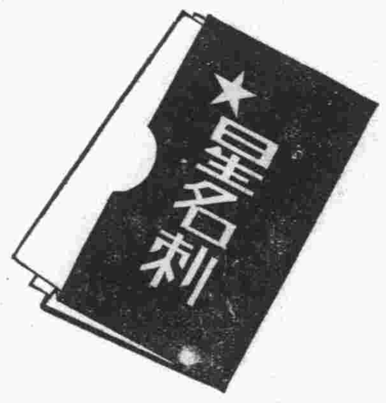
賀正

羽田調帶株式會社總代理店
蒲田商店
蒲田善利

本　店　東京市山下町二十三番地
大阪出張所　大阪市江戸堀南通四丁目
門司出張所　門司市內濱町二丁目
札幌出張所　札幌市北一條西三丁目
名古屋出張所　名古屋市中區新榮町二丁目
大連出張所　大連市監部通り二丁目
京城出張所　京城府南大門通り五丁目
大牟田出張所　大牟田市有明町

滿洲紡績株式會社
東京市日本橋區坂本町四〇

紙質最上の



各地印刷所に有り
星名刺と御指定を乞ふ

製造元
櫻井商店
東京馬喰町二

謹賀新年

株式會社滿洲日報社東京支社
德永和充
藤透
關谷直彌
鹿島甚福
南部春雄
土井洋輔
小林長三郎

滿洲の將來と日支露關係

拓殖大學教授　滿川龜太郎

(一)

かつてアジアといへば、世界で最も古い問題であるかの如く思はれた。それが今日では最も新しい問題となつて、全世界の注目を惹いてゐる。而して滿洲はアジア問題の中心となりつゝある。

滿洲は國際的に見れば日支露三國の勢力の集中するところである。また民族的に見れば日鮮支露四民族の錯綜するところである。更にまた之を經濟的に見れば、無限の富を藏して、その前途の開發實に測るべからざるものがあるのである。

滿洲はかつて極東と稱せられた。極東とは片田舎を意味した。世界地圖の極東にあつたからである。今や滿洲は世界の中心とならんとしてゐる。

(二)

滿洲が世界の極東に位してゐた時代、帝政ロシヤはシベリヤの曠野を越えて東方に進出を試みた。スラヴ民族の鋒先は、六千露里のシベリヤ鐵道となつて、朝鮮半島に南下を試みんとし、こゝに日露戰爭が起つた。戰爭が終つてからも、滿洲には依然として黒雲が低迷してゐた。沿黒龍總督としてロシヤ軍國主義の指揮者であつたゴンダツチ將軍の政策は、日露戰爭を滿洲の野に再來せしむる恐れがあつた。それがヨーロツパ戰爭となり、ロシヤの革命となり、聯合諸國のシベリヤ出兵となつたのであるから、意外の變化である。

けれども今は何もかも過去の夢と化した。ソウエート聯邦生れて既に十年、そして滿洲は世界の最も新しい舞臺として開展されつゝある。されば滿洲を論ずる者、また新しい識見と經綸との上に立たねばならぬ。

(三)

政治地理學の上から言つて滿洲が支那の領土であることは申すまでもない。けれども我等の常識はこれを支那と滿洲とに區別して考へる。獨り蒙古や西藏や回疆が支那の領土であるに拘らず、これを支那と區別して考へるが如きものである。

これは從來の古き國際關係の觀念から來るのであるが、私はそんなことでなく、滿洲の土地を、日支露三國の新興勢力が結合して、世界文明の新型式を創造すべき基礎として見たい。世界平和の具體的案件を協議し決定すべきテーブルとして見たい。このテーブルの鼎足として三國勢力の存在を價値あらしめたい。

(四)

日本の人口が年々百萬宛の自然增加を來たしつゝあることは、今や動かすべからざる事實となつた。この人口の捌場としても空地を要求する。

世界には未だ空地が山ほどあるが、滿洲は殆ど開拓されざる處女地である。こゝに二億や三億の民族は優に生存し得るのである。また事實滿洲に新しい文明を建設するには、これ位の人口を收容する必要があるのである。

今や漢民族の滿洲進出は年々夥しき增加を示してゐる。朝鮮民族も亦滿蒙シベリヤにかけて一百萬の移民を送つた。それにも拘らず日本人が僅に二十萬を上下して居るに過ぎないとは情ない。

(五)

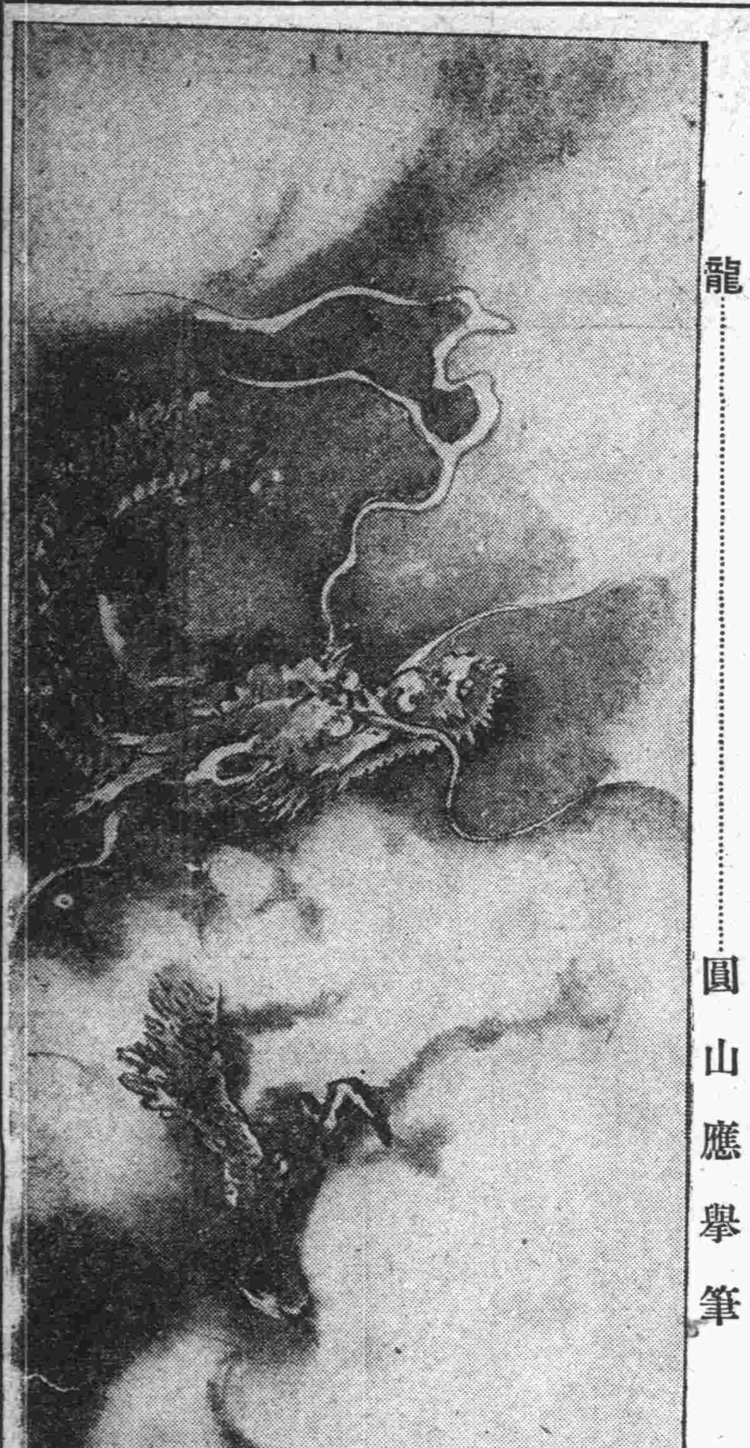
今まで滿洲と言へば、世人は多く南滿洲のことのみを考へてゐた。然し乍ら北滿洲や東滿洲の經濟的價値は、その將來性を有する點に於て遙かに南滿洲の上に座する。北滿洲と言へば大體に於て東支鐵道を中心とし、北方黒龍江との間に挾まる地帶であるが、その藏する富源は農產といひ、鑛產といひ、林產といひ、優に數億の人類を養ふに足るであらう。さればこの地方に設計されつゝある西黒鐵道の如き、拓殖鐵道としてのみ利用さるゝならば、その効果の偉大言ふべからざるものがあるのである。

又東滿洲といふ言葉は、どこの地理書にも使用されてないが、吉林省の東部即ち間島及び琿春地方と呼び做される地方を中心とする一帶は、北滿洲に比して更に視線が屆いて居らぬだけそれだけ、將來に有する經濟的價値は夥しいものである。この地方が吉敦鐵道を延長して北鮮に結び付けるべき吉會鐵道の如き、一日も早く完成する必要がある。

一體滿洲に於ける鐵道を一本や二本で我慢するといふことは無理である。日本の如き狹小なる面積を以てして一萬哩の鐵道でも猶不十分であるのに、況して日本の面積に數倍する滿洲の大地域には、もつと〱鐵道の敷設が必要である、たゞこれには今日の日露支三國の競爭より明日の三國協調にまで持ち來たさねばならぬ。

(六)

今や地球上に民族大移動の時代が來るといふことは明かに豫言が出來る。それは實に目前に迫つてゐる事實である。同時に來るべき文明は恐らく寒帶文明であらう。ヨーロツパの植民政策は、過去二世紀の間に於て、既に熱帶地方の開發を仕盡して仕舞つた。今後は殘されたる寒帶に向つて民族移動の趨勢が決せられるのである。日本海の北側滿洲や沿海州地方に人類共存の燦爛たる新文明を建設すべきこそ、吾人に與へられたる二十世紀の新使命といふべきである。



龍　圓山應擧筆

最近の天文界

問題の太陽の黒點やら人氣のいゝ宇宙多數說

帝大教授　理學博士　早乙女清房

日月星辰の運行が一定不變のやうに思はれてゐたのは昔の事、宇宙の物すべて、刻々に變らざるものはないのである。宇宙に一定不變といふものは一つとしてない。從つて天文界の現象に對しては、始めて、證明をすることの出來ないものが多い、たゞ事實に基き、一つの假定を設けて行くにすぎない。從つてその事實が相違してゐる場合は假定も根本から破れるのである。それだけ興味があると共に困難なことである。左に最近研究されつゝある新しい現象の二三に就いて述べてみやう。

◇太陽熱の研究

宇宙の中で太陽ほど我々の地球即ち人生や生物界に影響を及ぼすものはない、故に太陽の研究は人生にとつて重大なものであるから各國でも盛に行はれてゐる。太陽から來る輻射が地球上のすべての現象を支配してゐるがこれが從來あまり變化するものとは思はれてゐなかつたが最近の研究によると大分變化のあることが判つた。變化があるとすれば地球上の氣象の上等には頗る影響がある譯で、この變化の法則が判れば有益な結果を得るので世界中でこの調査を始めてゐるが日本でも近く開始すべく準備中である。殊に紫外光線は太陽から地球へ來る途中空氣の高い處で空氣のために吸收されることが判つた、この紫外光線は地球上の現象に及ぼす關係が多いのでフランス、イギリスあたりでは殊に力を注いで研究してゐる。アボツトは太陽から來る熱はいつも變つてゐてそれに從つて氣象上の變化が伴ふと云つてゐる。この研究は必要であるがなか〱困難な仕事で餘程大氣のいゝ日、空氣のすんだ處で觀測せねばならないが日本では信州に觀測所を設けるといふ說がある。

此の頃、よく問題になる太陽黒點はいつも增減してゐる、それが太陽の活力に伴つてゐると見なされてゐたが大概十一年を周期として變つてゐることが判つたがこの冬は恰も周期に當つてゐる。

この太陽熱の研究と共に太陽熱の利用といふのが將來考へらるべき問題である、太陽熱を貯へる光雷池については既に發明されてゐるが未だ經濟的に完全の域に達してゐない、しかし、石炭やガソリンがやがて地球上からなくなる時が來れば、當然太陽熱の利用が成功することゝ思はれる、現在、水力電氣は太陽の熱で蒸發した水をもつて起してゐるが將來こうした間接でなく直接太陽の熱を應用する方法も可能であらう。殊に、紫外光線は物を分解する化學的作用をもつてゐるものであるからこれを貯へて農產物の培養に用ふれば農業の大革命も出來るし、人口問題など立處に解決さるゝであらう。

◇地球の動き

地球の運動は一定の法則によつて正しく廻轉するものと思はれてゐたが、アメリカのニユコムは月の運動を研究した結果、地球の廻轉する速力にも增減があることを發表した、それは一秒の千分臺の僅なものではあるが積り積れば相當な差が出來る、それから地球の南北の極も動かないものと思はれてゐたのがそれも變動すると云ふことが判つた、世の中に不變といふものは殆どないやうになつたのである。

◇星の世界

星の數は、今まで發表された處によると五十億から百億と云はれてゐるがこういふ數字になると無數といつてもいゝのである、小惑星はどん〱發見されてゐるが一ケ年に百倍づゝ新しいものが發見され日本でも今年になつて五個を發見した、彗星の小さいものはいつも出てゐるのである。

◇月に生物がゐるか

月は地球から分裂した、そして地球に一番近い星であるから、研究も一番進んでゐるがそれでもまだそこに生物がゐるかゐないかといふことは確められない、月の周圍には空氣がないから生物はゐないと云ふ說が有力であつたが近頃研究した說では月には深い谷があるからそこには空氣があるらしくその空氣があるとすれば生物がゐるだらうといはれてゐる、下等な植物位は或は生きてゐるかもしれない

◇宇宙に對する二つの學說

現在天文に關する大きな學說としては宇宙が一つだといふのと宇宙は地球から見る以外に澤山あるといふ說とがある。渦巻きの星雲も宇宙の一つを形造つてゐるのであるといふ說をなすものもある。この論者は何れも劣らず自說を固持して各證據蒐めに苦心してゐるが人氣から云へば宇宙多數說の方がよいのである。昔、日本人が國は日本だけしかないと思つてゐたが段々何百といふ國が他にもあることを知つたやうに宇宙も吾々が見てゐる宇宙以外にもあるといふことは必ずしも荒唐無稽の想像ではない(完)

謹賀新年

大連生命保險同業會

大連市西通り四七ノ二三　建築壁材料商　合資會社　田崎商店　電話四七一九番

森永製菓會社　明治製菓會社　特約店
諸製菓業　卸問屋　大連若狹町五丁目一九九　木村屋分店　電話六八六八番　振替大連一三〇八番

キツコマタ　大連市　信濃町　河又醬油

大連市惠比須町　香壽美　電話六〇三六番

大連市伊勢町日本橋際　大連寫眞館　電話三五八四番

大連市若狹町大連劇場隣　紫檀細工　各種商　千葉洋行

大連市若狹町四六番地　薪炭米穀　石炭商　福永洋行　電話五四七二　四一〇二番

大連市若狹町六〇番地　ペーチカ　煖房請負　宮崎組大連支店　電話五二四二番

日本足袋株式會社代理店　アサヒ、地下足袋　アサヒ、マタナシ地下足袋　アサヒ、家庭德用足袋　アサヒ、小供靴　種々　大連市磐城町八十一番地　泰盛洋行　電話八七一七番

大連市佐渡町二六　長畑建築設計事務所　長畑泰輔　電話六六〇七番

大連市外老虎灘番外四　御料理　嘯月園　電話六四七九番

大連市伊勢町四四番地　食道樂　昭和亭　電話三八五六番

大連市惠比須町　御料理　晩翠軒　電話七〇六六番

大連市外老虎灘　御料理　千勝館　電話七〇四六番

大連郊外土地株式會社　電話五八二一番

浪速町　しるこ　おぞうに　津多屋　電話五二四三番

大連市三業組合(いろは順)

料理店の部

監部通	濱乃家	四二五五
浪速町	錦	四八三七
浪速町	布袋	八五〇九
信濃町	鳥彦	四四八三
美濃町	千草	七五〇四
信濃町	吉兼	四五〇七
浪速町	淡月	四六三六
春日町	鶴家	七二三九
美濃町	湖月	八一七七
浪速町	天金	六一〇九
伊勢町	澤乃井	五五〇四
中央公園	西園亭	五一二九
浪速町	吟松亭	五〇〇三
愛宕町	菊水	五〇六三
美濃町	新喜樂	五三四六
浪速町	扇芳亭	七〇八二
同	君乃家	六四〇七

貸席の部

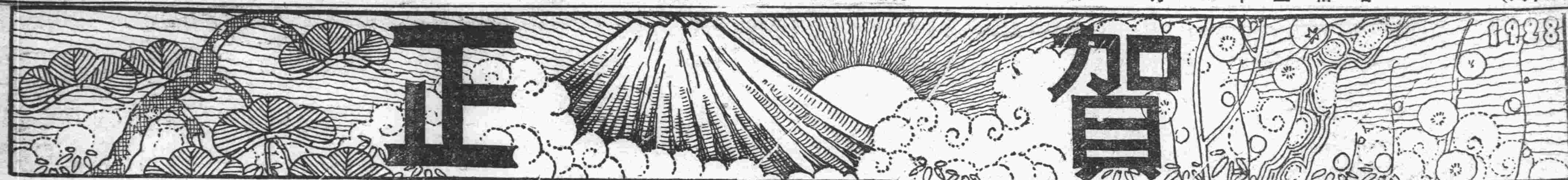
美濃町	岩戸	三四〇八
信濃町	花丸	五二五四
美濃町	初音	四六七五
磐城町	花菱	五四六二
同	こんぼ	五〇三三
浪速町	千歳	四二五六
伊勢町	千代本	四三六八
磐城町	扇家	四二五一
同	かなめ	四三一五
駿河町	芳家	四二七九
伊勢町	月乃家	四三八七
美濃町	蔦家	五六二六
伊勢町	津保美	五〇七三
浪速町	蝶々	七〇四九
信濃町	松家	四六六九
磐城町	江戸家	四八五七
大山通	愛廣	四六六〇
美濃町	照乃家	四七五三
信濃町	喜奴多	五二二八
同	美登里	七二一九
美濃町	銀月	六九五九
信濃町	新菊水	五八二〇
同	新二葉	四九四一
同	芝田	三〇九[illegible]
磐城町	新瓢	五四〇一
美濃町	新小松	三〇〇一
浪速町	新富	三二九〇
同	新濱	六四三九
同	瓢	四四二五
美濃町	壽美禮	五〇三九

藝妓置屋の部

信濃町	井筒家	四二〇三
岩代町	石川席	八四八〇
信濃町	林家	四六六九
伊勢町	常磐席	七六一一
磐城町	富屋	六七六〇
美濃町	小川席	三六四二
同	近江家	
磐城町	吉田席	七六一七
浪速町	淡月席	四五八〇
信濃町	玉乃家	五七七八
同六八	天狗席	八九〇九
美濃町	高砂席	八一七七
同五九	成田家	
同五七	鷹之家	
信濃町	北一席	
美濃町	八千久席	三六四四
信濃町	松坂席	八三五〇
美濃町	藤村家	三七八九
浪速町	琴平席	七六七九
美濃町	小松家	七六一五
浪速町	哲乃家	六四八二
美濃町	相生席	三八〇四
岩代町	笹邊席	七二四六
信濃町	櫻川席	
美濃町	北村席	八七五七
信濃町	金城席	七三〇三
同	北林席	八四九九
大山通	清乃家	四八二九
岩代町	新京家	
美濃町	千成席	四二二一
同	末廣席	四二〇五
岩代町	山口席	三五〇四

大連市三業組合事務所　電話四五〇六番

大連檢番　電話五一一六番



旅順市嚴島町 製鹽業 矢原商會 矢原重吉 電話八一、一五一番

旅順市白玉山町 忠勇あられ 雪月花 滿洲乃華 東金堂 本舗橫濱 加藤傳吉 電話五三二番

旅順市嚴島町 宅島商會 電話一〇三番 宅島猛雄

旅順市八島町 石炭販賣 滿昌洋行 電話一六六 一四七番

旅順市名古屋町 仲野齒科醫院 電話一二九番 仲野嘉與作

滿洲寫眞帖出版元 記念品御商 東京堂 旅順乃木町三丁目 電話六一番

旅順市櫓立町十九番地 天德公司 電話二六四番 宮明德

滿洲蠶絲株式會社

旅順市乃木町三 諸官衙御用達 岳南公司 電話三八二番

旅順市乃木町三 貴金屬 寶石眼鏡 寫眞機 櫻井時計店 電話一九五番

旅順市乃木町三丁目 土木建築請負業 築島組 電話三九七番

旅順市三笠町 土木建築請負業 高麗孝義 電話三四一番

旅順市乃木町三丁目 喜野商會旅順支店 電話二七七番 電信略號（キリ）

旅順市乃木町三 清酒菊正宗 櫻正宗 櫻政 旅順ノ一手販賣 金水商會 電話一〇六番

旅順市乃木町三丁目 自轉車及附屬品 田村商會支店 電話五一〇番

旅順市乃木町三 食料品雜貨商 大島商店 電話一三八番

旅順市乃木町二丁目 陸軍諸官衙御用達 大西商會 電話二五三番

旅順市乃木町三 電話七九番 近江屋吳服店 支店 大連市伊勢町 青島 山東町

寫眞機械並ニ材料販賣、晝夜撮影、現像、燒付 成松寫眞館 新旅順松村町二 電話二五九番

旅順市中村町 關東廳購買會食堂 鶉粕漬製造 高橋商店 電話四四三番

旅順市明治町五七 銘酒神力 清酒壺鶴 味淋八重櫻 燒酎及奈良漬 元造製 北川商會 振替大連四五七一番 電話四四七番

千代田生命保險相互會社代理店 石炭商 矢幡商會 八島町 電話三一 三〇六番

旅順市乃木町三丁目 土木建築請負業 本田與市 電話四一一番

旅順市名古屋町一七 土木建築請負業 石井本一 電話一三八番

電氣諸機械器具材料品販賣 電氣工事設計監督修繕請負 諸官衙御用達 圓橋商會 西田泰助 旅順市乃木町二ノ一九 電話一四〇番 振替大連一四〇番

旅順市朝日町魚市場 陸海軍御用達 海產物問屋 ㊀井町正八商店 電話三三二番 振替口座大連三八五四番

旅順市乃木町三丁目 仌ゑびす屋吳服店 電話一三〇番

旅順青葉町四二 樋口ほゑ館 電話四一七番

旅順市青葉町 宏記吳服店 電話三一八番

旅順市青葉町二 ㊂下村履物店 店主 中西嘉七 電話三二五番

旅順市乃木町 舶來商 諸雜貨 滋賀洋行 電話三七六番

瓶甕、耐火、土管煉瓦、素燒類、煉炭、コンロ 山崎光之助 旅順市朝日町一ノ三六 電話三九四番

書畫骨董、刀劍寶石、和洋家具製作販賣 毛皮類、貴金屬時計、演金銀賣買、紫檀細工物 後藤勇太郎 旅順市末廣町十二番地 電話四三九番

旅順市大津町一六 疊商 與石久作 電話三六〇番

旅順市敦賀町 製靴革類 阪本洋行 電話二六二番

旅順市乃木町三丁目 旅順無盡株式會社 電話二五一番

岩崎洋服店 電話三六四番
高田洋服店 電話三九八番
中山洋服店 電話三二九番
島村洋服店 電話一七九番

旅順乃木町三丁目 南部組合
別府六三郎
川村彌藏
吉村信貞
澤豐太郎
松田喜藏
伊勢洋服店
宮本彥三郎
旅順運送合資會社
さぬきや
村上信二

旅順市敦賀町 共榮會
井上玩具店
玉木モスリン店 電話九二番
熊井洋行 電話六七番
安永商店 電話一七六番
山下履物店 電話五〇三番
小林商店 電話五〇一番
木村屋 電話三〇五番
ミヤコ履物店
三原商店 電話三四八番
久富商店 電話四二九番

旅順菓子同業組合
老樹園
東光堂
東金堂
河北商店
越智商店
おかめ庵
山岸洋行
大和軒
松岡商店
木村屋
都堂
水月堂
三原菓子店

旅順青葉町 街灯維持會（イロハ順）
池田洋行 電話七四番
原田時計店
新見時計店 電話四八〇番
德商行 電話一〇九番
岡女庵 電話五〇三番
大阪屋號書店 電話三五一番
吉野羅紗店 電話一八六番
谷疊店 電話五八四番
高治洋行 電話八七番
山口商會 電話一九四番
やまさ軒 電話四九三番
中野日界堂
松崎紙店 電話一二八番
文英堂書店 電話二〇三番
瑞章堂印房 電話六三番

製鹽業 華信洋行 三笠町電話一〇四番 振替大連三三五番

學用品、文具、運動用具、和洋雜貨 新旅順大泊町 華信洋行文具店 電話三〇四番

第一徵兵保險株式會社 新旅順代理店

奴すし 鯖江町 電話七六番
ツボミ 名古屋町 電話二八一番
吉野屋 乃木町 電話四七八番
木村屋 敦賀町 電話三〇五番
福すし 敦賀町 電話二六番
大坂や 鮫島町 電話二七八番
大迫や 大迫町 電話二八一番
松金 敦賀町 電話一三六番
スズメ 名古屋町 電話三〇九番
新更科 末廣町 電話二五五番

旅順市賣藥組合（イロハ順）
萬代號藥房 青葉町（電話四二八番）
田中藥舖 乃木町（電話三三六番）
宮竹藥店 青葉町（電話一七〇番）

旅順市青葉町 和洋雜貨 御行李、バスケット製販賣 外山洋行
（內外諸新聞販賣）外山洋行新聞部

旅順市大津町 諸官衙御用達 食料品雜貨商 齋藤商店 電話一七六番

滿洲日報取次店 乃木町三丁目 遠洲屋 電話五三一番

旅順市大島町 南滿畜產會社 電話一四五番

旅順質屋組合（イロハ順）
鯖江町 入江常太郎 電話一九〇番
同 井手芳太郎
乃木町 合河八郎 電話五三一番
鮫島町 吉武忠吉 電話九三番
同 米長空次郎 電話一六四番
同 浪花屋
同 後藤チカノ
末廣町 三井鐵太郎
新旅順中村町 柴田テツ
西町 鈴木正昇

旅順市乃木町三 御旅館 寶來館 電話五六番

旅順市青葉町 御旅館 防長館 電話二八二番

旅順市青葉町 御旅館 旅順ホテル 電話三六七番

旅順驛前 御旅館 福封館 電話一二〇番 四六〇番

旅順檢番 株式會社 名古屋町 電話七一 五九番（イロハ順）
乃木町 彌生 電話三三七番
鮫島町 壽 電話一六九番
青葉町 青葉 電話一二一番
青葉町 君乃家 電話四二六番
敦賀町 新花月 電話二四二番
乃木町 瓢亭 電話四九番

旅順料理屋組合
…（イロハ順）…
西町 一力 電話一二〇番
同 蛤亭 電話二四七番
柳町 濱名館 電六九番
西町 東洋軒 電一〇八番
川端町 旅島館 電一六三番
同 古田屋 電三一七番
十年町 松葉 電四三〇番
川端町 滿月樓（朝鮮料理）
川端町 京城館（朝鮮料理）
西町 榮福樓 電三七〇番
同 吾妻樓 電三八〇番
朝日町 堺樓（朝鮮料理）
西町 明月館（朝鮮料理）
同 新萬歲 電三二一番
川端町 笑福樓 電二四三番
東町 春海館（朝鮮料理）
川端町 昭和樓（朝鮮料理）

旅順市朝日町一丁目 昭和園演藝部 附屬食堂 電話一七五番

大連市信濃町市場內 金生福 主人 任善鏵 電話五四一三番

大連市奧町四八番地 雙聚福 主人 安承生 電話代表五一二五番

大連市寺內通三一番地 華商客棧組合 正組合長 孫子傑 副組合長 段心一

大連市大龍街 順興鐵工廠 主人 周善亭 電話五〇〇五 七二二五番

大連市太平町十四番地 天興福第一油坊 主人 邵愼亭 電話四六五三 四八三五番

大連市浪速町三十四番地 湯屋營業 雙泉堂 主人 王慶新 電話三二二六 四九七〇番

大連市近江町十六番地 福順厚 福順銀號 電話代表七一四一番

大連市監部通八一番地 中國料理 泰華樓 主人 王華亭 電話三五二七 四六七一 七七五七番

大連市西崗子宏濟街七七番地 積善堂 主人 朱春山 電話四四五二番

大連華商公議會 正會長 張本政 副會長 劉仙洲 同 李升海 電話八三五六 四四六八番

小崗子 華商公議會 正會長 龐睦堂 副會長 閻子如 同 周子揚 電話四五八八番

大連市監部通三九番地 政記輪船股份有限公司 總理 張本政 電話代表電話四一四一番

(第三種郵便物認可)

謹賀新年

安東縣郵便局 局員一同

安東地方事務所長 粟野俊一

滿洲興業會社常務取締役 明石東次郎

安東木商組合長 荒川六平

三井物產安東支店長 池上常太郎

井上和洋雜貨店主 井上四平三

安東滿鐵醫院長 梅田嘉四郎

浦元製材所 浦元獻庸

蛭子井製材所 蛭子井正信

安東警察署長 尾崎三郎

南滿電氣安東支店長 岡見正治

安東保線區長 大木延邑

安東縣郵便局長 河野秀雄

河合洋行主 河合芳太郎

北田榮太郎

安東地方委員會委員 金虎賛

安泰利店主 來栖健助

無限公司代表者 式村茂

滿鮮杭木專務取締役 新羅祐三

富士瓦斯紡績安東工場長 栖原常三郎

安東地方委員會委員 曹駿明

安東守備隊長 田中信男

安東商業會議所會頭 高橋貞二

安東憲兵分隊長 對馬百之

安東取引所理事長 中野初太郎

安東商業會議所書記長 中村太郎

安東地方委員會委員 新美平四郎

安東取引所取引人組合委員長 原田市松

鴨綠江採木公司 理事長 內藤確介 總務課長 橋本秀久 度司課長 吉田良繼 參事 大津峻

福原茂平治

安東石炭販賣所主任 星澤研壽

東省洋行主 本田勝三郎

松村洋行主 松村松助

南滿洲製材公司 村上四郎

安東江岸通五丁目 安東挽材株式會社 電話 事務所用 一〇八番・一二四番 事務員宅 七〇二番

豆粕、豆油、製造 滿鮮特產物貿易 日陞公司 電話 長 一九三・二九五・六五八 中 三二二・四九〇・六五七 三二二番

明治四十一年九月創立 資本金北洋銀三百萬元 「支那國政府合辦」 鴨綠江採木公司 日電 一二三番（受付）一七五番（販賣） 一一六番（會計）五九番（秘書） 支電 六番（受付）一九六番（總務）

安東縣六道溝 鴨綠江製材 無限公司 事務室電話（四四五五 一〇番）

安東縣六道溝桃源 滿洲鑛山藥株式會社 電話（事務所 一三三番 俱樂部 五〇一番）

安東縣六道溝 滿鮮杭木株式會社 電話 事務所 一三一〇番 現場詰所 六三番

南滿洲安東縣 鴨綠江製紙株式會社 電話 三一〇六・五三番

南滿電氣株式會社 安東支店 電話 二五五・三九三番 六道溝出張所 電話七〇八番 發電所 電話五一〇番

安東驛前 安東ホテル 經營主 秋吉次郎 電話代表 二四 長八四五番 驛構內賣店兼 電話四七五番

安東取引所 取引人組合

製函材 製材原木 宮（商標） 安東縣六道溝南四條通三丁目 合資會社 宮下洋行 電話長 三三・一八三番 電略（ミア） 安東縣郵便局私書函第一四號

安東工友會 電話 三二七番

安東縣 料理店組合

安東縣六番通一丁目 山口洋行 店主 山口文次郎 電話長 一〇一番

安東縣五番通八丁目 石炭貿易商 藤平兄弟商會 藤平泰一 電話 一七一・二二七番

御料理 由良之助 電話 二三九・九二・五九二番

大豆粕、滿洲粟、大豆雜穀 安東縣大和橋通五丁目 朝鮮肥料株式會社 電話長 四五九番

本店 大連市 國際運輸株式會社 新義州出張所 電話長 二一四番

新義州電氣株式會社

富士瓦斯紡績株式會社 安東工場 電話 八九番

安東窯業株式會社 電話 一三二番

安東縣江岸通 山形組 電話 二〇番

安東縣三番通一丁目 山形壽樂園 電話五五一番

安東縣市場通二丁目二番地 國際運輸株式會社 安東支店 支店長 北村文藏

安東縣一番通一丁目 共立製材所 電話 五三八番

大連汽船株式會社支店 支店長 佐藤信二 電話 事務所 二五〇番 支店長宅 三〇七番

安東縣四番通六丁目 安東信託株式會社 電話 四五三番

安東縣市場通六丁目 滿洲屋呉服店 電話 一〇六・一〇七番

安東縣市場通八丁目 藥種貿易商 一木藥店 日電 一五八・支電三七一

安東縣南四條通 株式會社 滿鮮鐵工所 電話 工場 三三六番 販賣部 二八三番

安東縣四番通六丁目 食料、雜貨 絹紬、網緞 金子商店 電話 七七〇番

安東縣江岸通四丁目 滿鮮製函株式會社 電話 三五二・七七三番

安東縣三番通三丁目 木材業 林田洋行 電話 六九〇番

清酒、味噌 醬油釀造元 田原商店 電話 九番

銘酒櫻正宗、富久娘一手販賣 三巴商店 貿易部 雜貨部 日電話長 一〇四番・二四三番・支電話二六〇番

安東縣四番通四丁目 暖房機械 須田商會 須田武夫 電話五八六番

安東縣六道溝四條通 守永製材所 電話 一九四番

安東縣市場通八丁目 精美館印刷所 電話 四一五番

和洋御菓子司 横濱堂 電 一二二・七四三番

安東縣六道溝 日の出製材製匣所 事務所 驛前通一丁目四八 和田賢太郎

關東廳 滿鐵會社 御指定 旅館 元寶館 電話長四五番

安東縣市場通丁目 富久壽美旅館 電話 四七番

滿鐵會社 陸軍 御指定 日之出旅館 電話 長三七〇番

三遊亭小金馬
犬塚慶二郎畫

人間笑ふくらゐ結構なことはございません、西洋の人は世界に日本人のやうに、能く笑ふ人はないと申すさうでございますが、笑ふ門には福來るで、畢竟好い事があるから笑ふ、笑ふから好い事があるといふやうな譯で、第一笑ひますと胸廓が開き、御身體の爲にも大層宜しうございます、どうも頭が痛いが、腦病でも發りはしまいかと思召したら、落語の本を御覽遊ばせば、乾度お笑ひになるに違ひございません、腦病などはモウ三日もお笑ひになれば癒つて了ひます、肺病でも一週間落語の本を御覽になるか、又はお聞きになれば大概癒つてしまひます、そうして見ると人間の身體には落語ぐらゐ、藥なものはございません、先達ても我々共一同病院へ招かれて參りまして、患者を精々笑はせて吳れろと、御頼みを受けましたので、一生懸命可笑い落語をいたして失策ました、どうしたと申しますと、殘らず患者が顋を外して終つて、歸るのに大騷ぎでした、して見ますと笑ふのも度があると見えます、尤も世間には笑ふのが癖の人もありまして、人の顏さへ見れば無暗に笑ふ、どうも可笑くも何ともないのに顏を見てゲラ〳〵笑はれると笑はれた方は何だか變な心持で、乃公の顏に何か附いて居るんぢやアないかと思つて、心配することもありますが、幾ら笑ふのが宜いと申しましても、場所に依つては困ることもございます、

甲「ヘエ今日は　乙「ハイお出で、　甲「アハヽヽヽ　乙「何だえ人の家へ入るが否や突然に笑ひ出して…何か用かえ　甲「へ、、、……　乙「オヤツ、何がそんなに可笑いんだエ　甲「へエ、だけれどもお前さんが其處にさう、きちんと坐つて眞面目な顏をして居るのを見ると、アハヽヽ、何だか、アハヽヽヽ可笑くつてアハヽ、ア、堪まらねえアハヽヽヽ　乙「變な男だなア、人の所へ來る早々坐つて居るのを見て可笑しいといつて笑ふ奴があるものか、全體何の用があつて來たんだ　甲「それが外の用ぢやねえんですがね、家の隣りの娘がね、去年嫁に行つたんでアハヽヽヽ、　乙「娘が緣があつて嫁に行つたのが何が可笑しいんだ　甲「それが此の間赤ン坊を生んだんで、アハヽヽ、可笑しいぢやアありませんか　乙「馬鹿だな、赤ン坊が生れゝば目出度いぢやアねえか、何が可笑しい　甲「何が可笑しいつたつて其の子供が人間で　乙「當然だ、犬や猫の子を生んで堪るものか　乙「それが生きて居てオギヤア〳〵泣いてるんでアハヽヽヽ、可笑しくつて〳〵　乙「什樣のねえ人だな赤ん坊がオギヤア〳〵泣くのを見て笑ふ奴があるものか　甲「でもさアハヽヽヽ、可笑しくつて〳〵アハヽヽヽ」此んなに年中笑つて居ても始末にいけませぬ。

併しまあ笑つて損をした人はあまりあるまいと思つて、段々尋ねましたらたつた一人ありました、誰だといふと、其昔江戸銀座三丁目の餡屋の金兵衛さんといふ人が、笑つて損をしました、どういふ譯で損をしたかと聞いて見ますと、餡を打つたと見えて、フヽツと噴き出したので、前にあつた餡を皆んな飛ばして終つたと申します、狂言で致す千代萩の荒獅子男之助、實說では松前鐵之助といふ忠義者か、龜千代樣の御守役を申附かつた時に、何卒若君御無事御成長の上、御家督、御相續相成るやうにと、鹽竈明神へ大願成就の曉まで、決して笑ひますまいといふ誓ひを立てました、夫れが爲めに此後笑ふといふことが出來ない、自然苦虫を噛潰したやうな顏をして居るので、若樣が當分御憾きにならなかつた、千辛萬苦の末、惡人滅て御家は安泰に治まり、龜千代樣は綱村侯と申上げて御乘出しになりまして安堵致した故か病の床に就きました、モウ愈いけないといふ時に初めて大口を開いて「ワハヽヽヽ」と心地よげに笑つて相果てたと申ます、是は可笑しいことも堪へて笑はないのでございますから、隨分辛いことでございませう處が茲に生れてから笑つたこともないといふ方がありますお名前を佛頂さんといつて年が四十五歲生れて四十五年の間笑つたことがないといふ愛嬌のない人を佛頂面といふのは此の人から始まつたのださうで、御家內も連れ添つてモウ十五年になりますが、一度も亭主の笑ひ顏を見たことがないので種々と心配して、横町の寸白さんといふ御醫者樣の所へ參りまして

女「私は只今の家に嫁いで參りまして、もう十五年になりますがまだ夫の笑つた顏を一遍も見た事がございません、どうか笑ひますやうなお藥がありますなら、戴いて參つて服ませとうございます」　寸「ハア夫には宜い藥がある、紅葉茸といつて紅葉の木の根つこへ出來る菌がある、之を酒の中へ浸して置いて呑ませると、どんな笑はない者でも自然に笑ひ出す、之を笑ひ茸といふ、幸ひに此處にあるから持つて行つて、服ませてやんなさい　女「夫れはどうも有難うございます」と內儀さん種々効能を聞かされて喜んで、之をお酒の中へ浸して置いて　女「モシ貴郎、貴郎と私が夫婦になつて十五年になりますねえ　佛「夫はお前が云はないたつて判つて居る　女「ですけれどもねえ、此の十五年の間、私の前でお笑ひなさらないんでせう　佛「馬鹿なことを云ひなさんな、お前が厭で笑はないのではない、乃公にはどうしても笑へない、世間の人が笑つて居ると馬鹿々々しくつて堪らないんだ　女「ぢやア全く貴郎は笑ふと云ふことが嫌ひなんですか　佛「お前と夫婦になつてからは十五年だが、夫よりズツと以前、生れた時から今日まで一度も笑つたことがない　女「私も貴郎と夫婦になつたものだから、何かして貴郎の笑ひ顏を一度拜見したいと思つて、種々心配をして居た所、實は先刻横町の寸白先生の所へ行つて話をすると、笑茸といふものがある、之を呑ませると、何んな笑はない人でも自然と笑ひ出すと仰しやるから此處に戴いて來ました、貴郎が眞實に笑つたことがないなら、一つ召上つて御覽なさい　佛「ぢやア何か、お前が醫者の所へ行つて、亭主が笑ひませんから藥を吳れろといつて、貰つて來たのか、亭主が笑はないからといつて、藥を貰つて來る奴があるか、お前其の醫者に欺されたのだ　女「けれども、之を呑めば屹度笑ふと云ひましたから、マア物はためしといふことがありますから一つ服んで御覽なさい　佛「さうだな、お前が强つて服めといふなら服まないことはない、此處にお出で　女「宜しうございます、サア是でございます　佛「ハヽフ之を乃公が服めば必ず笑ふといふのか、斯んなものを服んだつて笑ふ譯がない、醫者に欺されて來たんだ……　女「イヽエ服みますよ、服まないとは云はない……ウーム餘り是は甘いものではない、變な味がしやがるな、伶で菌見たやうな味がするぜ……サア悉皆服んぢまつたが可笑しくも何ともない　女「今に貴郞、お藥が身體に廻ると、幾ら貴郞が笑ふまいと思ひましても自然と噴出すやうな具合になりますよ　佛「ナニ笑ひませんよ　女「イヽエ貴郞が强情を張つても、お藥が廻れば笑ひますよ　佛「笑ひませんよ　女「笑ひますよ　佛「笑ひませんよ能く考へて見なさい、乃公の身體だよ、乃公が笑ふまいと思つたら何んな藥を服んでも可笑くなる道理がない、斯うなると乃公も强情だから、生涯笑はないから然う思ひなさい　女「イヽエ、幾ら貴郎が强情を張つても、御身體に藥が廻れば笑ひますよ　佛「笑ひません、何故お前其處で妙な顏をして見せるんだ、何んだお前が笑つてるんぢやないか、乃公は笑はない、アハヽ、お前が其處でフヽツ笑つて見せたいてハツハツハ乃公は笑やアしない　女「アレ貴郎お笑ひなすつた　佛「フヽツ、ナニ笑ふものかアハヽヽ　女「ソレ御覽、お笑ひなすつた　佛「何時乃公が笑つたよ、お前の氣の故だ、藥を服んだから、今に笑ふだらう〳〵と思つて居るので、笑ふやうに思はれるんだ、フヽヽ、馬鹿な話で、アハヽヽヽ、フヽヽ、ハヽヽ、イヤ是はいけない、アハヽヽ、アハ、ヽ、アハヽヽヽヽ、オイどうも是は妙だ、アハヽヽ、人間と云ふものは奇態なものだな、今まで乃公が笑つたことがない、夫れをお前がアンナものを服ましたから、とゝゝと、止め度もなく、ハヽヽヽワツハヽヽ、是はいけない、オイ〳〵乃公は口が利けねえ、アハヽヽフハヽヽヽ、アヽ可笑いアハヽヽヽ、オイ人間と云ふものを考へて見ると妙なものだ、お前と乃公とは他人だ、たゞ他人同志だ、ハヽヽヽ、アハヽヽヽ、ソその他人同志が夫婦になつて、アハヽヽ、アハヽヽ、夫が、夫がお前と乃公……夫婦になる時には、とゝ年が一つ違ひだつだらう、アハヽヽヽ十五年前に一ツ違ひだつたのが、十五、十五十五年經つてもアハヽヽヽ、未だに一つ違ひだアハヽヽヽヽ、夫にねオイ、お前が私の所へよ、嫁に來た時にはし、島田に結つて居た、夫が今になつたら、まゝ丸髷になつてしまつたアハヽヽ、さうしてお前、嫁に來た時にはお前の顏に眉毛があつたらう、夫が今になつたらお前の眉毛が、な失なつて終つて、アハヽヽ、お前の顏がノヽノツペラボウになつてしまつた、ワハヽヽヽワハヽヽ」妙な事を云つて留度もなく笑つて居ります、笑ふ門には福來るとは能く云つたものでサア世界の金が皆んな佛頂の所へ集つて來て、忽ちの間に佛頂が大金持になりました、喜んで其の金を積上て笑つて居ります、處が之に引替へて、天國では、夫が爲に金がなくなつてしまひ、サア御日樣を初め星など殘らず貧乏になつて、仕方がないから集會をして詮議をすると、下界に佛頂といふ者があつて、今まで笑つた事がなかつた所、女房が笑ひ茸といふものを醫者から貰つて來て服ませたので、夫れから笑ひ初めて少しも笑ひ止まらない、夫れ故金が佛頂の處へ集まつて了ふといふことが解りました、シテ見れば、佛頂は笑つて金を集めたのだから、此方でも負けないやうに笑つたなら、其金が歸つて來るだらうつてんで、佛頂の處に居る金に聞こえるやうに大勢で笑へといふのでお星が殘らず大聲を揚げて「ワハヽヽ、ワハヽヽ」と頻りに笑ひ立てると、佛頂の處に居た金が其の笑ひ聲を聞いて、又出掛けやうとするから、佛頂は笑ひながら之を止めて　佛「アハヽヽヽ、オイ〳〵お前方は仕度をして何處へ行きなさるんだい　金「ヘエ旦那、天國で皆が笑つて居ますから、又天國へ參ります、　佛「アハヽヽヽ、お前方は天國へ行くには及ばないよ……　金「ヘエ、どう云ふ譯で……　佛「那れは皆んな空笑ひだ」（終り）

一口噺

編輯局選
選外佳作

◇辰と寅の喧嘩

龍山　工藤山映子

女房「辰年だつてお前さんはトテも出世の雲には乘れないよ」
亭主「アタリ前さ、手前が五寅の寅で吹き飛ばすからよ」

◇お土産

西公園町　花園綾吉

東京から歸つて來た或紳士、奥さんに土產の淺草海苔を請求されて曰く
「ソウ〳〵安東で通關のとき、餘り手間どつたので汽車にノリ遲れたんだらう」

◇防寒髷

長春　まさ子

モダンガール反對のお孃さんが不思議にも髮を耳隱しに結つて澄ましてゐる、その譯を聞くと
「ナアに之は防寒髷ですよ」

◇犬のお腹の火事

惠比須町　康彥生

今年六つになる弟が、猫イラズで犬を殺すのを見て來て「犬が猫イラズ飲むとドウして死ぬの」と聞いたのでマヽが「お胸がやけて死ぬの」といふと「ソンならお口から水を入れると消えるネ」といひましたので大笑ひでした

◇龍頭蛇尾

大連榮町　三郎生

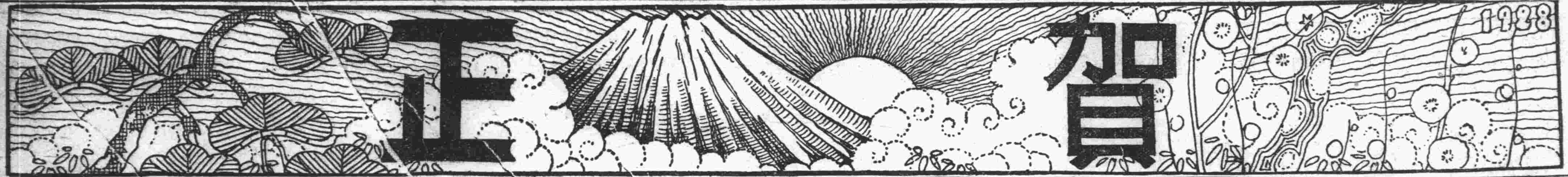
與太八「辰公、一杯飲みねえ」
辰公「兄貴、そいつはいけねえ、今年は昇龍の辰年だ、心を入れ換へて働く、一年の計は元旦にありと云ふだらう」
與太八「何を云つてるんだい、龍頭蛇尾と云ふ奴だらう」

謹賀新年

右近末穗	上田利一	野田運動具店	奉天驛前 木村邦明	井上商事株式會社出張所	森林洋行	藤永寫眞館	奉天春日町七 鞄製造 洋品雜貨 旅行具一式 松久號 電話一七〇一番 ／ 奉天千代田通一五 西洋料理 精洋軒 井上駒吉 電話五七番	奉天三業組合有志 金六 奉天檢番 金龍亭 金城館 菊文 ／ 和洋料理 千代田食堂 奉天千代田通二 電話一四一六番 ／ 支那料理 千成 奉天住吉町八 電話一四九五番	奉天春日町八番地 私書函奉天局六六 電話三一、一七二一番 合名會社 森洋行 代表社員 森直三郎 社員 森正二 社員 森捨三
奉天南滿站中華商務會	東三省官銀總號								

東北陸軍歩兵第十五旅々長 東省鐵路護路軍哈滿司令 黒龍江省安泰鎭守使 梁忠甲	東省鐵路護路軍哈滿司令部參謀長 賈金銘	東北陸軍歩兵第三十二團々長 陳鴻猷	東北陸軍歩兵第三十八團々長 孫鴻裕	田中文一郎	淸水忠藏	豐田俊治	滿洲里領事館警察署長 小谷定太郎	福島力雄	高濱文市	白石茂七	滿洲里驛 通關業 加島甲子太郎	稻田梅壽	貿易商 北浦洋行	小出醫院

黒龍江省安泰鎭守使署參謀長 東北陸軍第十五旅中校參謀 呉景安	黒龍江省安泰鎭守使署 軍法官 劉超	東省鐵路護路軍哈滿司令 軍法官 田樹桂	黒龍江省安泰鎭守使署 副官長 張承式	黒龍江省安泰鎭守使署 軍需官 趙家賛	平島七助	雜貨商池田商店 質商福泰號 池田平八郎	井上商會支店 池田平之助	藥種商旭昇號支店 藤井健吾	木材商 岩見福造	ジャパンツーリスト・ビューロー滿洲里分局 三浦龜忠 林田孝明	東洋倶樂部 撞球・射的・木工・豆腐 中川金三郎	大正旅館 柿久重一郎	福助堂 橋口淸次郎	御料理 春日樓	御料理 福壽樓 見分與吉	御料理 徳榮樓 鐵本與市	御料理 朝日樓



千秋寛

久留島秀三郎

梅根常三郎

矢野耕治

鈴木義保

山崎英武

大尾袈裟助

日向新

矢澤邦彥

石川義助

野毛四郎

塚本良禎

三浦源七

叶井貫一

稅所壯吉

志村重二

林清勝

末宗繁市

木下梅之助

加藤弼

加藤政人

住吉長平

門井甦

不破保充

國分信雄

中村萬里

三重野勝

長澤富次郎

大町茂春

西田正人

岩田實

梶野稱善

蕃陰堂

李伪藩

警察署幹部一同

盛佐太郎

鞍山北三條町 有田洋行 電話四一九番

鞍山北二條町 鞍山タクシー 電話三三八番

鞍山北三條町 濱田樂器店 電話一三六番

鞍山北三條町 永井商會 電話四三八番

鞍山赤城町 北本靴店 電話三〇六番

鞍山北三條町 照陽寫眞館 電話一五一番

精牛肉商 鞍山北二條町 協信洋行 電話一四九番

生菓子、薄茶羊羹商 東京堂 鞍山敷島町 電話三七九番

鞍山永樂町 扇屋旅館 電話一四〇番

鞍山北三條町 金城商會 電話二九番

鞍山北三條町 相谷商店 電話二三五番

金物商 鞍山北二條町 福井洋行 電話三三一番

雜貨商 鞍山北二條町 大惠商店 電話一二六番

藥種商 鞍山北二條町 木澤一心堂 電話四〇一番

生菓子商 鞍山赤城町 八雲堂 電話二六四番

菓子商 鞍山北三條町 小原洋行 電話三〇九番

食料品雜貨商 鞍山北二條町 〇國洋行 電話二二三番

鞍山驛前 近江屋ホテル 電話三二八番

鞍山敷島町 やまき呉服店 電話一二一番

會席御料理 鞍山柳町 開福 電話三〇番

會席御料理 鞍山柳町 橘家 電話三五五番

會席御料理 鞍山柳町 一樂 電話一二七番

會席御料理 鞍山柳町 一力 電話二二〇番

演藝館 館主 西野治三郎 電話二七〇番

鞍山北三條町 滿洲購買組合 電話五四番

會席御料理 鞍山柳町 明月樓 電話四四七番

西洋料理支那料理 鞍山赤城町 〇本 電話三四一番

生菓子商 鞍山赤城町 菊水堂 電話一九九番

食道樂 鞍山北二條通 銀蝶 電話二一二番

鞍山敷島町 山一酒店 電話二七七番

會席御料理 鞍山柳町 奴 電話一四番

會席御料理 鞍山柳町 開花 電話二一一番

鞍山不動產信託株式會社

滿洲興業株式會社

南滿洲電氣株式會社鞍山支店
電話一五・六三番

滿洲土木建築業組合鞍山支部
伊賀原組　野毛商會
長谷川組　久保田組
東洋コンプレッソル出張所　山崎英武工務所
千輪工務所　福井組
大倉組　福井高梨組
笠原組　坂本組
叶井商會　志岐組
高岡久留工務所　白川組

滿洲蠶業公司鞍山苗甫事務所
電話二六七番

石川醫院
渥美醫院
田邊齒科醫院
早川齒科醫院

鞍山菓子商組合

謹賀新年
◎ミツワ石鹼
夙くより輸入防遏に成功せる◎ミツワ石鹼は、固より我が邦化學工業界の華たり。即ち不斷の研究は不斷の向上を生み今や海外への輸出亦旺盛なるを見る。茲に歲新たなると共に更に一層の努力を誓ひ、併せて更に一層の御愛用を待つ
本舖　東京　◎丸見屋商店